

富山市埋蔵文化財調査報告 80

# 富山市内遺跡発掘調査概要XVI

— よし づくり 遺 跡 —

2016

富山市教育委員会

富山市埋蔵文化財調査報告 80

# 富山市内遺跡発掘調査概要 XVI

— 吉作遺跡 —

2016

富山市教育委員会

## 例　　言

- 1 本書は、平成 25 年度に実施した個人住宅建築に先立つ吉作遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査及び整理調査は、富山市教育委員会が国庫補助金・県費補助金の交付を受けて実施した。
- 3 調査の期間、発掘面積、調査担当者は次のとおりである。

遺跡所在地	富山市住吉地内
発掘調査期間	平成 25 年 12 月 5 日～12 月 27 日
調査面積	65.82m <sup>2</sup>
担当者	細辻嘉門（富山市教育委員会 埋蔵文化財センター 主査学芸員） 三上智丈・中野喬介（以上同嘱託）
整理調査期間	平成 27 年 10 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
担当者	細辻嘉門 三上智丈・納屋内高史
- 4 現地発掘調査及び整理調査に際し、下記の諸氏・諸機関のご指導・ご協力をいただいた。記して謝意を表します（五十音順、敬称略）。

住吉町内会、富山県教育委員会生涯学習・文化財室、富山県埋蔵文化財センター、堀沢祐一
- 5 出土遺物・原図・写真類は富山市教育委員会が保管している。
- 6 本書の執筆は細辻、三上、納屋内が行った。各々の文責は文末に記した。編集は細辻が行った。
- 7 平成 25 年度に刊行した富山市教育委員会 2014『富山市内遺跡発掘調査 X I 一北代村巻 V 遺跡友坂遺跡 吉作遺跡一』富山市埋蔵文化財調査報告 61 と本書の内容が異なる場合は、本書に掲載された内容をもって正式な報告とする。

## 凡　　例

- 1 本書で用いた座標は世界測地系である。挿図の方位は真北、水平基準は海拔高である。
- 2 層序および遺物観察表で記載した色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖 1995 年版』に拠る。
- 3 遺構記号は、溝： S D、土坑： S K、ピット： S P、その他の遺構： S X を用いた。
- 4 図中の網掛けは、次のとおりである。

地山 

赤彩 

## 目 次

第1章 調査の経過	
第1節 調査にいたる経緯	1
第2節 発掘作業及び整理等作業の経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3 ~ 4
第3章 調査の方法と成果	
第1節 調査の方法	7
第2節 層序	7
第3節 遺構	7 ~ 10
第4節 遺物	19 ~ 23
第4章 総括	49 ~ 50
引用・参考文献	50 ~ 51
報告書抄録	65

## 挿 図 目 次

図1 調査区位置図	2	図14 出土遺物実測図(3)	26
図2 調査区周辺の地形	2	図15 出土遺物実測図(4)	27
図3 周辺の遺跡分布図	5	図16 出土遺物実測図(5)	28
図4 試掘トレンチ位置図・柱状図	11	図17 出土遺物実測図(6)	29
図5 調査区全体概略図・基本層序模式図	12	図18 出土遺物実測図(7)	30
図6 遺構平面図・断面図・遺物出土状況図	13	図19 出土遺物実測図(8)	31
図7 遺構平面図・断面図	14	図20 出土遺物実測図(9)	32
図8 遺構平面図・断面図・遺物出土状況図	15	図21 出土遺物実測図(10)	33
図9 遺構平面図・断面図	16	図22 出土遺物実測図(11)	34
図10 遺構平面図・断面図	17	図23 出土遺物実測図(12)	35
図11 遺構平面図・断面図	18	図24 出土遺物実測図(13)	36
図12 出土遺物実測図(1)	24	図25 出土遺物実測図(14)	37
図13 出土遺物実測図(2)	25	図26 出土遺物実測図(15)	38

## 表 目 次

表1 遺構一覧表	10	表2 ~ 12 遺物観察表	39 ~ 48
----------	----	---------------	---------

## 写 真 図 版 目 次

写真図版1 調査区周辺の航空写真	6	写真図版8 出土遺物 3	58
写真図版2 遺構 1	52	写真図版9 出土遺物 4	59
写真図版3 遺構 2	53	写真図版10 出土遺物 5	60
写真図版4 遺構 3	54	写真図版11 出土遺物 6	61
写真図版5 遺構 4	55	写真図版12 出土遺物 7	62
写真図版6 出土遺物 1	56	写真図版13 出土遺物 8	63
写真図版7 出土遺物 2	57	写真図版14 出土遺物 9	64

## 第1章 調査の経過

### 第1節 調査にいたる経緯

吉作遺跡（遺跡番号 2010111）は、昭和 51 年 3 月に富山市教育委員会（以下：市教委）が刊行した『富山市遺跡地図』には No.75 として設定され登載されており古くから知られた遺跡である。平成 5 年市教委が刊行した『富山市遺跡地図（改訂版）』には、遺跡 No.201323 として掲載・周知された。平成 25 年度の遺跡地図改訂により現在の遺跡番号となった。現在の埋蔵文化財包蔵面積は 2,500m<sup>2</sup>である。

平成 25 年 10 月 9 日、富山市住吉地内において、個人住宅建設について埋蔵文化財包蔵地の所在確認依頼があった。建設予定地全域 391m<sup>2</sup>が吉作遺跡に含まれていたため、同年 11 月 5 日に市教委で試掘調査を実施したところ、縄文時代の遺物包含層と土坑・ピットなどを検出し、縄文土器、須恵器が出土した。建設予定地全域に埋蔵文化財の所在を確認したため、試掘調査の結果に基づき、工事主体者と建設にかかる埋蔵文化財の取扱いについて協議を行った。協議の結果、宅地の外周部分の擁壁工事計画が遺構検出面よりも深く、埋蔵文化財を現地で保存することができないため、擁壁工事部分 65.82m<sup>2</sup>について発掘調査を行い、記録保存することとなった。

文化財保護法 93 条第 1 項に基づく埋蔵文化財発掘の届出は、工事主体者から平成 25 年 10 月 30 日付けで市教委へ提出され、市教委の副申を付けて平成 25 年 11 月 7 日付け埋文第 313 号で富山県教育委員会へ提出した。

文化財保護法 99 条第 1 項に基づく埋蔵文化財発掘調査の報告は、富山市教委から平成 25 年 12 月 12 日付け埋文第 313 号により富山県教育委員会へ提出した。

### 第2節 発掘作業及び整理等作業の経過

発掘作業は土木会社に掘削業務を委託し、埋蔵文化財センター職員が現地に常駐して発掘調査の監理にあたった。調査着手前に業務を受託した会社、ハウスメーカーと調査が必要な範囲について現地確認を行い、発掘調査区を設定した。

発掘作業は平成 25 年 12 月 5 日から同年 12 月 27 日まで行なった。

表土掘削は平成 25 年 12 月 5 日に開始し、バックホウを用いて行った。掘削した表土は調査区外の敷地内に横置きした。12 月 6 日に表土掘削を完了した。

表土掘削完了後、12 月 9 日から、人力による遺物包含層掘削を開始した。包含層掘削の際、遺物は任意に 5 m グリッドを設定し、グリッドごとに取り上げた。試掘調査結果では遺物包含層が調査区北西に向かって厚く堆積することが確認されていたが、掘削作業を始めると、激しい湧水により、掘削作業は困難を極めた。包含層掘削作業が完了した部分から遺構検出作業を行い、その後遺構掘削作業を開始した。遺構掘削作業と並行して隨時写真撮影・測量・図面作成作業を行った。

12 月 26 日には遺構掘削を終え、高所作業車による全景写真を撮影した。12 月 27 日に撤収作業を行い、現地調査を完了した。

現地調査終了後、遺物洗浄、注記、接合などの基礎整理作業を平成 26 年 3 月末まで埋蔵文化財センター行い、平成 25 年度に『富山市内遺跡発掘調査 X I 一北代村巻 V 遺跡 友坂遺跡 吉作遺跡一富山市埋蔵文化財調査報告 61』で遺構の概略と、代表的な遺物の写真を掲載して概要報告として刊行した。

整理調査および発掘調査報告書作成は、埋蔵文化財センターで平成 27 年 10 月 1 日から作業を開始し、整理作業員を雇用して出土遺物の図化、トレース作業を行った。遺物写真はデジタルカメラ（2400 万画素）を使用し撮影した。これらの作業と並行して原稿作成を行い、平成 28 年 3 月 31 日に本書を刊行し、調査を完了した。



図1 調査区位置図 (S=1/2500)

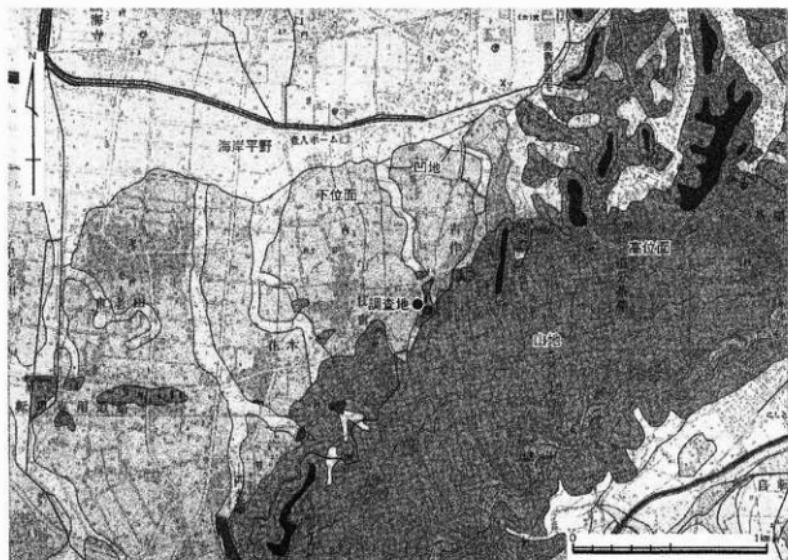


図2 調査区周辺の地形 (S=1/25000 国土地理院 2007 に加筆)

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

富山市は富山県のほぼ中央部に位置する。富山市の地勢は、大まかに山間部と平野部に大別され、南が高く、北が低くなるという地勢を示しており、海岸から標高3,000m級の高山地帯までバラエティに富む。

富山平野は富山県中央部の大部分を占めており、北は富山湾に面し、東端は早月川扇状地、西端は県のほぼ中央を二分する呉羽丘陵に、南は飛驒山地から続く丘陵に接する。神通川・常願寺川とその支流が形成した扇状地や低位面・氾濫平野の発達が顕著である。

吉作遺跡（図3-1）は、富山市街地から西方約5kmの富山市西部、富山市住吉・吉作地内の東西60m、南北100mに広がる縄文・奈良・平安の集落・窯跡である。

今回調査区の所在する住吉地区は、富山湾から6km内陸に入った、呉羽丘陵西麓の下位面、浅い谷、凹地、山地上に立地する（図2）。

呉羽丘陵は、東側麓に「呉羽山断層」が存在し、東側斜面は急傾斜、西側斜面は緩傾斜地形となる。地区周辺一帯の地形は、東は最高所を城山（標高1453m）とする呉羽丘陵の山地や高位面があり、北西に向かって傾斜し下位面を形成する。現在は一見平坦に見えるが、下位面には呉羽丘陵を源流とする小さな開析谷が無数に入り込み、放生津潟に向かって流れ込んで多くの馬背状丘陵地形と谷底平野を発達させている。また、地区の南方には「境野新扇状地」と呼ばれる旧扇状地が存在し、幅の狭い谷や水流が認められる。

住吉地区のほぼ中央を、主要地方道富山戸出小矢部線が北東から南西に貫き、地区の南西2.0kmで主要地方道富山小杉線と交差する。地区の北方1.3kmには、あいの風富山鉄道が東西に走っている。主要地方道新湊平岡線と呉羽丘陵の間には道に沿って家々が建ち並んでいる。米軍が1946年に撮影した航空写真（図版13）を見ると、当時は丘陵地帯に畠地がひろがり、平地には水田が広がるのどかな耕作地であった。また江戸時代には谷地形を利用して多くの灌漑用溜池が作られ、多くは開発や造成工事のため埋め立てられたが、現在でも大小10あまりの溜池が残っている。調査区のすぐ南東にも、柿ノ木原池が現存する。南西1.6kmには、動物たちとの触れ合いの場として富山市ファミリーパークがある。また南西1.2kmには富山市ガラス造形研究所や富山市ガラス工房があり、芸術創造の場として利用されている。地区の南南西3.0kmには富山大学医学部付属病院があり、中核病院として地域医療を担っている。

近年は、高速道路やインターチェンジなどがあり利便性が高いため、幹線道路沿いには店舗が建てられ、富山西インター・インターチェンジの周辺には企業団地が開発されるなど、土地利用はかつてののどかな耕作地からかなり変化している。

今回の調査地は住吉地区東端の旧凹地上、遺跡の中央に位置する。調査前の現況は畠地として利用されていた。調査区付近の標高は約16mで、西に向かって緩やかに傾斜する。

### 第2節 歴史的環境

吉作遺跡を中心として、呉羽丘陵一帯の遺跡について概観する。

本遺跡では昭和61年度に今回調査区の北で宅地造成に伴う試掘調査を行い、縄文時代後期の堅穴建物・土坑を検出し、縄文土器・石器・須恵器が出土した。遺構は現地に保存された。〔富山市教委1987〕。

本遺跡が立地する呉羽丘陵西麓一帯は、旧石器時代から中世まで遺跡の分布が濃密である。

境野新遺跡（2）では、東山系石刃技法の技法で作られたナイフ型石器が出土した。向野池遺跡では、

瀬戸内系横長剥片剥離技法による剥片が出土した〔富山市教委 2000a〕。このほか杉谷H遺跡、古沢遺跡（3）、古沢A遺跡（4）などで石器が出土した。

引き続き縄文時代にも各時期にわたって遺跡が見られる。本遺跡の南南西 1.8km にある古沢遺跡では、縄文時代前期の貯蔵穴を検出した〔富山市教委 1977〕。半岡遺跡では前期の集落を検出した。開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡では、縄文時代中期の集落を検出した。射水丘陵東端の丘陵上に営まれた中核的集落をまるごと発掘調査し、竪穴建物 75 棟、大型の掘立柱建物を確認し、コハク玉が出土した。北押川B遺跡でも中期の遺構・遺物がある。後・晩期には、開ヶ丘中山I遺跡で、縄文時代後期後半の竪穴建物 3 棟、縄文時代晚期後葉の竪穴建物 4 棟を検出した〔富山市教委 2003〕。古沢遺跡では、竪穴状造構から大洞A式期併行の土器が出土した。古沢A遺跡では巨大柱穴を検出した〔富山市教委 1983a〕。このほか野下・新開遺跡や杉谷 64 番遺跡（5）、杉谷 81 番遺跡（6）でも晩期の遺構・遺物を確認した。

弥生時代に入ると、初期農耕に不適なためか、前期～中期の遺跡の分布は低調で、遺物が散発的に出土する程度である。後期初頭に入ると、向野池遺跡では竪穴建物を検出し、東北地方に多く分布する天王山系の土器が出土した〔富山市教委 2006〕。後期後半には、白鳥城（7）で高地性集落を検出した〔富山市教委 1983b〕。弥生時代後期後半から終末期になると、遺跡数が増加する。平野には砂川カタダ遺跡（8）などの集落がある〔富山市教委 2011〕。丘陵上には杉谷A遺跡（9）で方形周溝墓群などを検出した〔富山市教委 1975〕。

続く古墳時代前期には四隅突出墳の杉谷 4 号墳を含む杉谷古墳群（10）が築かれた〔富山市教委 1974〕。古墳時代中期には、境野新遺跡・東老田 I 遺跡（11）などに集落が営まれ、前方後円墳の古沢塚山古墳が築かれた。古墳時代後期には、平野に面した崖面に金屋陣ノ穴横穴墓（12）が作られた〔富山市教委 1976〕。

古代には遺跡周辺から射水丘陵東部にかけては、飛鳥・奈良・平安時代の越中における手工業生産（製陶・製鉄・製炭）の中心地帯となり、遺跡の周囲には生産遺跡が集中する。本遺跡の南西 0.7km には飛鳥時代に操業された県史跡の金草第一古窯跡（13）がある〔富山市教委 1970〕。奈良時代には南西 1.5km に位置する古沢・西金屋窯跡群（14）が広がり、大量の須恵器が出土した。西金屋窯跡では、平成 5 年に市道改良工事の際に須恵器窯跡を検出した。出土遺物の中には、四脚をもつ円面鏡が 2 個ある。大形で、官衙的性格の施設に供給された可能性がある〔富山市教委 2000b〕。このほか、西金屋遺跡では、緩斜面上に奈良時代の土師器焼成遺構や集落が検出されている。古沢・西金屋窯跡群から西金屋遺跡にかけては、旧谷地形沿いに傾斜を利用して須恵器窯が操業し、丘陵には、緩斜面上に土師器焼成遺構が広がり、丘陵頂部に集落が立地していたと考えられる。向野池遺跡では、両面窓の大形掘立柱建物が検出された。生産遺跡を管理する公的な建物であると考えられている〔富山市教委 2006〕。本遺跡の南西 2.5km には市史跡柄谷南遺跡がある。8 世紀に操業した瓦陶兼業窯で、須恵器・土師器・製鉄関連の遺物のほか 200 点以上の軒丸瓦が出土した。古代越中における窯業生産の歴史や仏教文化の浸透の様相を解明する上で重要な遺跡である〔富山市教育委員会 2002c〕。仏教関連の遺物では、向野池遺跡で瓦塔が出土した〔富山市教委 2002a〕。花ノ木 C 遺跡（15）では、奈良時代の溝から人形・斎串が出土し、律令祭祀が行われていた〔堀沢 2004a〕。

中世～近世の遺跡としては、吳羽丘陵頂部に白鳥城が築かれ、豊臣秀吉が佐々成政攻略の際、前田氏が拠点にしたとされる〔富山市教委 1981〕。井田川左岸には大畠城や安田城（16・国史跡）が築かれ、同じく佐々成政攻略の際の出城として、前田氏の家臣が入城した。中世の集落としては鎌倉～室町時代の金屋南遺跡（17）がある。溝で区画された計画的構造の集落で、掘立柱建物、井戸跡、畠跡、道路跡や製鉄関連遺構を検出した。白鳥城や大畠城、安田城の中間に位置するため、関連が推察できる〔富山市教委 2007〕。



図3 周辺の遺跡分布図 (S=1/25000)



写真図版1 調査地周辺の航空写真（1952年米軍撮影 上が北）▲印の交点が調査地

## 第3章 調査の方法と成果

### 第1節 調査の方法

発掘調査は、最初に試掘調査の結果をふまえながら耕作土を遺物包含層直上までバックホウにより掘削・除去した。その後、遺物包含層から人力による掘削を行った。調査区西側部分はバックホウで地山面まで掘削したところ、後世の造成工事と思われる搅乱土が厚く堆積し、遺構が残っていないことを確認したため、機械掘削のみで調査を完了した。

調査区全体に遺物包含層が厚く堆積していたため、スコップ等を使用し包含層掘削を行った。遺物包含層掘削を完了した部分から引き続いて遺構検出・遺構掘削を行った。調査区の幅が0.5～1.0mと狭いため、各遺構断面は、調査区内に点在するピット・小規模土坑を除き、遺構掘削完了後、調査区壁面で観察し、断面を写真と図面に記録した。ピット・小規模土坑は半截した後、断面を写真と図面に記録し、人力にて完掘した。遺物が出土した遺構は、遺物が多く集中して出土した遺構について、遺物出土状況を写真と図面に記録した後、遺物を取り上げて完掘した。遺物は、トータルステーションを使用して出土位置と高さを記録した。

測量基準点は、国家座標第V系を使用した。図面は、トータルステーションを使用して、平面図・断面図は縮尺20分の1、遺物出土状況図は縮尺10分の1にて作成した。

カメラは現地調査ではデジタルカメラ・プローニー(6×7)サイズを使用し、フィルムはカラーリバーサルと白黒を使用した。遺物写真は、デジタルカメラ(2400万画素)を使用した。(総辻)

### 第2節 層序(図4)

調査区の基本層序は、調査区壁面を用いて観察した。調査区の土層は、調査区一部で見られた梨の木の植樹や造成工事等による搅乱を除き、大まかに以下の3つの層に分類できる。今回の調査では、II層の上面で遺構検出を行った。同一検出面のため、出土遺物のない遺構は時代を特定できなかった。

I層：暗褐色粘質土(耕作土・表土)

I-②層：黒褐色粘質土(遺物包含層・遺構埋土)

II層：にぶい黄橙色粘土・砂質土(地山)

なお、調査区の周辺地域では現在、梨の植樹をしており、これらを棚立て(果樹の整枝法の一。竹・木・針金などで網の日のように棚を作り、果樹の枝をその棚に沿わせる:「大詠林」)とよばれる植樹方法で栽培しているため、これらの枝や樹を保持するための棚を固定するセメントブロックが調査区内に埋まっていた。また、この植樹方法が原因と思われる搅乱を調査区内で確認した。調査区内では至る所で湧水が発生しており、特に調査区西側及び北西側は湧水が著しかった。

### 第3節 遺構(図4～11、表1、図版2～5)

検出した遺構は、縄文時代後期中葉から晩期の旧谷地形、土坑、溝、ピットがある。これらの遺構は前述の調査区西側を除いて、調査区全域でまんべんなく検出した。また、調査区東側で確認した遺構は生活道路に面しており、遺構の一部が、搅乱を受けていた。

さらに、調査区の幅が0.5～1.0mと狭く、前述の湧水に加えて、発掘調査期間内には悪天候が続いたため、遺構検出作業は困難を極めた。これらの理由から、ピット以外は遺構の種別・大きさなどの全容は明確に確認できなかった。

#### 1 旧谷地形 SX01(図6)

調査区北西側で検出。検出長1.0m、検出幅15.0m、深さ1.25mである。南東から北西に向かって

流れる旧谷地形である。遺構の北側および南側は調査区外であり、全容は不明である。平面形は不明。断面形は部分的に凹凸があるが、全体的に舟底形である。遺構埋土は2層である。上層は黒色粘質土に炭化物等を含む。下層は黒褐色砂質土に地山の土が縞状に混じり、締り良である。遺構埋土から縄文時代後期中葉～晚期中葉の土器・有孔球状土製品、有頸石棒、石刀、磨石、剥片が大量に出土した。ただし、遺物の出土する高さは一定ではなく、縄文時代後期中葉～晚期中葉を通じて埋土が堆積したと考えられる。遺構の主体時期は縄文時代後期後葉から晚期中葉まで継続したと考えられる。

この遺構の南東側の試掘1トレンチ（図4）では、GLから深さ80～100cmで地山層に達し、断面観察では、トレンチ壁面にSX01と同様の縄文土器を含む埋土を確認した。従って、谷地形は少なくとも南東方向に広がる可能性が高い。

## 2 土坑

SK03（図6・7） 調査区北側中央で検出。検出長1.0m、検出幅7.0m、深さ1.0mである。遺構の北側および南側は調査区外であり、全容は不明である。平面形は不明。断面形は部分的に凹凸があるが、全体的にU字形である。遺構埋土は一部攪乱を除き、2層である。上層は黒色粘質土に炭化物等を含み、下層は黒褐色砂質土に地山の土が縞状に混じり、締り良である。遺構埋土から縄文土器、土偶脚部、石棒・剥片が出土した。主体時期は縄文時代晚期前葉と考えられる。

SK05（図8） 調査区北側中央で検出。検出長0.5m、検出幅5.0m、深さ1.0mである。遺構の北側および南側は調査区外であり、全容は不明である。平面形は不明。断面形は部分的に凹凸があるが、全体的にU字形である。遺構埋土は2層である。上層は黒色粘質土に炭化物等を含み、下層は黒褐色砂質土に地山の土が縞状に混じり、締り良である。上・下層とも縄文土器、磨製石斧・磨石が出土したほか、包含層でイノシシ形歯面突起が出上した。主体時期は縄文時代晚期中葉と考えられる。

SK14（図9） 調査区南東側で検出。検出長0.8m、検出幅0.2m、深さ0.2mである。遺構の南側は調査区外であり、全容は不明であるが、平面形は梢円形を呈すると考えられる。断面形は不整形である。遺構埋土は黒褐色粘質土の単層である。主体時期は縄文晚期中葉と考えられる。

SK15・16（図9） 調査区南東側で検出。検出長6.0m、検出幅0.5m、深さ1.0mである。遺構の北側および南側は調査区外であり、全容は不明である。平面形は不明。断面形は部分的に凹凸があるが、全体的に緩いU字形である。遺構配置的にSK05に繋がる溝状遺構の可能性がある。遺構埋土は北側各所で攪乱されているが、基本的に遺構埋土は2層である。上層は黒色粘質土に炭化物等を含み、下層は黒褐色砂質土に地山の土が縞状に混じり、締り良である。SK15の上層からは縄文土器が、SK15の下層及びSK16からは縄文土器および須恵器甕が出土した。須恵器甕については、自然形状の落ち込みと思われる箇所での1点のみの出土である。出土状況からみて、本調査区外南側からの後世による流れ込みであると推定する。主体時期は縄文時代晚期前葉と考えられる。

SK17（図10） 調査区南側中央で検出。検出長0.6m、検出幅0.25m、深さ0.15mである。遺構の南側は調査区外であり、全容は不明であるが、平面形は不整形を呈すると考えられる。

断面形は台形である。縄文土器・古代土器が出土したが、遺構埋土には攪乱土が入り込むため、後世による攪乱の可能性もある。

SK18（図10） 調査区南西側で検出。検出長0.3m、検出幅0.4m、深さ0.2mである。遺構の北側および南側は調査区外であり、全容は不明であるが、平面形は直線を呈すると考えられる。断面形は不整形である。遺構埋土は黒褐色砂質土に地山ブロックが混じる単層である。縄文土器、焼粘土塊が出土した。主体時期は縄文時代後期と考えられる。

SK19（図10） 調査区南側中央で検出。検出長0.5m、検出幅1.1m、深さ0.45mである。遺構の

北側および南側は調査区外であり、全容は不明であるが、平面形は円形を呈すると考えられる。断面形は台形である。遺構の北東側および遺構埋土上層部は後世の搅乱を受けているが、遺構の南西側及び遺構埋土下層部は黒色粘土の単層である。縄文土器、焼粘土塊が出土した。

SK20（図10） 調査区南西側で検出。検出長0.7m、検出幅0.4m、深さ0.25mである。遺構の北側および南側は調査区外であり、全容は不明であるが平面形は楕円形を呈すると考えられる。断面形はU字形である。遺構埋土は締りの良い黒色粘質土の単層である。出土遺物はなかった。

SK21（図10） 調査区南西側で検出。検出長2.3m、検出幅0.3m、深さ0.05mである。遺構の北側は調査区外であり、全容は不明であるが平面形は直線を呈すると考えられる。断面形及び遺構埋土は遺構そのものが浅いため不明。出土遺物はなかった。

SK22（図10） 調査区南西側で検出。検出長0.8m、検出幅0.3m、深さ0.2mである。遺構の北側および南側は調査区外であり、全容は不明であるが平面形は不整形を呈すると考えられる。断面形はU字形である。遺構埋土は地山が粒状に入った締りの良い黒色粘質土の単層である。縄文土器が出土した。

SK23（図10） 調査区南西側で検出。検出長0.5m、検出幅0.3m、深さ0.2mである。遺構の南側は調査区外であり、全容は不明であるが平面形は不整形を呈すると考えられる。また、本遺構の南西側は後世の搅乱により破損している。断面形は台形である。遺構埋土は黒褐色砂質土の単層である。縄文土器が出土した。

SK26（図11） 調査区東側南寄りで検出。検出長0.5m、検出幅0.8m、深さ0.45mである。遺構の西側は調査区外であり、全容は不明であるが平面形は楕円形を呈すると考えられる。また、遺構の北東側は後世の搅乱により破損している。断面形はU字形である。遺構埋土は地山が粒状に入った黒色粘質土の単層である。またその層内では炭化物も確認した。縄文土器、剥片が出土した。

SK27（図10） 調査区南側中央で検出。検出長0.45m、検出幅0.35m、深さ0.35mである。遺構の南側は調査区外であり、全容は不明であるが、平面形は楕円形を呈すると考えられる。

断面形は不整形であるが、調査区南側壁面の観察による層位の明確な確認はできなかった。出土遺物はなかった。

SK28（図11） 調査区東側北寄りで検出。検出長0.5m、検出幅0.5m、深さ0.2mである。遺構の東側は調査区外であり、全容は不明であるが、平面形は円形を呈すると考えられる。断面形は台形である。遺構埋土はぶい黄褐色砂質土の単層である。縄文土器が出土した。主体時期は縄文時代後期と考えられる。後世による搅乱の可能性がある。

### 3 溝

SD06（図5） 調査区北東側で検出。検出長0.4m、検出幅0.5m、深さ0.1mである。遺構の北側および南側は調査区外であり、全容は不明であるが、平面形は直線を呈すると考えられる。南東から北西側に流れる溝である。断面形及び遺構埋土は遺構そのものが浅いため不明。出土遺物はなかった。

SD07（図5） 調査区北東側で検出。検出長0.4m、検出幅0.5m、深さ0.1mである。遺構の北側および南側は調査区外であり、全容は不明であるが、平面形は直線を呈すると考えられる。南東から北西側に流れる溝である。断面形及び遺構埋土は遺構そのものが浅いため不明。出土遺物はなかった。

SD29（図11） 調査区東側北寄りで検出。検出長0.5m、検出幅0.9m、深さ0.15mである。遺構の東側および西側は調査区外であり、全容は不明であるが、平面形は直線を呈すると考えられる。南西から北東側に流れる溝である。断面形は舟底形である。遺構埋土は地山が粒状に入った黒色粘質土の単層で炭化物の混入を確認した。縄文土器が出土した。

#### 4 ピット

**SP10 (図 11)** 調査区東側北寄りで検出。検出長 0.4 m、検出幅 0.3 m、深さ 0.2m である。遺構の西側は調査区外であり、全容は不明であるが、平面形は梢円形を呈すると考えられる。断面形は不整形である。遺構埋土は 2 層に分かれており、上層から黒褐色粘質土、地山がブロック状に入った黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。

**SP11 (図 11)** 調査区東側中央で検出。検出長 0.4 m、検出幅 0.5 m、深さ 0.1m である。平面は梢円形を呈する。断面形は舟底形である。遺構埋土は黒褐色粘質土の単層である。出土遺物はなかった。

**SP13 (図 9)** 調査区南東側で検出。検出長 0.45 m、検出幅 0.3 m、深さ 0.4m である。遺構の北側は調査区外であり、全容は不明であるが、平面形は円形を呈すると考えられる。断面形は U 字形である。遺構埋土は地山が粒状に入った黒褐色粘質土の単層である。縄文土器が出土した。

**SP24 (図 10)** 調査区南西側で検出。検出長 0.3 m、検出幅 0.3 m、深さ 0.3m である。遺構の北側は調査区外であり、全容は不明であるが、平面形は円形を呈すると考えられる。断面形は U 字形である。遺構埋土は上層部を SK21 により削平されるが、下層部は地山がブロック状に入った黑色粘質土の単層である。縄文土器、焼粘土塊が出土した。主体時期は縄文時代後期と考えられる。

**SP25 (図 11)** 調査区東側北寄りで検出。検出長 0.2 m、検出幅 0.15 m、深さ 0.15m である。遺構の西側は調査区外である為、全容は不明であるが、平面形は円形を呈すると考えられる。断面形は U 字形である。遺構埋土は繊りの良い黒褐色粘質土の単層である。出土遺物はなかった。

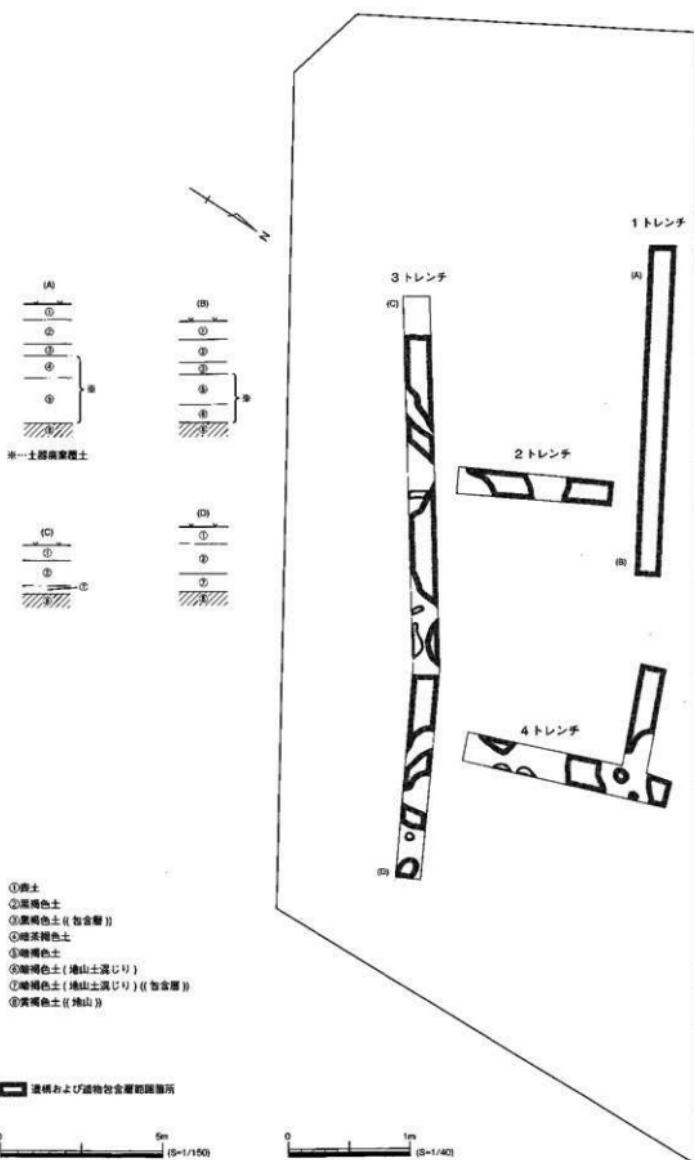
**SP30 (図 9)** 調査区東側南寄りで検出。検出長 0.3 m、検出幅 0.2 m、深さ 0.1m である。平面形は梢円形を呈する。断面形は台形である。遺構埋土は地山がブロック状に入ったにい黄褐色沙質土の単層である。縄文土器が出土した。後世による搅乱の可能性がある。

(三上)

番号	平面形態	検出長(m)	検出幅(m)	深さ(m)	断面形態	出土遺物	備考
SX01	不明	1.0	11.0	1.25	舟底形	縄文土器、有孔球状土製品、有頭石棒、石刀、磨石、刮片、炉石?	旧谷地形
SK03	不明	1.0	7.0	1.0	U字形	縄文土器(深鉢)、土偶(脚部)、石棒	SK01と一緒にする 旧谷地形か?
SK05	不明	0.5	5.0	1.0	U字形	縄文土器(深鉢) 星製石斧、磨石	
SD06	(直線)	0.5	0.4	0.1	不明		
SD07	(直線)	0.5	0.4	0.1	不明		
SP10	(梢円形)	0.4	0.3	0.2	不整形		
SP11	梢円形	0.4	0.3	0.1	舟底形		
SP13	(円形)	0.45	0.3	0.4	U字形	縄文土器	
SK14	(梢円形)	0.8	0.2	0.2	不整形	縄文土器	
SK15							
SK16	不明	6.0	0.5	1.0	U字形	縄文土器、須恵器(甕)	遺構内各所に復瓦 SK05に繋がる溝状 遺構か?
SK17	(不整形)	0.6	0.25	0.15	台形	縄文土器、土器	
SK18	(直線)	0.3	0.4	0.2	不整形	縄文土器、焼粘土塊	
SK19	(円形)	0.5	1.1	0.45	台形	縄文土器、焼粘土塊	北東側一部擾乱
SK20	(梢円形)	0.7	0.4	0.25	U字形		
SK21	(直線)	2.3	0.3	0.05	不明		
SK22	(不整形)	0.8	0.5	0.2	U字形	縄文土器	
SK23	(不整形)	0.5	0.3	0.2	台形	縄文土器	南西側一部擾乱
SP24	(円形)	0.3	0.3	0.3	U字形	縄文土器、焼粘土塊	SK21により上層部 を削平された遺構
SP25	(円形)	0.2	0.15	0.15	U字形		
SK26	(梢円形)	0.5	0.8	0.45	U字形	縄文土器、刮片	北東側一部擾乱
SK27	(梢円形)	0.45	0.35	0.35	(不整形)		
SK28	(円形)	0.5	0.5	0.2	台形	縄文土器	擾乱か?
SD29	(直線)	0.5	0.9	0.15	舟底形	縄文土器	
SP30	梢円形	0.3	0.2	0.1	台形	縄文土器	擾乱か?

表 1 遺構一覧表

注: 平面形態および断面形態の ( ) 表記は推定。



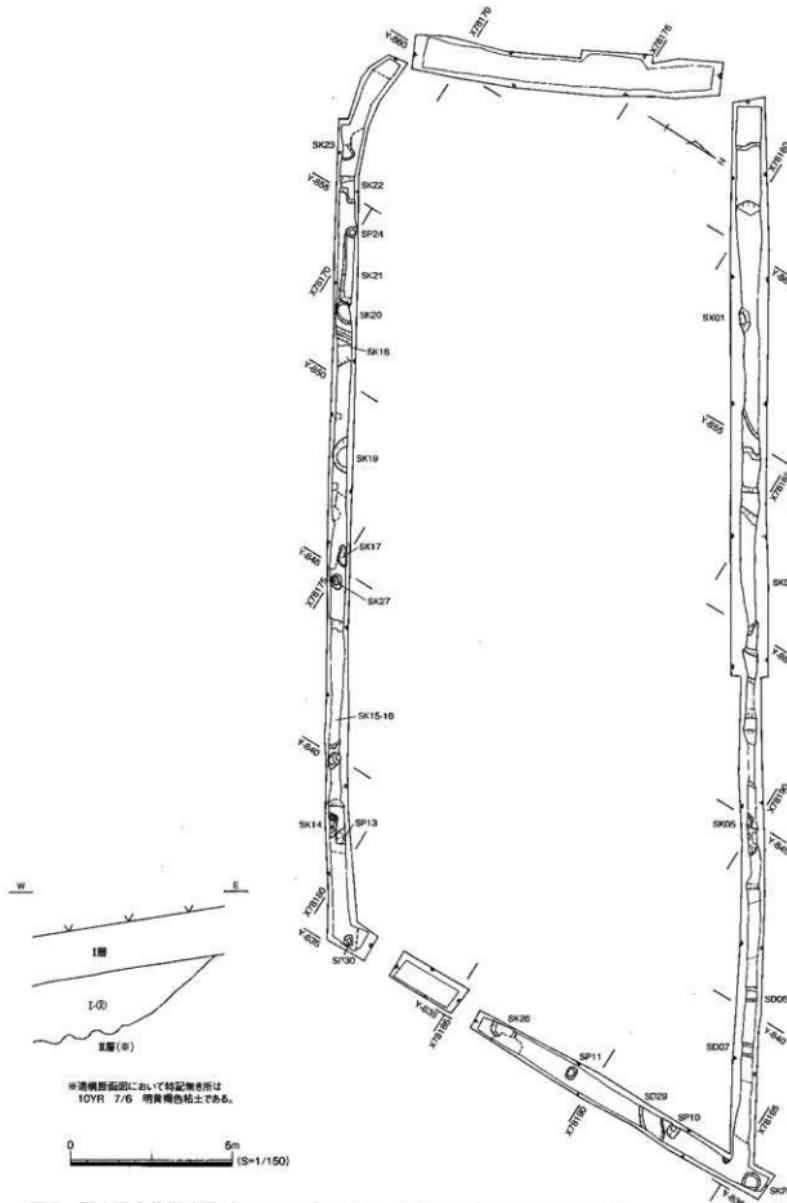


図5 調査区全体概略図 ( $S=1/150$ )・基本層序模式図 (深さのみ  $S=1/40$ )

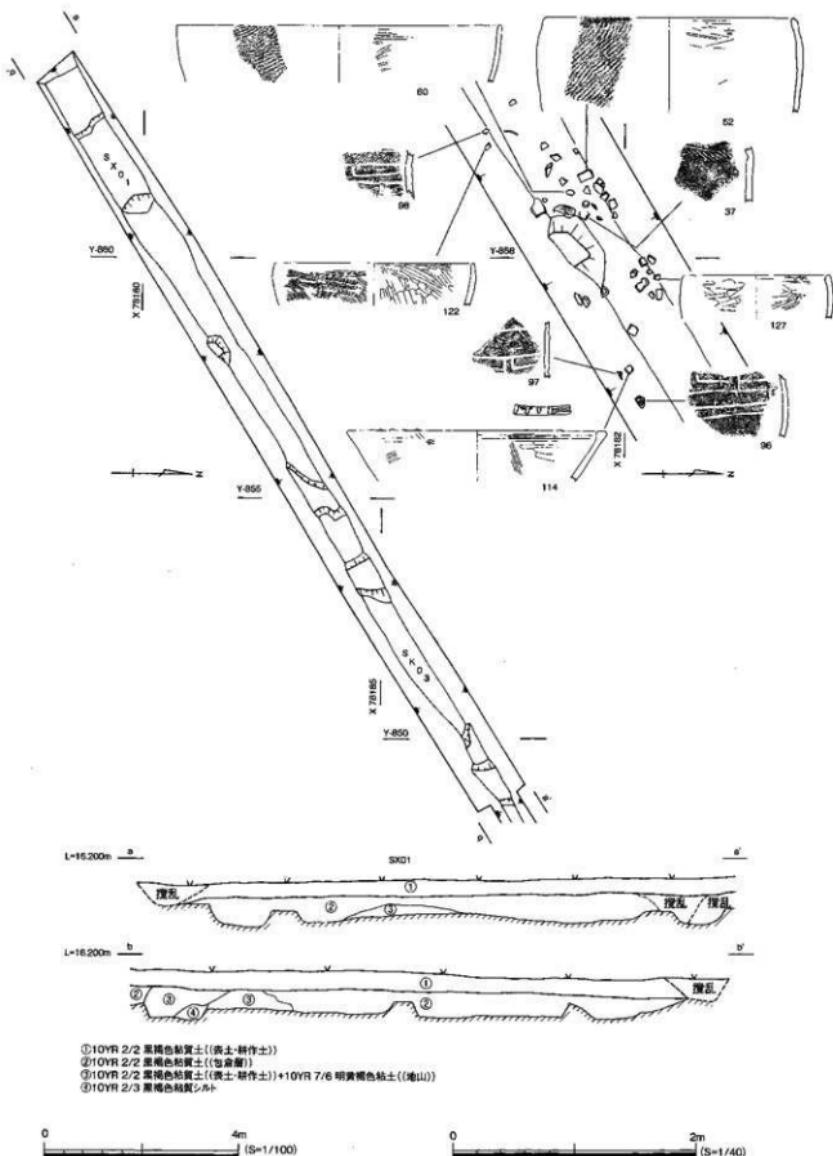
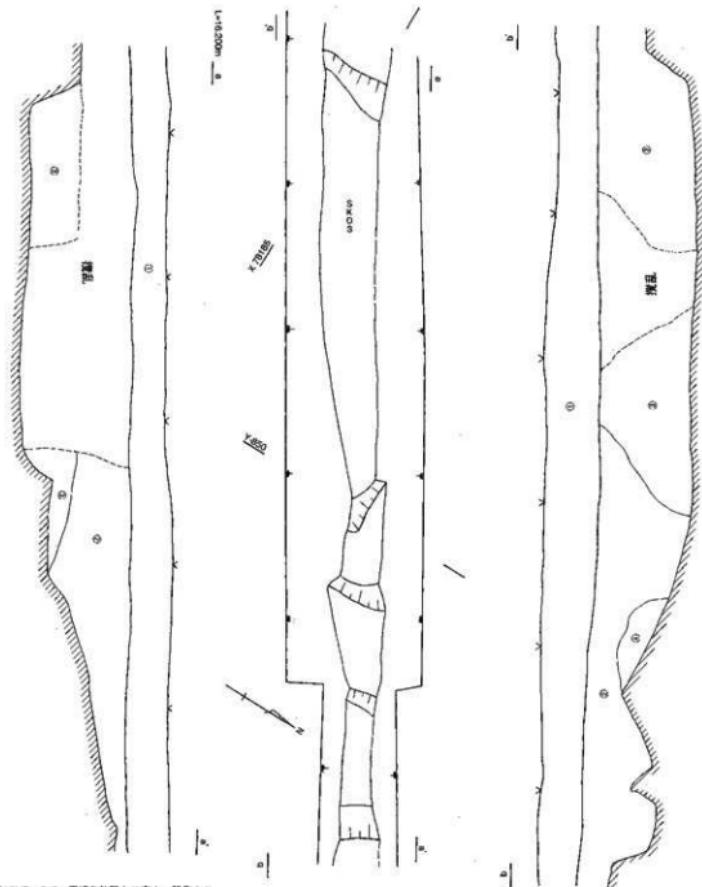


図6 通構平面図・断面図 (S=1/100) 遺物出土状況図 (S=1/40・遺物実測図は S=1/6)



- ①10YR 2/2 黒褐色粘質土((表土・耕作土))
- ②10YR 2/2 黒褐色粘質土((苔含層))
- ③10YR 2/2 黒褐色粘質土((表土・耕作土))+10YR 7/6 明黄色粘土((地山))
- ④10YR 2/3 黒褐色粘質シルト

0 2m (S=1/40)

図7 遺構平面図・断面図 (S=1/40)

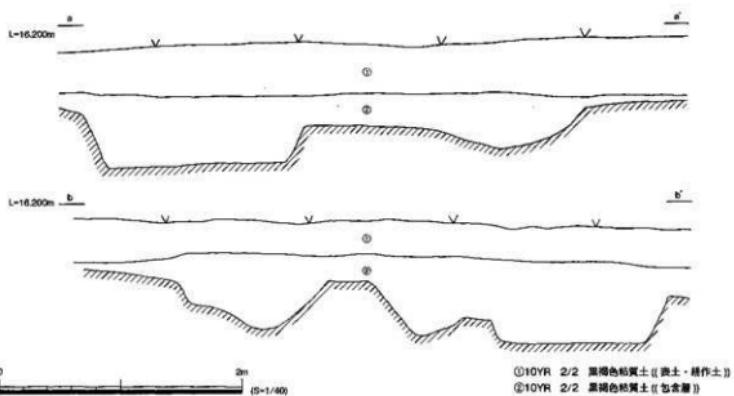
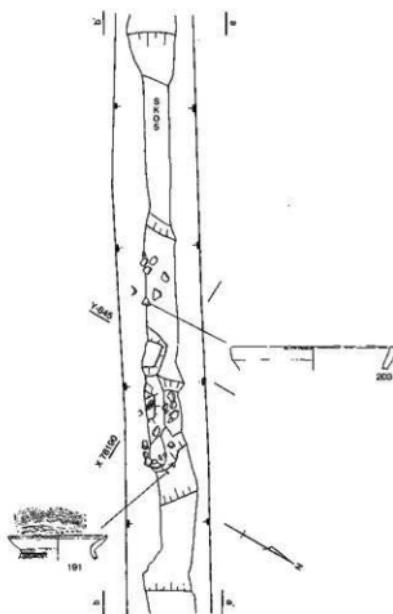


図8 遺構平面図・断面図・遺物出土状況図 (S=1/40)

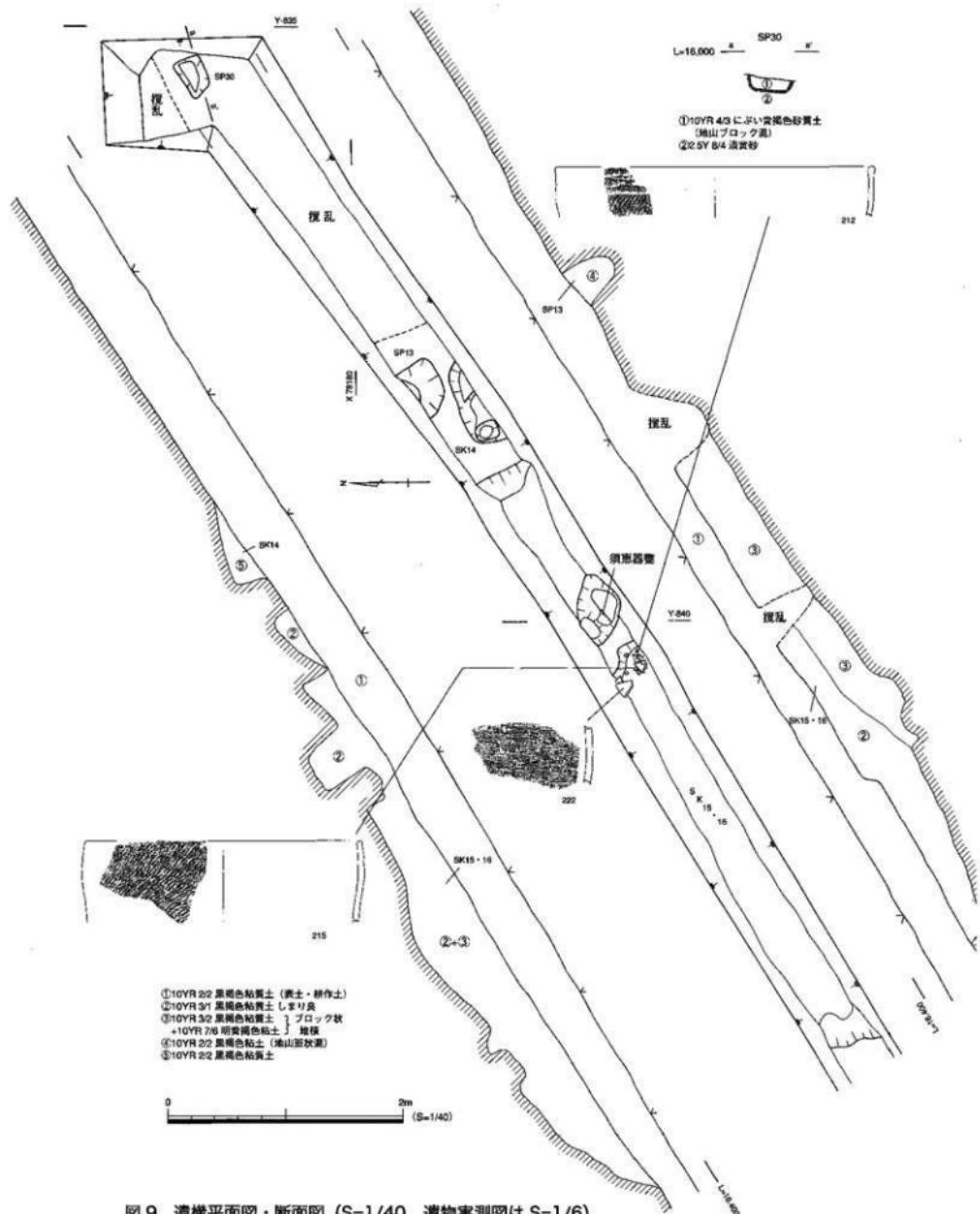


図9 遺構平面図・断面図 (S=1/40、遺物実測図は S=1/6)

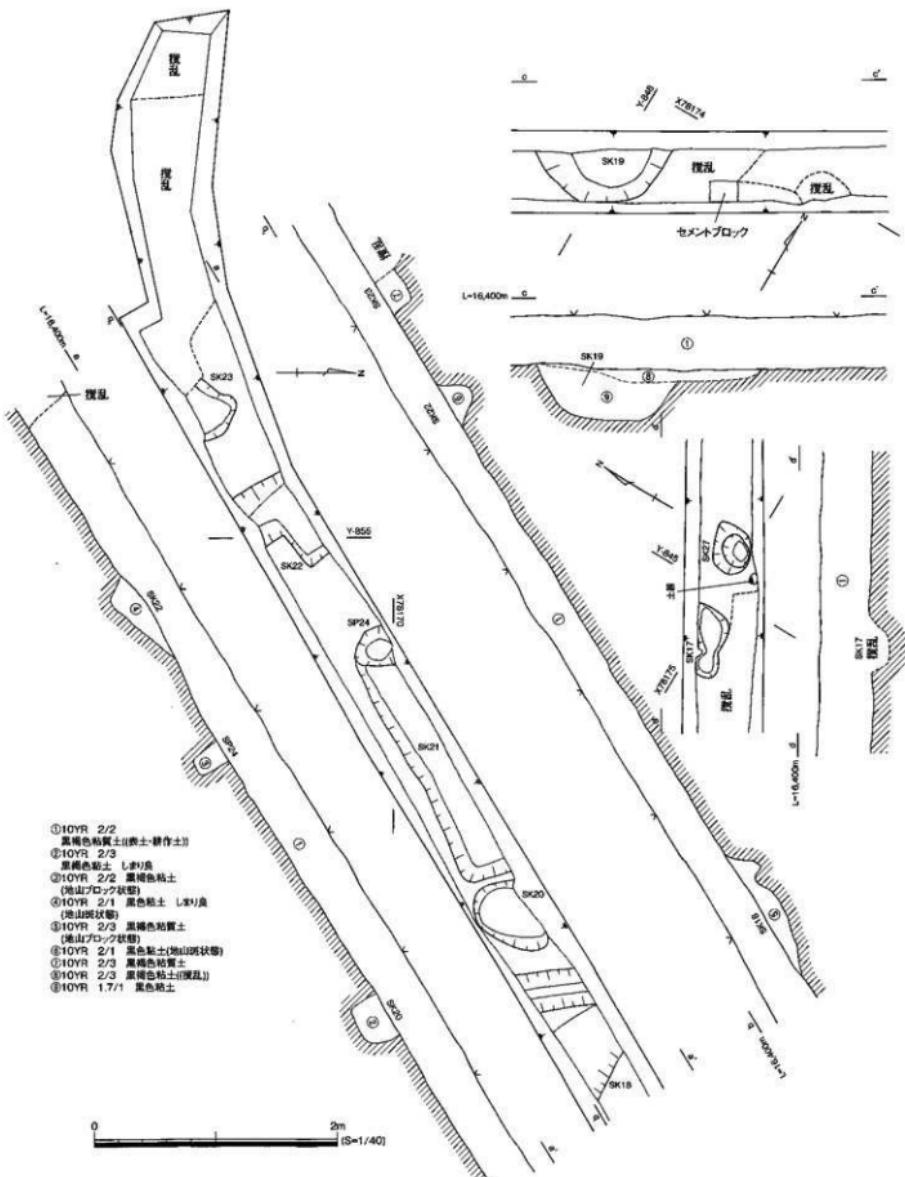


図 10 遺構平面図・断面図 (S=1/40)

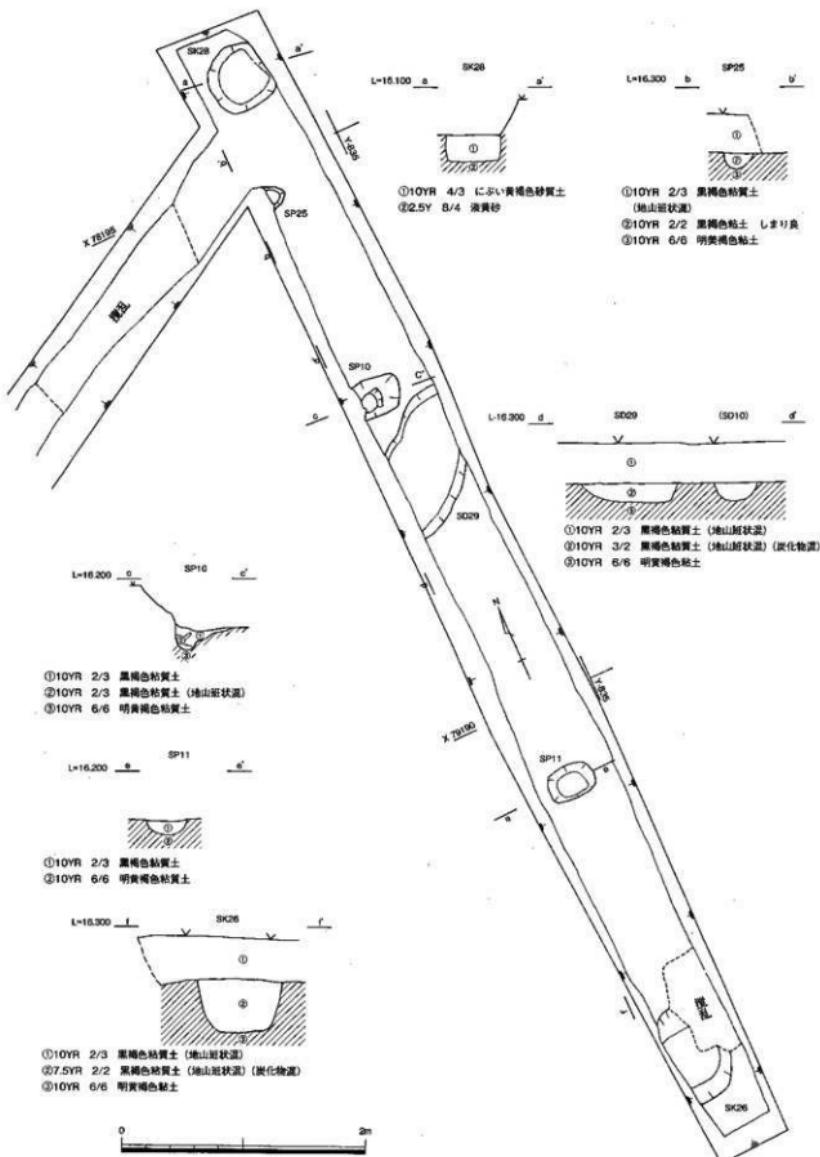


図 11 遺構平面図・断面図 ( $S = 1/40$ )

#### 第4節 遺物（図12～26、表2～12、写真図版6～14）

今回の調査では、縄文時代後期中葉から晩期の縄文土器・土製品・石器、須恵器がコンテナボックス（60cm×40cm×10cm）に換算して45箱出土した。大部分は調査区北西にあるSX01から出土した。縄文土器は遺構ごとに、土製品と石器はまとめて概要を記載する。

##### 1 縄文土器

###### SX01（図12～17、写真図版6～9）

1～63は縄文時代後期の土器である。1は単節縄文を斜めに施し、棒状工具で平行沈線を引いた後、平行沈線をC字状に区切る短線を施す。縄文は磨り消されない。2は文様体の下部はミガキ調整で縄文を磨り消す。3はC字状に区切る短線を交互に施す。4は短線が直線で文様帶が方形である。5と6は、棒状工具で楕円形に区切った部分に、縄文を充填する。7と8は口縁部分に縄文を残し、沈線より下部分の縄文を磨り消す。9は丸い波状口縁の口縁部に縄文を施した後、棒状工具で平行に沈線を2条引く。その他の部分はミガキを施す。口縁は内湾し、内面は波状口縁の下部分で段を形成する。10は平口縁で斜めに縄文を施した後2条沈線を引く。縄文は残る。11は10と同様の器形であるが、沈線部分以外はミガキを施し縄文を磨り消す。12と13は斜めに縄文施設後、12は口縁部に2条沈線、13は1条沈線を施し、沈線よりも口縁側は縄文を残して他は縄文を磨り消す。14は外反する器形の口縁端部を尖らせる。縄文を施した後、口縁部外面に板状工具で刻み、その他の外面には平行に沈線を施した後交互に縄文を磨り消す。15は縄文施設後、棒状工具で平行沈線とその間に背反弧線を施す。平行沈線部の下部には、縦に平行沈線を数条施設する。17は、縄文を縦に施設後、横位に沈線を引き、板状工具で沈線に向かって垂直方向の文様を施す。18は縄文を斜めに施設後、同じく垂直方向の文様を施す。14～18は、滑川市本江遺跡や金沢市米泉遺跡で酒見式とされるものに似る。19～28は羽状縄文系の土器である。19は羽状縄文を施した後沈線を2条引き、口縁部を残して縄文を磨り消す。口縁は丸く内湾する。20から24は羽状縄文を施した後、20と21は沈線を引き、22～24は沈線を引かないものである。25は体部で、羽状縄文施設後に平行沈線をひき、交互に縄文を磨り消す。26は口縁端部の羽状縄文を磨り消し、体部は縄文を残す。28は縄文施設後沈線を引く。丸い器形で注口土器の一部の可能性がある。29～32は撫糸文系である。32は撫糸文施設後、棒状工具で波状に沈線を引く。33から38は浅鉢の口縁部である。33は、内湾する口縁部に縄文を施設し、3条の平行沈線を引く。34は縄文施設後平行沈線を引き、交互に縄文を磨り消す。35は平行沈線を施文、36は屈曲部分に平行沈線を引き、その直下だけ縄文を残し、他はミガキで縄文を磨り消す。37も36と同様の文様である。39は球形の器形に方形の磨消縄文で文様帶を形成する。注口土器の一部か。40は波状口縁で全体をミガキ後、連続しない沈線を引く。41は突起が付き、三叉文風の沈線文がある。42は外傾する口縁部で口唇部にキザミを施し、屈曲する部分に2条平行沈線を引き、沈線の下に突起が付く。41と42は瘤付土器の系統か。43は口縁端部に楕円形の突起が付く。45は楕円形の文様が向き合う部分に穴がある。注口土器の一部か。46は屈曲する口縁部に3条の平行沈線を引き、三角形に区切る。43は胴部に平行沈線を3条引き、三角形に区切る。46と47は、井口式期である。48～63は粗製の深鉢である。48は口縁の縄文をナデ消す。49・50は口縁に指頭沈線を引く。51は口縁部だけ縄文を残す。52～61は外面全体縄文で、52は口縁端部を丸く取める。53～55は口縁端部がやや尖り外傾する。56は口縁端部が外反する器形である。57～61は口唇部を面取りするタイプで、57～59は緩やかに外傾しながらまっすぐ立ちあがる器形である。60と61はまっすぐ立ち上がりや内傾する。62は外反する器形で、口縁部内面を折り返す。折り返した部分に単節縄文を施す。その他の部分はナデ調整である。

64～134は縄文時代晩期の土器である。64～71は玉抱三叉文を描く。64は玉部分が入り組む。三叉文は沈線の延長線上である。玉抱部分の器壁を内側に押し込む。65は三叉文部分を彫り込むよう描く。三叉文は短く単独である。玉抱部分を赤彩する。70は波状口縁内側に玉抱三叉文を描く。三叉文は短く単独である。玉部分は丸く彫り込む。外面全体に縄文を施す。71はくの字の器形で、対向三叉文である。玉は描かれない。玉抱を意識しながら、玉を持たない文様である。73と74は、磨消縄文部分に棒状工具で弧線を描く。73は縄文を施し平山縁に範状工具でキザミを施す。74は沈線で区画された部分に棒状工具で曲線を描く。75は磨消縄文を方形に区画する。76は2条の沈線で区画し縄文を磨り消した部分に「F」を横にしたような沈線や「T」字状の沈線で文様を描く。縄文部分は波状に沈線を引いて縄文が波状になるように文様帯を形成する。内面はナデである。77は沈線で工字文風の文様を描く。口縁端部はキザミ、内面はミガキを施す。78は細かい縄文を施した後、棒状工具で沈線を引く。黒色の何かで彩色された可能性がある。79は沈線で区画し、単節縄文を充填する。80は外反する器形で、縄文を施した後、棒状工具で沈線を引く。81～86は波状口縁の波頂部を面取りして平らにする器形である。81は内外面に磨消縄文を施す。縄文帯以外は、丁寧にミガキを施す。外面の縄文部分は赤彩する。82は外反する器形である。85と86は外面に斜めに縄文を施す。御経塚式期か。87～95は浅鉢である。88は口縁端部に沈線で三叉文を描く。89と90は口縁端部に沈線を引く。91は沈線を引き小突起が付く。92～94は内外面とも丁寧にミガキを施す。95は薄手のもの。調整不明で外面に粘土接合痕が残る。96～100は棒状工具で鍵手文や沈線を描く。96は縄文施文後に鍵手文を描く。97は沈線で文様を描いた後、縄文を充填する。文様部分以外はミガキを施す。98は縄文を磨り消した部分に棒状工具で鍵手文を描く。99は文様を描いた後、沈線部分以外に縄文を充填する。101・102はくの字に屈曲する口縁部で、外面屈曲部分に棒状工具による沈線を引き、その下に列点文を1～2条施す。102は口縁端部にキザミを施し小波状とする。103はくの字に屈曲する器形で、平行沈線の間に一つおきに斜め方向の刺突で列点文を施す。105は沈線で稍円形に区画した中に棒状工具で刺突文を施す。106は刺突文と入組文を組み合わせる。107は平行沈線の間に押引列点文を施す。108は緩いくの字の器形で、外面の屈曲部分と胴部に列点文を施す。列点文の間は無文で、列点文から口縁端と下側の列点文より下部は縄文を施す。109は入組文、列点文や沈線と縄文を組み合わせる。110は波状口縁で、外面全体は縄文、内面はミガキで緩く段がある。111～115は浅鉢である。111は薄手で、口縁端部に口縁と平行に沈線を引き、突起が付く。112は厚手で、文様はなく全体にミガキを施す。113と114は口縁部に向かって肥厚する器形である。113は口縁端部に縄文と突起を貼り付け、沈線で三叉文風の文様を施す。114は縄文と突起を4単位貼り付け、棒状工具で口縁と平行に沈線を引く。内面は丁寧なミガキである。115は小型で口縁端部に沈線を施す。116は口縁端部外面にキザミを施す。外面全面に単節縄文を施す。117と118は口縁端部に棒状工具でキザミを施すほかは調整不明である。119はくの字に屈曲する器形で、口縁端部に指頭でくぼみを施して小波状にする。内外面とも調整不明である。120は緩く屈曲する器形で、口縁端部に棒状工具でキザミを施し、小波状風にする。内外面とも調整不明である。121～126は粗製の深鉢である。121は口縁に向かってまっすぐ立ち上がりながら緩く内湾する器形で、口縁端部に向かって丸く収める。外面全体を横位の二枚貝条痕で調整する。内面は調整不明である。122は口縁に向かって緩く内湾しながら立ち上がる器形で、口縁端部を面取りする。外面全体には横位の二枚貝条痕で調整する。内面はミガキと思われるが、単位等は不明である。123は口縁に向かって緩く外反する器形で、口縁端部は丸く収める。外面は口縁端部の1cm程度下から横位の二枚貝条痕で調整する。内面はミガキ調整と思われるが、単位等は不明である。124は口縁に向かって緩く内湾する器形で、外面は口縁端部から横位の二枚貝条痕で調整する。125は口縁に向かってまっすぐに立ち上がる器形で、口縁

端部は面取りする。外面全体は横位の二枚貝条痕で調整する。内面は調整不明である。126は緩く内湾する器形で口縁端部は丸く收める。外面は全体をやや急な单位不明の斜め条痕で調整する。煤が付着する。内面は調整不明である。127と128は緩く内湾する器形で、どちらも内外面ともミガキ調整する。128は口縁部内面に指頭圧痕による沈線を引く。129は口縁端部1.5cm下の外面を摘み上げて突帯を形成する。突帯の頂部には、工具や单位不明のキザミを連続して施す。内面の調整は不明である。130は口縁端部が外反する塊形の器形で、内外面とも調整不明である。131は壺の口縁部の可能性のあるもので、内外面とも单位不明のミガキ調整である。132は外反する口縁部で、口縁端部外面に折り返した痕跡が残る。内外面ともミガキ調整である。133は輪積み痕を残す土器の一部で、棒状工具による穴が2か所ある。内外面とも調整不明である。134は底部である。丸底で内外面とも調整不明である。胎土からみて弥生土器の可能性もある。

### SK03 (図18・19、図版10)

135は外面にH状に沈線を施し、内面に指頭沈線を横位に引く。外面赤彩する。八日市新保式期。136は斜め、137は縦に縄文を施す。138は棒状工具で二重に楕円形文を引く。139は外面に細かい縄文を施し、内面はミガキを施す浅鉢と考えられる。140は外反する器形で、外面は棒状工具による沈線で縄文帯とミガキ部分を区画する。内面もミガキである。141は体部で、同様の文様である。142は外傾する浅鉢の口縁部で口唇部に沈線で三叉文を施す。外面は横位に縄文を施し、沈線を引く。内面はミガキである。143は外面縄文、口唇部に範状工具によるキザミ、内面は指頭沈線を施す。144は外面縄文で、口縁端部を面取りし外側に押し聞く。146は小波状口縁で波頂部をわずかに刺突し、外面に縄文を施した後、棒状工具で三叉文や円形の沈線文を描く。内面はミガキである。器形や施工方法から御經塚式期である。147は棒状工具による沈線と列点文を組み合わせる。148は口縁部外面に縄文を施し、外面に沈線文、口縁端部に範状工具によるキザミを施す。149は外反する器形で外面は縄文に横位に沈線、内面はミガキである。150はまっすぐ外に聞く器形で、外面は縄文施工後、棒状工具による沈線を横位に3条引く。151は蓋で入組文や列点文を組み合わせる。内面はミガキである。152は精製の鉢で、「し」状の沈線文や押引列点文を施す。153は平行沈線と押引列点文、154は縄文に棒状工具で沈線文を施す。どちらも外面赤彩する。155は棒状工具による列点文を2条施す。156は四角い断面形の棒状工具で横位に列点文を施す。列点文より口縁側は斜めに縄文、体部側はミガキ調整と考えられる。列点文部分は赤色顔料のようなものが残り、赤彩された可能性が高い。157は口唇部にメガネ状の楕円文を施す。158は外傾する器形で外面は縄文と列点文、内面はミガキ、口唇部は板状工具によるキザミで小波状を形成する。160～169は粗製の深鉢で、161・162は指頭による小波状を形成する。162は横位に二枚貝条痕を施す。160は外面から内面向かって穴を開ける。163～165は、口縁端部に工具によるキザミを施す。横位に条痕を施し、164と165はナデ消しする。160と166～169は平口縁のもの。横位に条痕を施す。169は口縁部内面に棒状工具による沈線を口縁と平行にひく。170～173は弥生土器の可能性のあるもの。170～172はくの字に聞く器形である。173は胴部で範状工具による波状文を2条描く。176～179は縄文土器底部。176は中央に二本超え二本潜り一本送りの網代痕と台形の棒状工具による圧痕が残る。179も全面に单位不明の網代圧痕が残る。

### SK05 (図20、写真図版11)

180は羽状縄文を施す。182は棒状工具による平行沈線の途中に突起が付く。183と184は口縁部に平行沈線を引く。183は縄文を残す。189は口縁部外面に玉抱三叉文を描く。190は口縁部内面に円形の突起が付く。外面全体は斜めに縄文、内面全体はミガキ。191は精製の鉢か注口土器口縁部である。192は球形の胴部で沈線の間に列点文を施す。193は緩やかな波状口縁にキザミを施し、外面は細かい縄文を施す。194は口縁部キザミ、外面に鍵手文を描く。内面はミガキ。195～198は列点文を2条

施す精製土器。199は蓋で、楕円形のツマミ部分に小突起を4ヶ所施す。動物意匠の可能性がある。全体に赤彩する。201～205は粗製の深鉢で、横位に条痕を施すもの、指頭で小波状にするものなどがある。206は底部で簾状圧痕が残る。

#### SK15・16(図21、写真図版11・12)

207は口縁部外面に縄文、内面に竪状工具で施文する。210は羽状縄文を施す。212は粗い縄文施文後指頭沈線を2条引く。213～215は粗製の深鉢。器形はまっすぐ立ち上がりながらやや内湾する。外面は斜めに縄文を施す。216は浅鉢か。口縁端部をわずかに折り曲げる。外面は磨消縄文で、赤彩する。218は細かい波状口縁で、刺突文や竪状工具で施文する。219～221はくの字の器形である。219は内外面とも調整不明、220は口縁部に指頭によるキザミを施す。221は条痕調整後ナデ消し、外面から内面向かって穴を開ける。224は注口土器の注口部分である。

#### 底部(図22、写真図版12)

全てSK01およびその包含層から出土した。225～231は網代圧痕を残す。225～229は2本超え2本潜り1本送りの単位のもの。体部は縱縄文を施すものとヘラケズリのものがある。230は1本超え1本潜り1本送りの単位のもの。231は1本超え1本潜り1本送りの単位の網代圧痕をナデ消す。232は簾状圧痕、233と234は圧痕は見られない。

#### その他遺構出土遺物(図23、写真図版12)

235はSK14から出土。入組文や列点文を施す。中屋式期。236～239はSK18から出土。236は外面に接合痕を残し、内面に縄文を施す。238は尖った波状口縁に沿って縄文を施し、沈線で区画する。239は口縁に指頭圧痕を残し、内面に簾状圧痕を施す。後期中葉～後葉。240はSK19から出土。241はSP24から出土。242～244はSK26から出土。中屋式期か。245～249はSK28から出土。246は口縁部外面に羽状縄文を施す。249は脇部で羽状縄文を施した後、棒状工具による平行沈線で区画する。後期中葉～後葉。

#### 包含層出土遺物(図23・24、写真図版12・13)

250～259は羽状縄文の浅鉢である。250は羽状縄文を沈線で区画し、磨り消した部分はミガキを施し文様帯を構成する。円形の突起がある。焼成は良好で胎土に雲母が混入する。加曾利B2式期。254は円形の器形で沈線により方形の文様帯を構成する。250～257は沈線で区画するもの。261は撲糸文を施す。263は屈曲する部分に棒状工具による沈線を引き、棒状工具による刺突が5か所ある。264は屈曲する部分に縄文と沈線を施す。266は沈線で三角形に縄文と磨消部を区画する。267～268は口縁部外面に指頭沈線を引くもの。縄文後に引くものと、ナデ後に引くものがある。270は外反する口縁部内面に棒状工具で沈線を引く。275は棒状工具で4条沈線を引く。井口式期のものか。276は三角形に尖る波状口縁で、外面に竪状工具による沈線と突起が付く。八日市新保式期。278は外反する器形で口縁部キザミ、外面縄文帯に棒状工具で沈線文を描く。279と280は沈線で玉抱三叉文を描く。281は口唇部に沈線で三叉文を描く。縄文時代晚期前葉か。284は内外面ともミガキの浅鉢である。286は精製の鉢か注口土器の口縁部である。外面は口縁部キザミと小突起、細かい縄文を施し、頸部から下は羊齒状文を描く。内面はミガキ。287～289は入組文を描く。290と291は列点文を施す。292は鍵手文を描く。294は外面細かい縄文で赤彩する。内面はミガキ。295は口唇部に細かいキザミと小突起が付き、外面は縄文を施す。296は浅鉢の口縁部で、口縁端部に縄文を施した後、沈線を引き小突起を貼り付ける。297は草本類の条痕を施す。298は刻目突帯文系の壺か。口縁部に突帯を貼り付け、板状工具で刻み目を施す。突帯の下部は条痕調整後ナデ消す。弥生時代前期か。

その他、掲載しなかったが古代須恵器壺の脇部や古代土器が数点出土している。出土状況からみて、流れ込みと考えられ、近隣に須恵器窯跡など古代の遺構の存在する可能性がある。

## 2 土製品（図 24、写真図版 13）

299～304は土製品である。299は土版の一部である。全容は小判のような楕円形と考えられる。両面に棒状工具による沈線を3条単位で施す。その他の調整は不明である。301は有孔球状土製品の一部である。全容は球状で棒状工具による穴の痕跡がある。穴の直径は約10ミリである。表面は平滑で調整は不明である。富山市内では豊田大塚・中吉原遺跡など、縄文時代晩期の遺跡数か所で出土している。300は不明土製品である。全体の形は不明である。棒状工具による穴が少なくとも3か所ある。一部の辺は波状になる。調整は不明である。299～301はSX01から出土した。302・303は土偶である。303は右手の肩から手先部分で、腕を下げる状態を表現する。断面形はほぼ円形である。縄文施文後、棒状工具による沈線で円形や工字文風の文様を描く。文様や土器の時期から中屋式期である。包含層から出土した。302は足のくるぶしから先の部分を表現する。つま先部分にヘラ状工具で4条刻みを施し、足指を表現する。SK03から出土した。304はイノシシ形獸面突起である。イノシシの顔を左斜め前から見た状況を模す。SK05上の包含層から出土した。左面は粘土を円形に貼り付けた突起と棒状工具による沈線で装飾する。ほぼ中央に棒状工具で穴を開けて目を表現する。向かって左端は円形突起に針状工具で2点刺突して鼻を表現する。右面は全面に単節縄文を斜めに施す。獸面の下部分に接合痕があるため、土器の一部に接合していたと考えられる。

（細辻）

## 3 石器（図 25・26、写真図版 14）

打製石斧・砥石・磨製石斧・凹石・敲石・石棒・石刀等や未製品がある。この他、図化しなかったが被熱のある礫、器種不明の製品の破片、黒曜石・頁岩・チャート・鉄石英などの剥片が出土した。石製品の出土量は、遺構出土に限ればSX01が最も多く、器種を判別できるもので13点、器種を判別できない破片を含めると22点出土した。その他の遺構は数点の出土量である。

305は、石鎌である。尖基鎌であり、石材は玉隨の可能性がある。306～308、313・314は、打製石斧である。306は撥形、307は分銅形を呈する。5点とも一面に原縞面を残す。306～308、313は大型の薄片を整形する。また、原縞面に研磨痕が見られることから、磨石または砥石を転用したと考えられる。314は長楕円形の縞を敲打および剥離により整形する。石材は、306～308、313が安山岩であり、314は砂岩の可能性がある。309は、擦切石器である。全面が研磨され、長軸両側縁を機能部とする。一面に被熱痕が見られる。細長い台形状を呈する形態や剥離による整形の痕跡が見られることから、打製石斧の破損品を転用した可能性がある。石材は砂岩である。310～312は磨製石斧である。3点とも定角式磨製石斧である。石材は310・311が砂岩、312が蛇紋岩である。近年、從来蛇紋岩とされてきた石材の中に透閃石岩が含まれることが指摘されているが、312はネオジウム磁石に強く反応し、帯磁率が $14.0 \sim 17.0 \times 10^{-3} \text{ SI}$ （田中地質製 WSL-Cにより計測）という高い値を示したことから、中村のいう蛇紋岩（中村2014）と同定した。315は、石棒である。珪化木を横方向に研磨することにより形状を作出する。316は、石刀である。縱方向の研磨により形を作出する。石材は綠泥片岩製である。317は、石皿である。両面に使用痕を持つ。石材は砂岩である。318は、不明石器未製品である。細長い棒状で、敲打により形を作出した後、一面を研磨により平滑化している。石棒類や横長の石冠の未製品の可能性がある。石材は安山岩である。319～322は、凹石および敲石である。319・320は凹石、321は敲石、322は凹石と敲石が複合したものである。また、321は敲面が痘痕状を呈し、石器製作用のハンマーとして用いられた可能性がある。石材は、319が泥岩、それ以外は砂岩である。323は、砥石である。分銅形打製石斧を転用したものであり、すべての面に研磨痕が見られる。形が扁平で、剥離による整形の痕跡あまり見られない面が存在することから、元となつた分銅形打製石斧は、一面に原縞面を残した大型の薄片を整形することにより、形を作出したと考えられる。石材は安山岩である。

（納屋内）

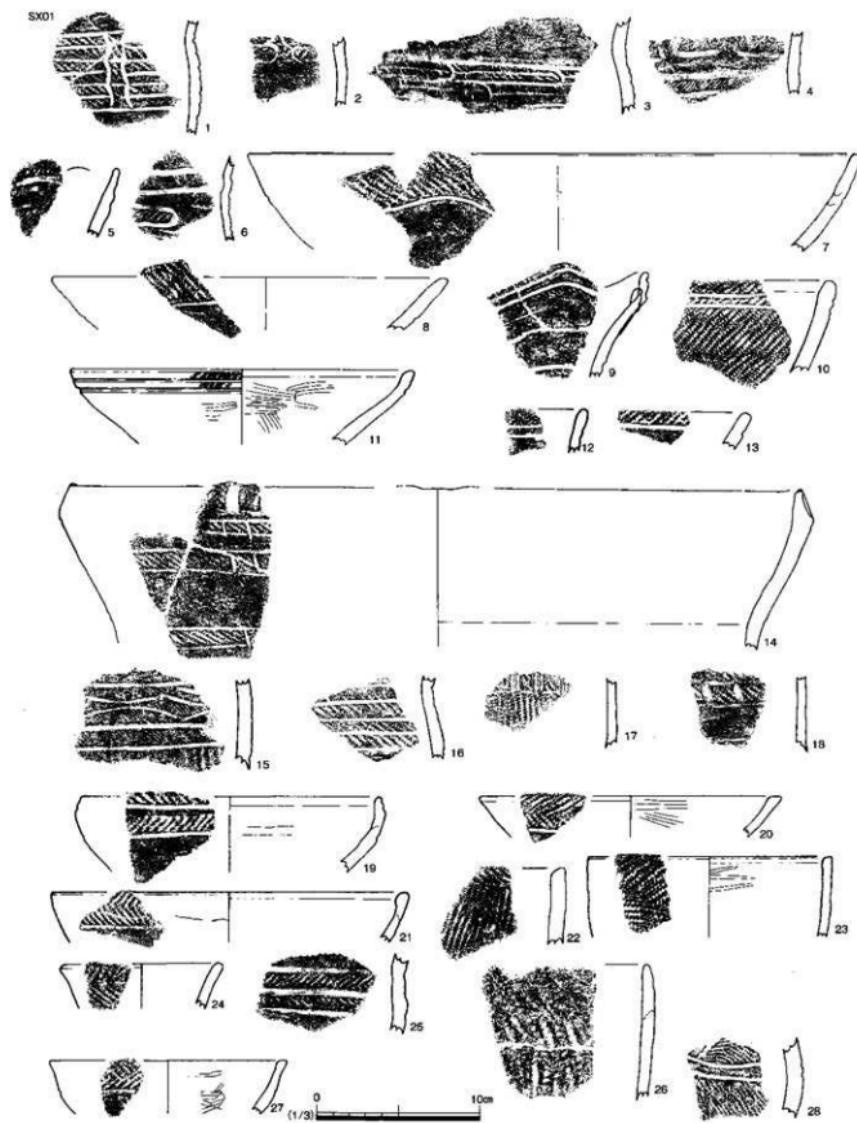


図 12 出土遺物実測図 (1) (S=1/3)

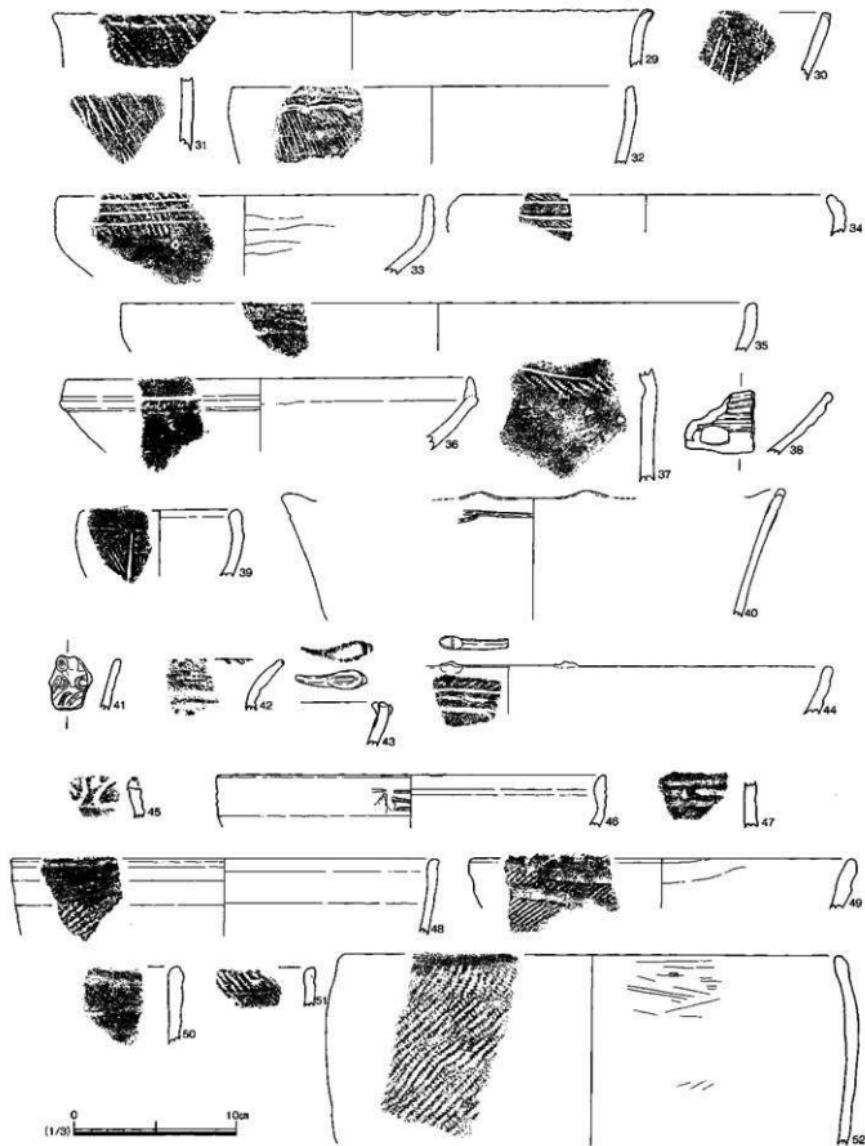


図13 出土遺物実測図(2) (S=1/3)

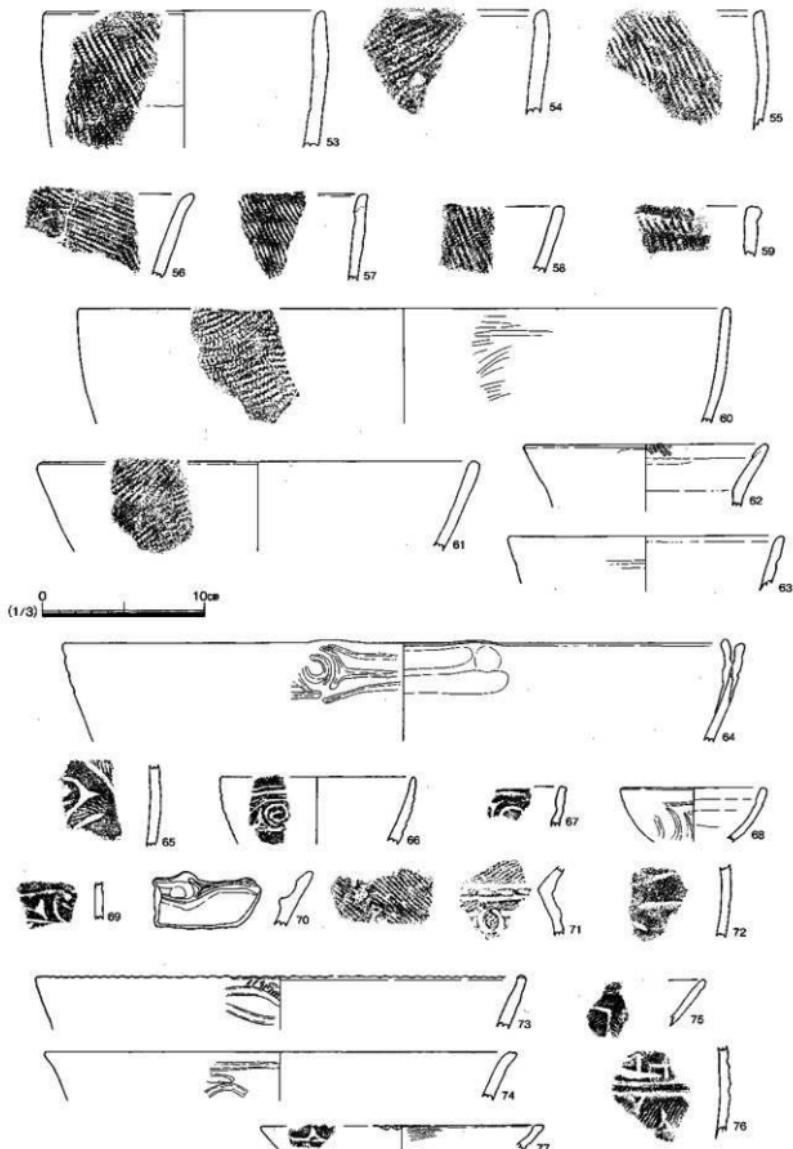


図 14 出土遺物実測図 (3) (S=1/3)

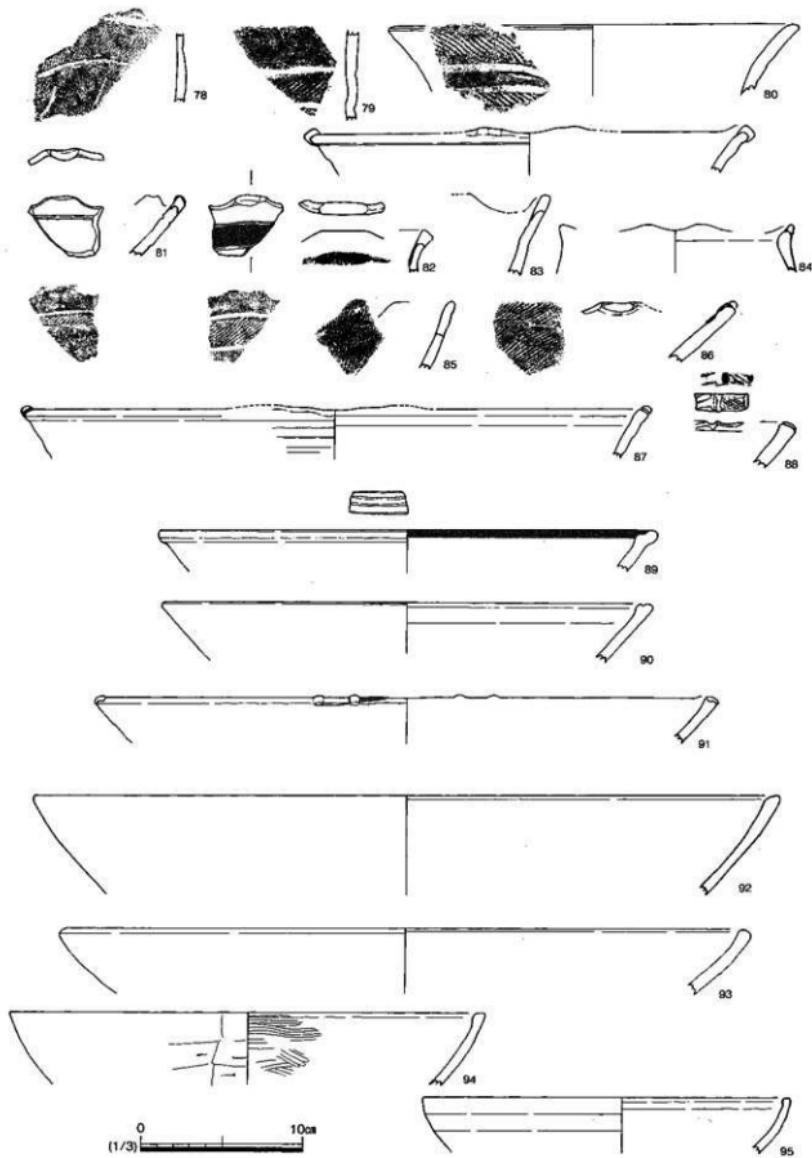


図 15 出土遺物実測図 (4) ( $S=1/3$ )

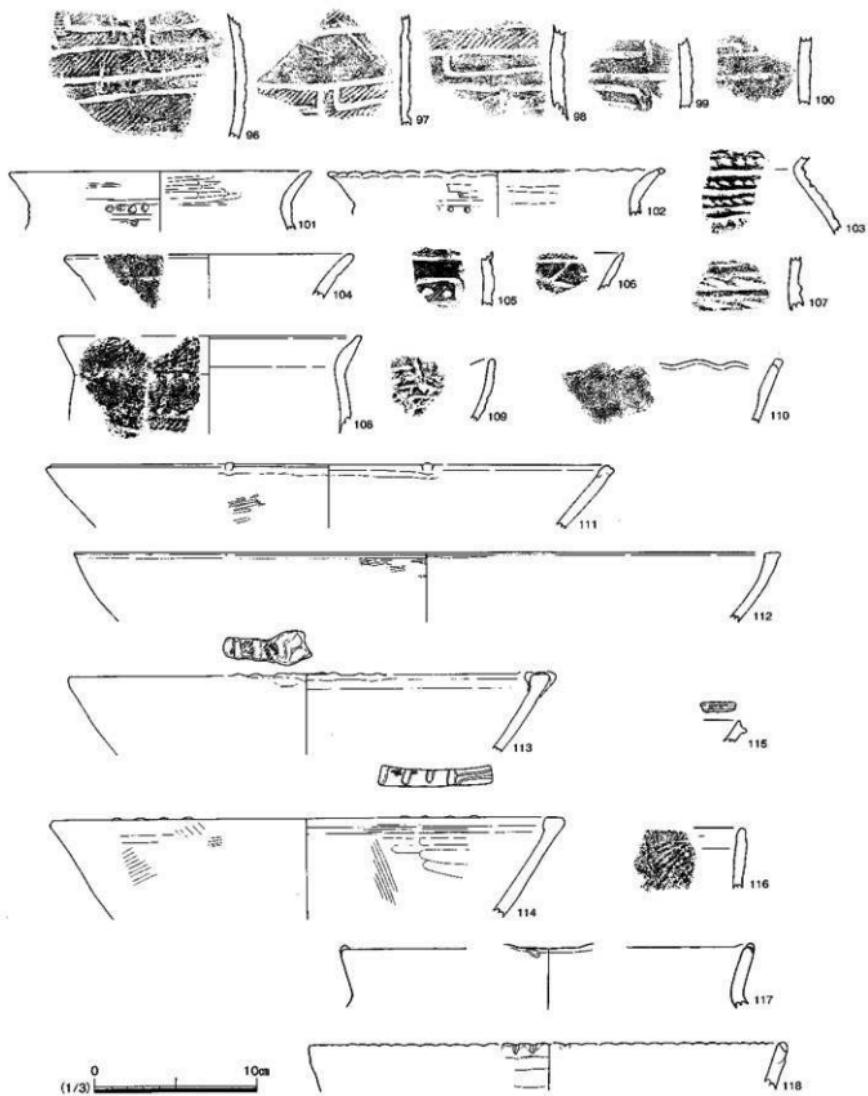


図 16 出土遺物実測図 (5) (S=1/3)

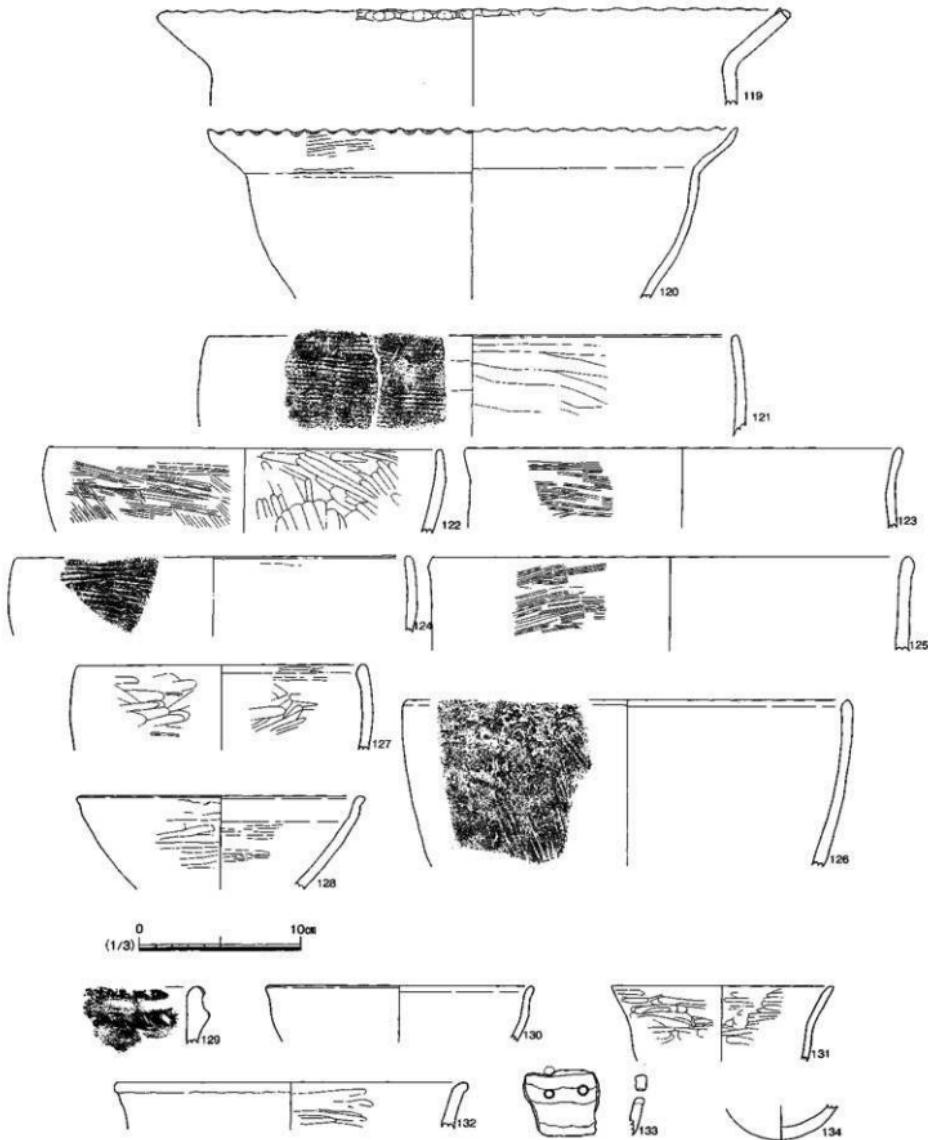


図 17 出土遺物実測図 (6) (S=1/3)

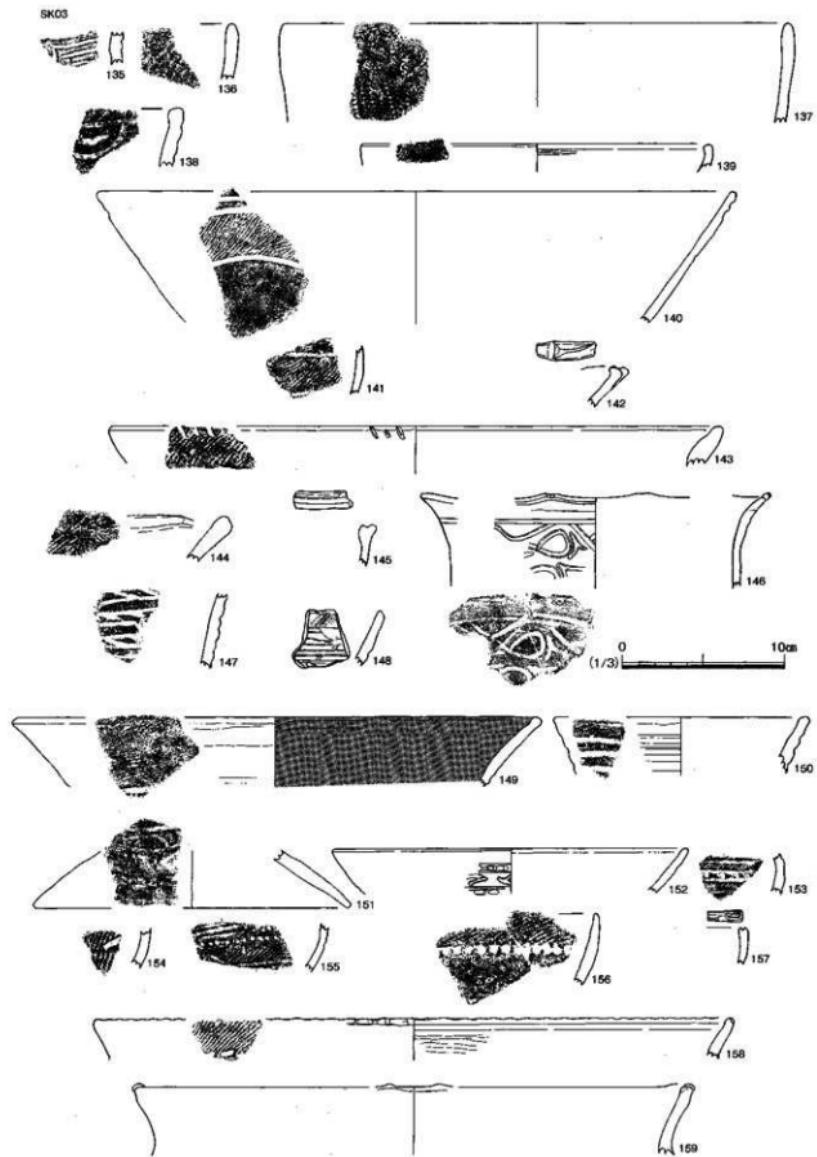


図 18 出土遺物実測図 (7) (S=1/3)

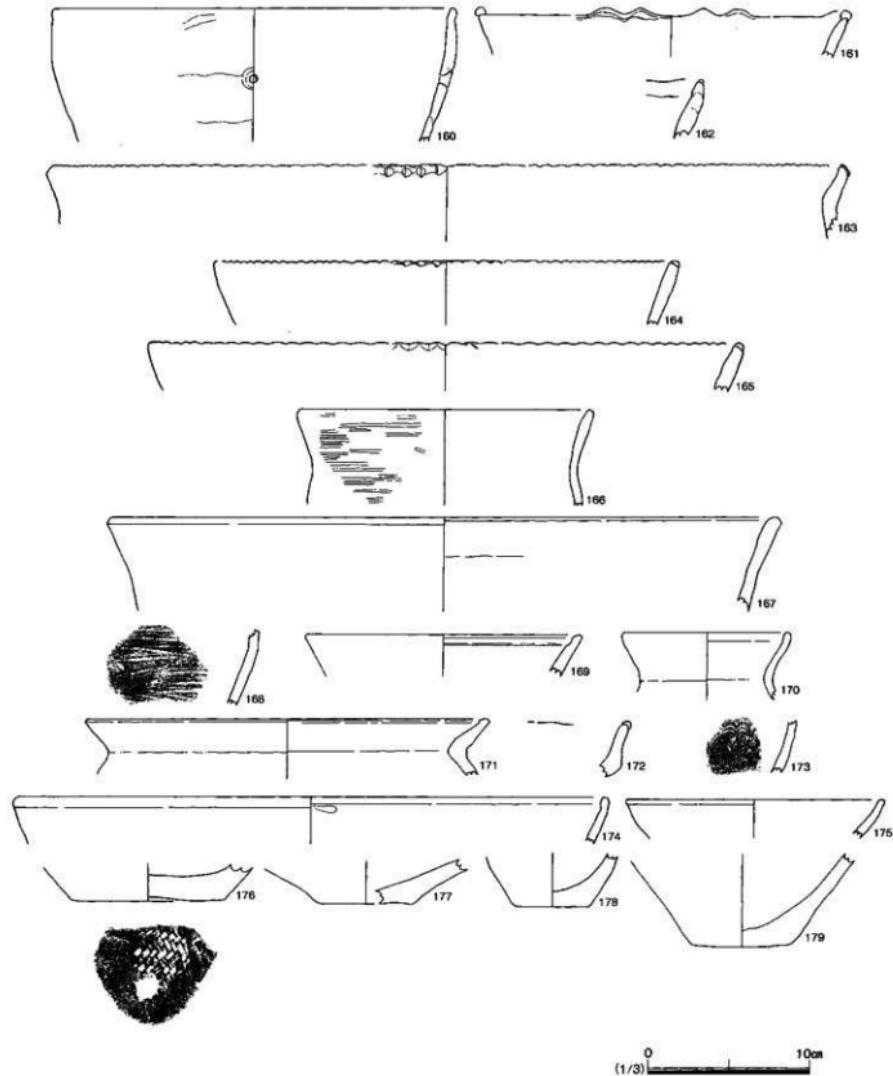


図19 出土遺物実測図(8) (S=1/3)

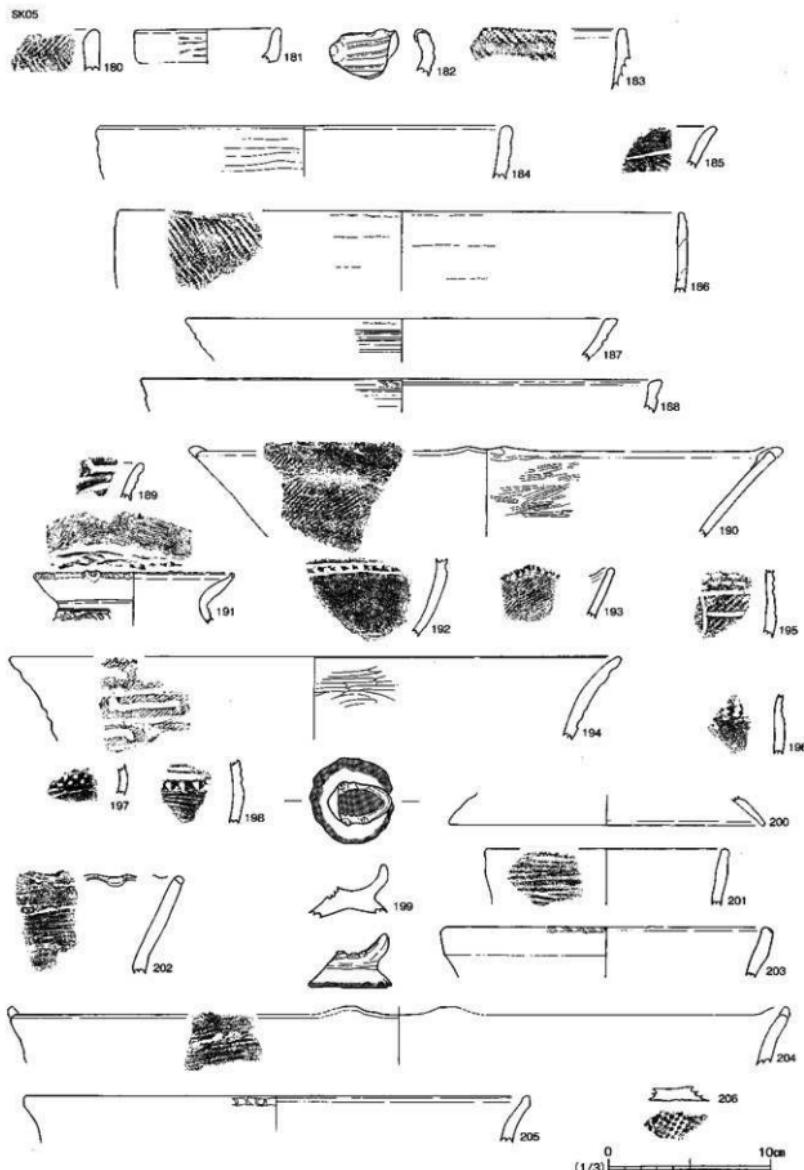


図 20 出土遺物実測図 (9) (S=1/3)

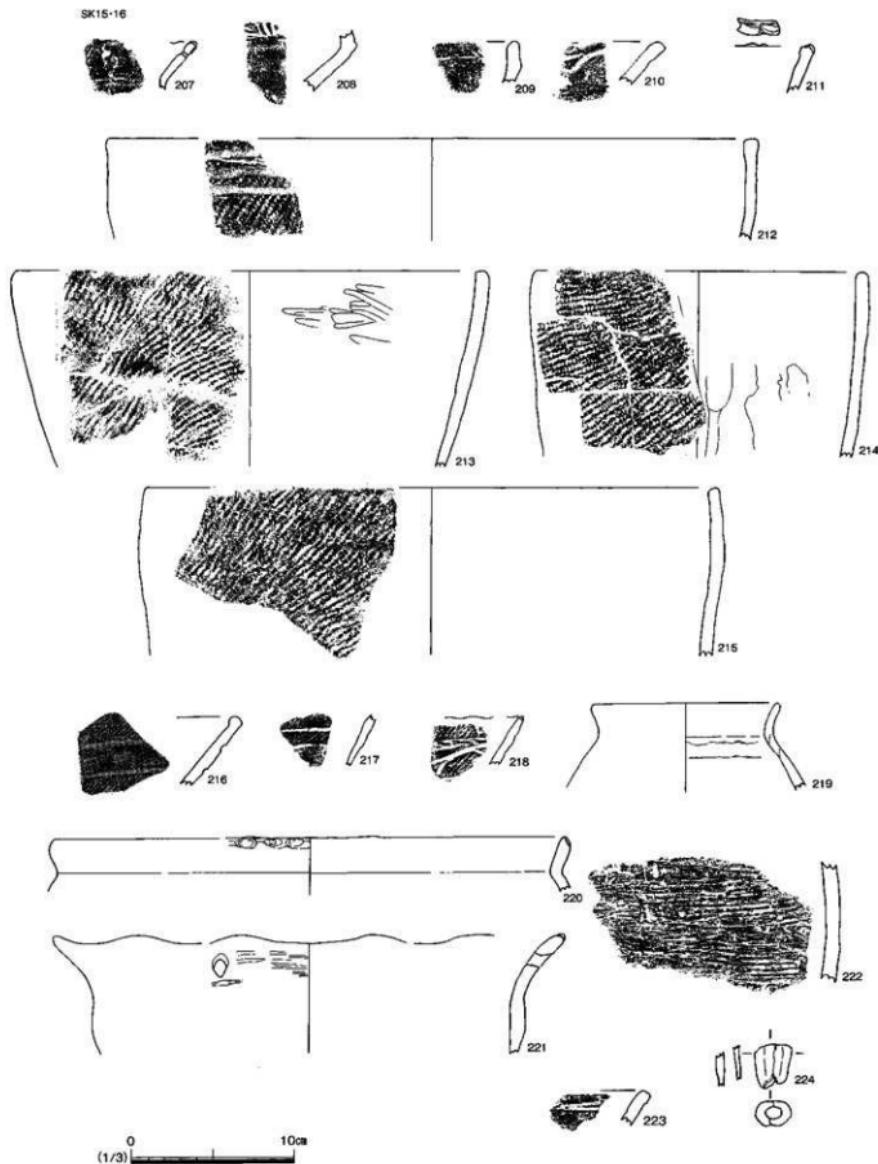


図 21 出土遺物実測図 (10) (S=1/3)

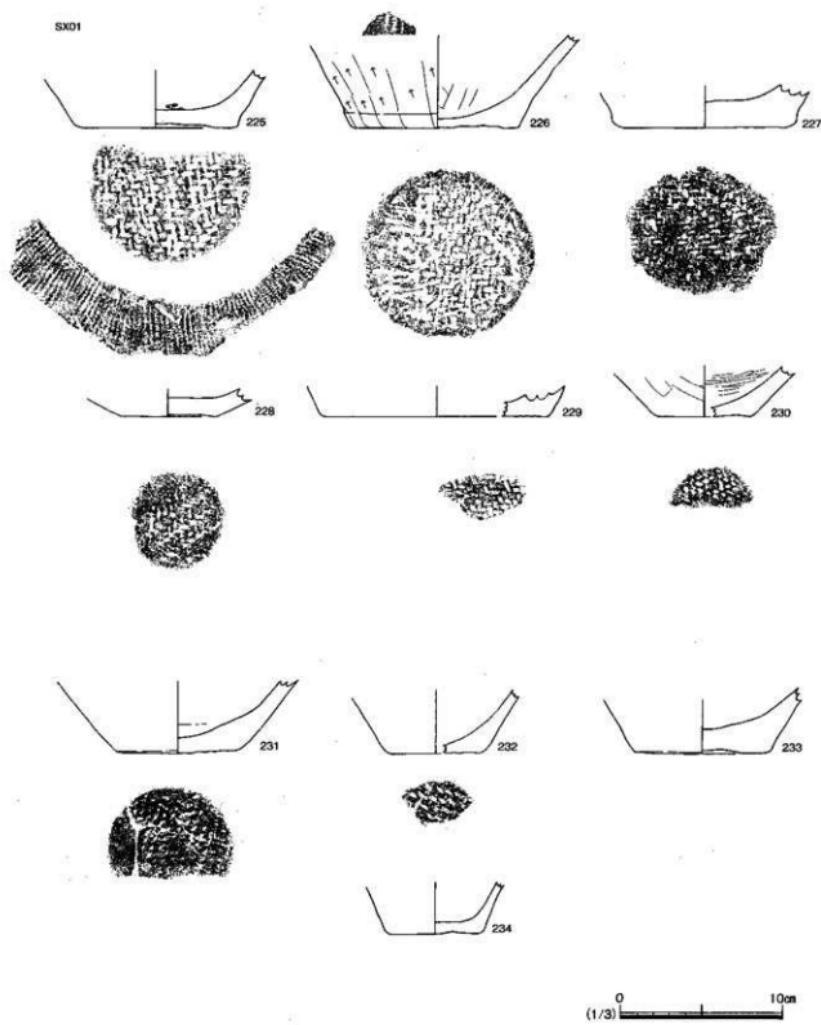


図 22 出土遺物実測図 (11) (S=1/3)

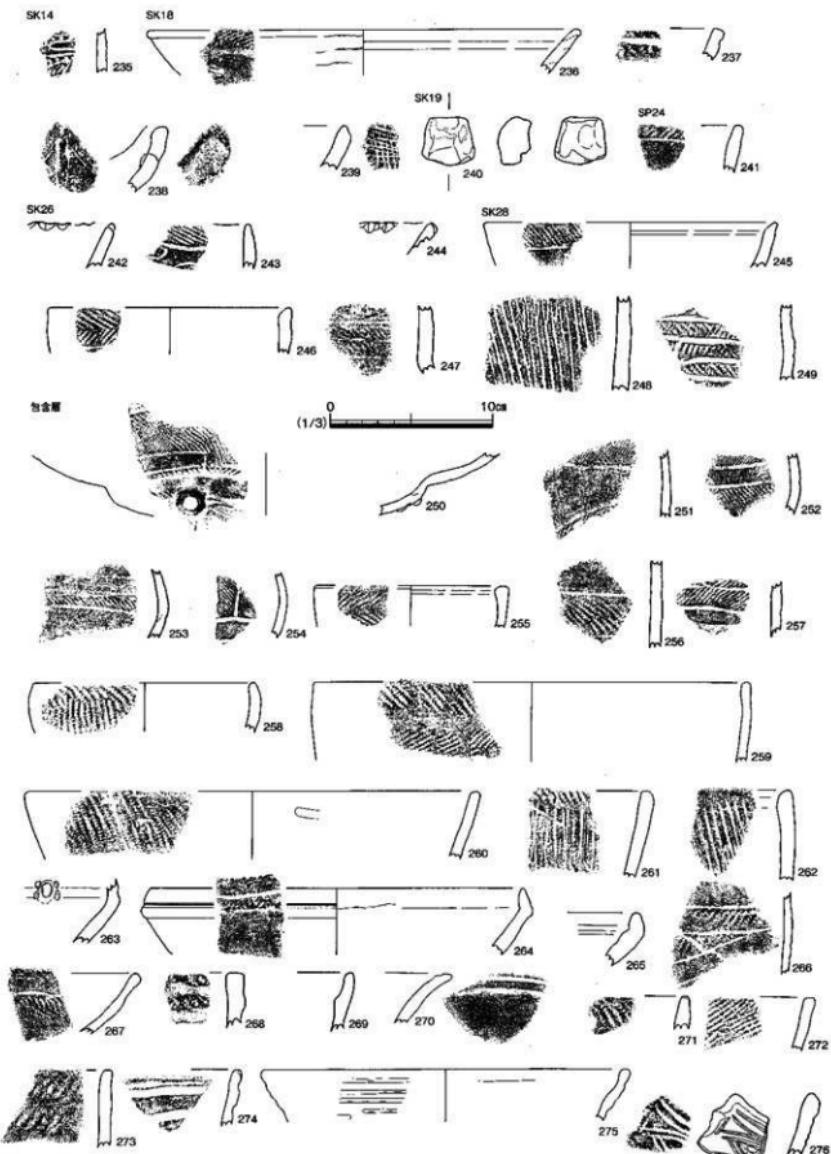


図 23 出土遺物実測図 (12) (S=1/3)

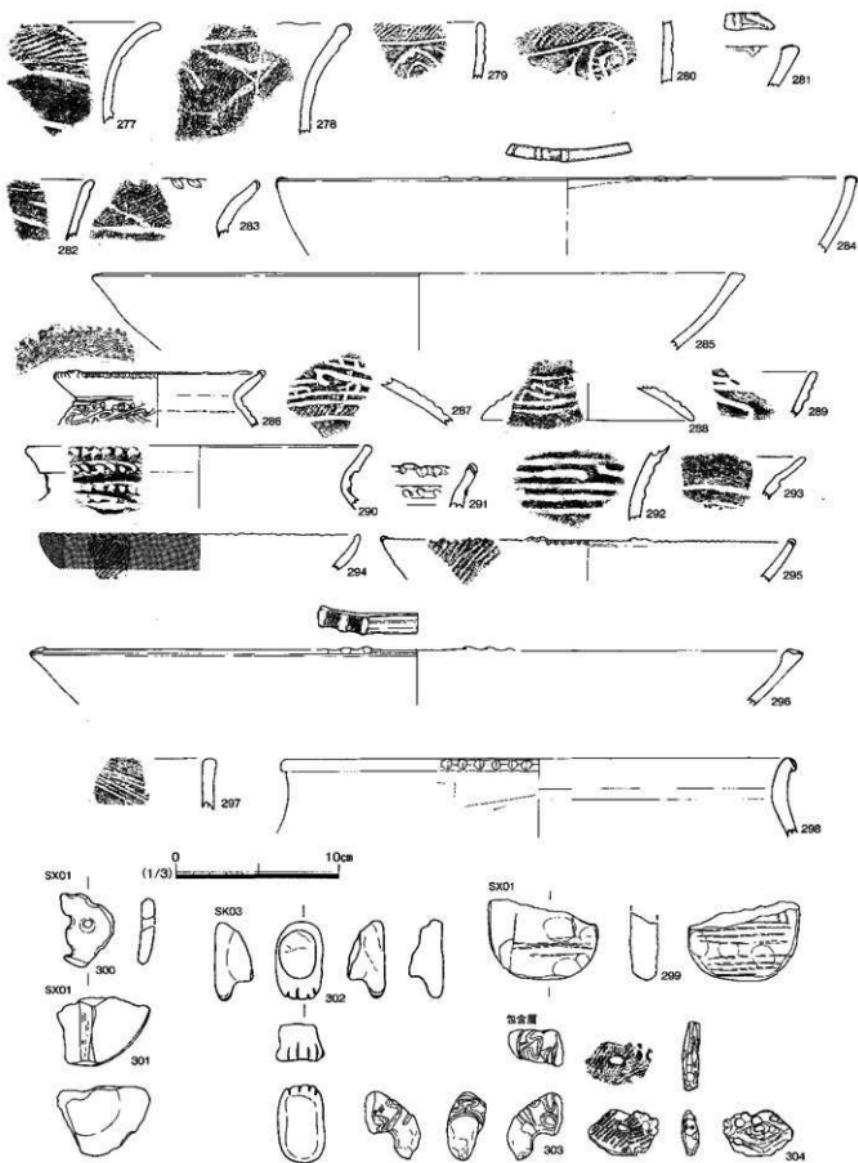


図 24 出土遺物実測図 (13) (S=1/3)

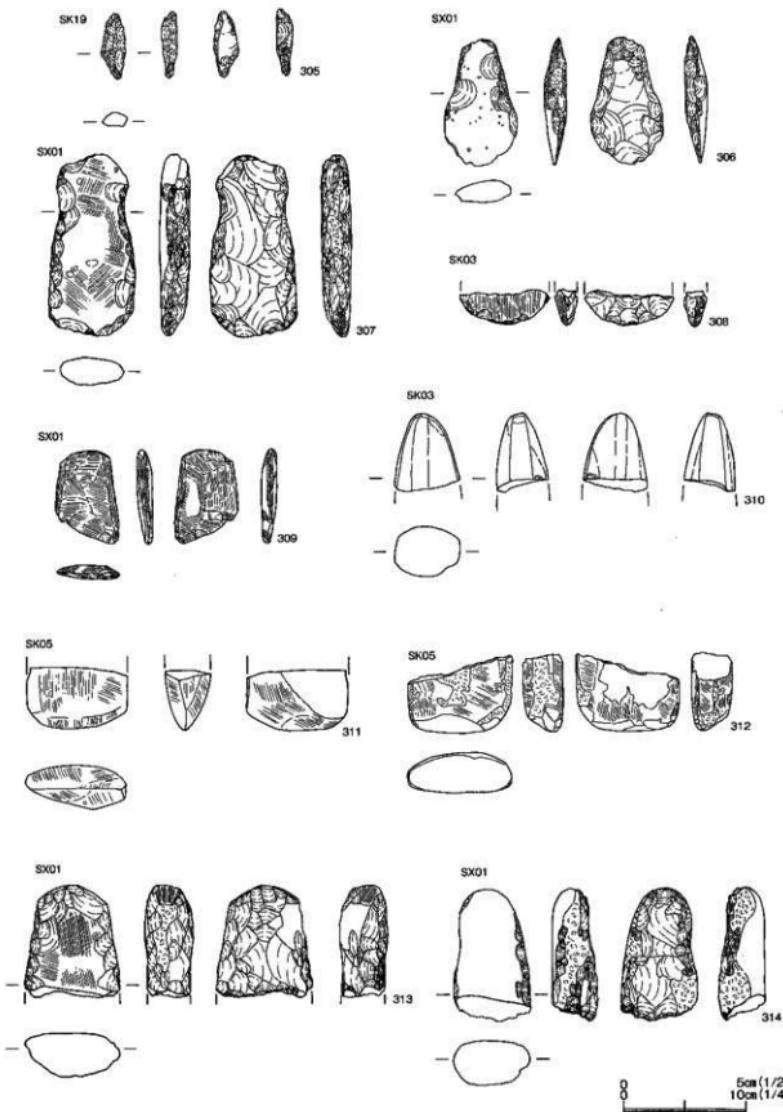


図25 出土遺物実測図 (14) (石器・石製品 305・310・311はS=1/2、その他はS=1/4)

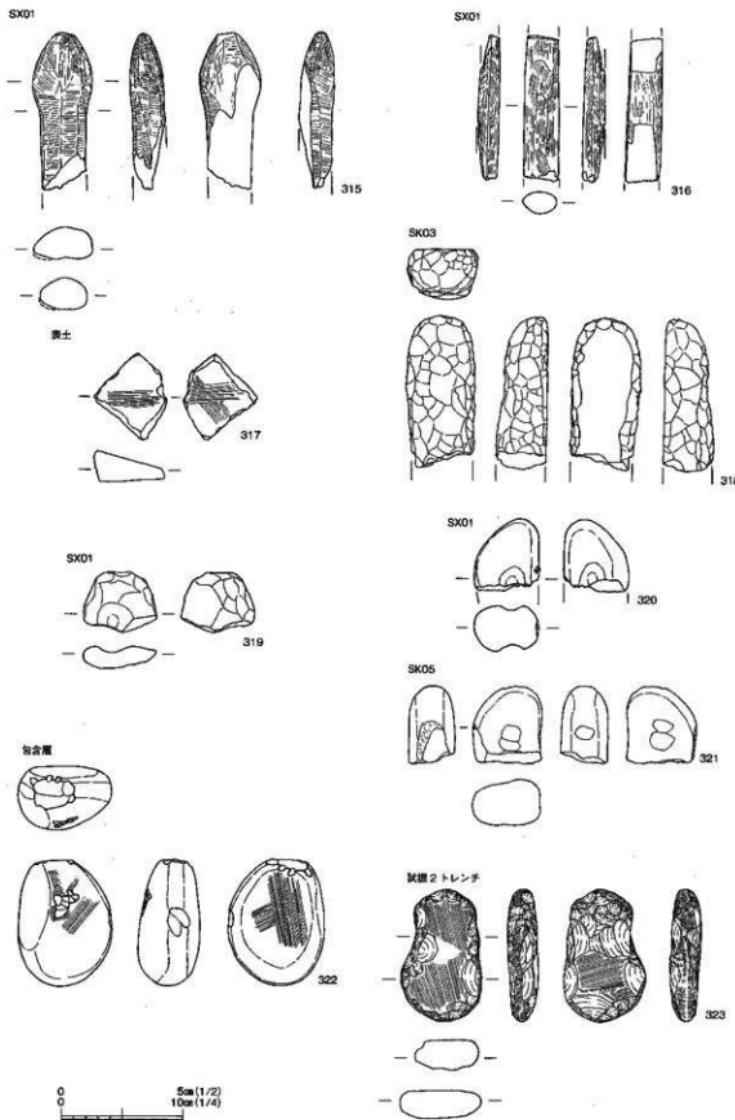


図 26 出土遺物実測図 (15) (石器・石製品 315 は S=1/2、その他は S=1/4)

番号	出土地点	形態			出土 地質 質 地成	色調		成形・調整		備考	
		器種	口径 (cm)	高さ (cm)		内面	外面	内面	外面		
1	SX01 (A-2)	圓文土器	-	7.65	-	粗 良	10YR6/3 淡黃褐	10YR7/3 に赤い黄土	調整不明	圓文+沈縫文を区別	後期
2	SX01 (A-2)	圓文土器	-	4.2	-	密 良	10YR6/3 に赤い黄土	10YR6/2 黄褐色	ミガキ?	圓文+沈縫文 調整不明(ミガキ?)	後期
3	SX01 (A-2)	圓文土器	-	6.3	-	やや粗 良	10YR6/4 淡黃褐	10YR6/4 淡黃褐 7.5YR7/6 暗	調整不明	ミガキ? 3D沈縫を区切る 逆しの字状沈縫	後期
4	SX01 (A-4)	圓文土器	-	4.0	-	密 良	5YR6/6 暗	5YR6/6 暗	調整不明	圓文圓文+棒状工具沈縫	後期
5	SX01 (A-2)	圓文土器	-	4.6	-	密 良	10YR7/3 に赤い黄土	10YR6/4 に赤い黄土	調整不明	圓文+沈縫文	後期
6	SX01 (A-2)	圓文土器	-	5.6	-	密 良	10YR7/3 に赤い黄土 7.5YR7/4 に赤い黄土	10YR7/4 に赤い黄土	調整不明(ナデ?) 指壓記録	棒状工具沈縫+磨削圓文	後期
7	SX01 (A-1)	圓文土器 深鉢	36.3	6.3	-	密 良	10YR6/3 に赤い黄土	7.5YR6/4 に赤い黄土 7.5YR5/1 黑灰	口縁部 画取り 調整不明	圓文(斜位) 沈縫文 ミガキ	後期
8	SX01	圓文土器 深鉢	22.2	3.4	-	密 良	10YR5/2 黄褐色	7.5YR6/4 に赤い黄土	ミガキ	圓文+棒状工具沈縫 ミガキ?	後期
9	SX01 (A-2)	圓文土器	-	6.5	-	密 良	7.5YR7/4 に赤い黄土 10YR4/2 黄褐色	5YR5/4 に赤い黄土	調整不明	沈縫文2条 圓文後磨消+ミガキ 沈縫文	後期
10	SX01 (A-2)	圓文土器 深鉢	59.9	5.9	-	密 良	10YR6/2 黄褐色	10YR5/2 黄褐色	指壓圧痕 ミガキ	圓文(斜位)+棒状工具沈縫2条	後期
11	SX01 (A-1)	圓文土器 深鉢	20.1	4.8	-	密 良	10YR6/3 に赤い黄土	10YR6/3 に赤い黄土	ミガキ	圓文(斜位)+棒状工具沈縫2条 ミガキ?	後期
12	SX01 (A-2)	圓文土器 深鉢	20.4	2.7	-	密 良	10YR6/3 に赤い黄土	10YR7/3 に赤い黄土	調整不明	圓文+棒状工具沈縫2条 調整不明	後期
13	SX01 (A-1)	圓文土器 深鉢	19.6	2.3	-	密 良	10YR7/4 に赤い黄土	10YR5/3 に赤い黄土	口縁部 ミガキ ナデ?	圓文斜位 沈縫文 ナデ	後期
14	SX01	圓文土器 深鉢	45.3	10.0	-	粗 やや 不良	5YR6/6 暗	5YR6/6 暗	調整不明	棒状工具斜位 圓文→棒状工具沈縫→磨削	後期
15	SX01 (A-2)	圓文土器	-	5.45	-	密 良	10YR6/2 黄褐色	10YR7/4 に赤い黄土	ミガキ	圓文+棒状工具沈縫	後期
16	SX01 (A-1)	圓文土器	-	5.25	-	密 良	10YR7/3 に赤い黄土	10YR6/3 に赤い黄土	調整不明	圓文+棒状工具沈縫	後期
17	SX01	圓文土器	-	4.25	-	密 良	7.5YR4/2 黑褐	7.5YR4/3 黑	調整不明	圓文+工具による沈縫3条 沈縫(斜位)	後期
18	SX01 (A-4)	圓文土器	-	4.55	-	密 良	5YR6/6 暗	7.5YR5/3 に赤い黄土	調整不明	圓文+沈縫文 区別する沈縫文	後期
19	SX01	圓文土器 深鉢	18.0	4.6	-	密 良	10YR6/3 に赤い黄土	10YR7/3 に赤い黄土	ミガキ	圓文 棒状工具沈縫 調整不明	後期
20	SX01 (A-3)	圓文土器 深鉢	18.6	2.5	-	密 良	7.5YR4/1 黑灰	7.5YR5/2 黑褐	ミガキ	圓文 沈縫文 沈縫 調整不明	後期
21	SX01 (A-3)	圓文土器 深鉢	21.6	3.15	-	密 良	10YR7/2 に赤い黄土	10YR4/1 黑灰	調整不明	圓文 棒状工具沈縫 調整不明	後期
22	SX01 (A-1)	圓文土器	-	4.65	-	密 良	10YR7/4 に赤い黄土	2.5YR4/1 黄灰	ミガキ	圓文	後期
23	SX01	圓文土器 深鉢	14.9	4.9	-	やや 粗 不良	10YR4/4 淡黃褐	10YR7/3 に赤い黄土	口縁部 画取り 調整不明	圓文	後期
24	SX01 (A-3)	圓文土器 深鉢	9.4	2.8	-	やや 粗 不良	10YR7/4 に赤い黄土	10YR5/2 黄褐色	調整不明	羽状圓文	後期
25	SX01 (A-2)	圓文土器	-	5.0	-	やや 粗 不良	7.5YR7/6 暗	7.5YR7/6 暗	調整不明	棒状工具沈縫 棒状工具 調整不明	後期
26	SX01	圓文土器 深鉢	26.8	8.4	-	粗 不良	2.5YR8/1 黑灰	10YR8/2 黑灰	調整不明	圓文	後期
27	SX01	圓文土器 深鉢	14.4	3.3	-	密 良	7.5YR7/4 に赤い黄土 10YR3/1 黑褐	7.5YR8/4 淡黃褐 10YR8/2 黄褐色	ミガキ	羽状圓文 沈縫 不明	後期 費印済
28	SX01	圓文土器	-	4.9	-	密 良	2.5Y3/1 黑褐	5YR6/6 暗	調整不明	圓文+棒状工具沈縫	後期
29	SX01 (A-2)	圓文土器 深鉢	36.4	3.5	-	密 良	10YR7/3 に赤い黄土	10YR5/2 黄褐色	口縁部 程度による ミガキ 調整不明	肥厚化ナデ消し? 調整不明	後期
30	SX01 (A-3)	圓文土器	-	4.2	-	密 良	7.5YR7/4 に赤い黄土	7.5YR7/4 に赤い黄土	ミガキ 調整不明	調整不明 肥厚?	後期
31	SX01	圓文土器	-	4.4	-	密 良	7.5YR7/4 に赤い黄土	10YR6/3 に赤い黄土	調整不明	羽状文?	後期

表2 遺物観察表(1)

番号	出土地点	形 貌				地質	色 調				成形・調整		備考		
		器種	口径 (cm)	底面 (cm)	底径 (cm)		内 面		外 面		内 面				
							質	組成	質	組成	質	組成			
32	SX01 (A-1)	縄文土器 深鉢	24.6	4.7	-	密 良	10YR8/3 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	ナデ?	淡綠 縄文?	後期 微母溫				
33	SX01	縄文土器 深鉢	22.8	4.9	-	密 良	10YR6/2 灰黃褐色	10YR7/3 に bei 黃褐色	調整不明(ミガキ?)	縄文斜位+棒状工具沈締3条 調整不明(ミガキ?)	後期				
34	SX01 (A-1)	縄文土器 深鉢	22.6	2.55	-	密 良	7.5YR7/6 棕	7.5YR8/4 に bei 黃褐色	調整不明	磨清縄文+沈締	後期				
35	SX01	縄文土器 深鉢	38.8	2.95	-	粗 中や不良	10YR7/3 に bei 黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	調整不明	沈締	後期				
36	SX01	縄文土器 深鉢	25.7	4.45	-	粗 良	10YR7/3 に bei 黃褐色	10YR4/2 灰黃褐色	調整不明	調整不明 縄文?	後期				
37	SX01 No.24 Z=15.371	縄文土器	-	6.8	-	やや粗 良	10YR7/4 に bei 黃褐色	7.5YR5/3 に bei 黃褐色	強調沈締 ミガキ?	ミガキ? 沈締 縄文(斜位)	後期				
38	SX01 (A-3)	縄文土器	-	3.8	-	密 良	7.5YR8/4 に bei 黃褐色	7.5YR4/2 灰黃褐色	調整不明	棒状工具沈締3条 調整不明	後期				
39	SX01	縄文土器 深鉢	9.4	4.15	-	密 良	10YR5/2 灰黃褐色	10YR5/2 灰黃褐色	ミガキ?	縄文+棒状工具沈締	後期				
40	SX01 (A-1)	縄文土器 深鉢	30.3	7.9	-	やや粗 良	10YR5/2 灰黃褐色	7.5YR7/4 に bei 黃褐色	口縁部 小波状 調整不明	縄文? 沈締文 調整不明	後期				
41	SX01	縄文土器	-	3.2	-	密 良	10YR7/3 に bei 黃褐色	10YR8/3 淡黃褐色	調整不明	円形突起(玉?) 棒状工具3条文	後期				
42	SX01 (A-3)	縄文土器	-	3.25	-	やや粗 不良	10YR8/3 淡黃褐色	10YR7/3 に bei 黃褐色	調整不明	ヘラ状工具キサミ 調整不明(小突起有り)	後期				
43	SX01 (A-2)	縄文土器	-	2.7	-	やや粗 やや不良	2.5Y7/1 灰白	10YR8/2 灰白	口縁部 貼付による 円形突起 調整不明	縄文?	後期				
44	SX01 (A-1)	縄文土器 鉢	39.3	2.9	-	粗 中や不良	10YR6/1 暗灰	10YR8/2 灰白	口縁部 実松 調整不明	糸縄文 縄文斜位 棒状工具斜突 調整不明	後期				
45	SX01 (A-3)	縄文土器 鉢	-	2.4	-	密 良	10YR6/1 暗灰	10YR8/3 淡黃褐色	調整不明	棒状工具斜突 棒状工具沈締文	後期				
46	SX01 (A-1)	縄文土器 鉢	23.8	3.2	-	密 良	7.5YR8/3 に bei 黃褐色	10YR7/3 に bei 黃褐色	ミガキ?	沈締+刺突	後期				
47	SX01	縄文土器	-	2.85	-	粗 中や不良	10YR8/4 淡黃褐色	2.5Y7/2 灰黃褐色	調整不明	棒状工具沈締	後期				
48	SX01 (A-2)	縄文土器 深鉢	26.0	4.7	-	密 良	7.5YR7/4 に bei 黃褐色	7.5YR5/2 灰褐色	ナデ?	ヨコナデ? 縄文(斜位)	後期				
49	SX01	縄文土器 深鉢	13.1	3.1	-	密 良	7.5YR6/4 に bei 黃褐色	7.5YR4/4 に bei 黃褐色	調整不明	指頭沈締 縄文斜位 調整不明	後期				
50	SX01	縄文土器	-	4.8	-	やや粗 やや良	7.5YR7/4 に bei 黃褐色	10YR7/4 に bei 黃褐色	調整不明	指頭による沈締3条 調整不明	後期				
51	SX01 (A-1)	縄文土器	-	2.35	-	密 良	5YR6/6 棕	5YR6/6 棕	調整不明	縄文(斜位) 沈締 調整不明	後期				
52	SX01 No.20 Z=15.313	縄文土器 深鉢	30.6	11.7	-	密 良	5YR7/8 暗 (10YR7/4 に bei 黃褐色)	7.5YR7/6 淡黃褐色 10YR7/4 に bei 黃褐色	口縁部 ナデ ナデ?	指頭斜位 縄文LL	後期 微母溫				
53	SX01 (A-2)	縄文土器 深鉢	16.9	8.3	-	密 良	7.5YR7/4 に bei 黃褐色	7.5YR7/4 に bei 黃褐色	ミガキ?	縄文(斜位)	後期				
54	SX01 (A-4)	縄文土器 深鉢	44.2	6.4	-	密 良	10YR6/2 灰黃褐色	10YR7/3 に bei 黃褐色	ミガキ?	斜縄文	後期				
55	SX01 (A-1)	縄文土器 深鉢	23.7	7.2	-	密 良	10YR7/3 に bei 黃褐色	5YR7/6 棕	ミガキ?	縄文(斜位)	後期				
56	SX01	縄文土器 深鉢	36.8	5.1	-	密 良	7.5YR7/6 棕	10YR7/3 に bei 黃褐色 10YR5/1 暗灰	ナデ?	指頭斜位 縄文RL	後期 微母溫				
57	SX01 (A-2)	縄文土器 深鉢	25.8	5.25	-	密 良	10YR3/2 黑褐	10YR3/2 黑褐	指頭沈締 調整不明(ナデ?)	縄文(斜位)	後期				
58	SX01 (A-2)	縄文土器 深鉢	34.2	4.1	-	密 良	10YR6/4 に bei 黃褐色 N4/4 暗	N4/4 暗 10YR7/1 灰白	ミガキ?	縄文(斜位)	後期 微母溫				
59	SX01	縄文土器 深鉢	22.6	3.05	-	密 良	5YR7/6 棕	5YR6/6 棕	口縁部 両取り	縄文(斜位) 調整不明	後期				
60	SX01 No.26 Z=15.307	縄文土器 深鉢	39.8	7.1	-	密 良	7.5YR6/4 淡黃褐色	7.5YR6/1 暗灰 (7.5YR6/6 淡黃褐色)	ナデ?	指頭斜位 縄文	後期 微母溫 外面にスス付箋				
61	SX01 (A-1)	縄文土器 深鉢	27.0	5.5	-	密 中や不良	10YR6/2 灰黃褐色	10YR6/2 灰黃褐色	調整不明	縄文(斜位)	後期				
62	SX01	縄文土器 深鉢	14.6	3.85	-	粗 不良	7.5YR6/3 に bei 黃褐色	7.5YR7/4 に bei 黃褐色	調整不明	斜縄文 調整不明	後期				
63	SX01	縄文土器 深鉢	16.8	3.4	-	密 中や不良	2.5YB/2 灰白	2.5Y7/1 灰白	調整不明	指頭沈締2条 調整不明	後期				
64	SX01 (A-1)	縄文土器 深鉢	41.7	6.25	-	密 中や不良	10YR6/2 灰黃褐色	10YR7/2 に bei 黃褐色	指頭沈締2条 調整不明	三角三叉文 調整不明	後期前末				

表3 遺物観察表(2)

番号	出土地点	形		態		出土 状況	質 地	色		調査		備考
		基盤	口幅 (cm)	群基 (cm)	底 (cm)			内面	外面	内面	外面	
65	SX01	縄文土器	-	5.05	-	密	良	10YR5/2 灰黄褐	10YR4/1 灰灰	ミガキ	赤彩 玉造三叉文	晚期前葉
66	SX01 (A-2)	縄文土器 浅鉢	11.8	4.2	-	密	良	10YR8/3 浅黄褐	10YR8/3 浅黄褐	調整不明	玉造三叉文	晚期前葉
67	SX01	縄文土器	-	2.45	-	密	良	10YR5/1 灰灰	10YR7/3 にぶい黄褐	調整不明	棒状工具沈締+(西文?) 調整不明	晚期前葉
68	SX01	縄文土器 浅鉢	9.0	3.3	-	密	良	10YR4/2 灰黄褐	10YR8/3 浅黄褐	ミガキ	棒状工具沈締	晚期前葉
69	SX01 (A-2)	縄文土器	-	2.25	-	やや 粗	やや 不良	10YR8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	調整不明	玉造三叉文	晚期前葉
70	SX01	縄文土器 浅鉢?	-	3.35	-	密	良	7.5YR7/4 にぶい褐	7.5YR7/4 にぶい褐	玉造三叉文	縄文(斜削)	晚期前葉
71	SX01 (A-3)	縄文土器	-	4.3	-	密	良	10YR8/3 浅黄褐	10YR7/4 にぶい黄褐	調整不明	縄文(斜削) 式輪 列点文 玉造三叉文?	晚期前葉
72	SX01 (A-1)	縄文土器	-	4.5	-	密	やや 不良	10YR7/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄褐	調整不明	鹿渕溝文+沈締	晚期前葉
73	SX01 (A-3)	縄文土器 浅鉢	29.7	3.3	-	やや 粗	やや 不良	7.5YR6/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	口縁部 へラ状工具 キサミ 調整不明	縄文+棒状工具沈締	晚期前葉
74	SX01 (A-2)	縄文土器 浅鉢	28.7	2.95	-	やや 粗	良	10YR8/3 浅黄褐	10YR6/3 にぶい黄褐	調整不明	棒状工具沈締 調整不明	晚期前葉
75	SX01 (A-2)	縄文土器	-	2.85	-	密	良	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	調整不明(ミガキ?)	縄文+棒状工具による斜手 文	晚期前葉
76	SX01 (A-3)	縄文土器	-	5.6	-	密	良	7.5YR4/2 灰褐	10YR7/3 にぶい黄褐	調整不明(ミガキ?)	斜手文? 縄文	晚期前葉
77	SX01 (A-3)	縄文土器 浅鉢	17.4	1.65	-	密	良	2.5Y4/1 黄灰	10YR4/2 灰黄褐	ミガキ	棒状工具キサミ 棒状工具三叉文	晚期前葉
78	SX01 (A-1)	縄文土器	-	4.25	-	やや 粗	良	7.5YR6/6 植	7.5YR7/6 植	調整不明	縄文+沈締	晚期前葉
79	SX01 (A-2)	縄文土器	-	5.55	-	やや 粗	不良	10YR7/3 にぶい黄褐	10YR7/3 にぶい黄褐	調整不明	棒状工具沈締 斜手文 調整不明	晚期前葉
80	SX01 (A-2)	縄文土器 浅鉢	24.2	4.35	-	密	良	10YR6/3 にぶい黄褐	10YR8/4 浅黄褐	ミガキ?	斜手文 棒状工具沈締 調整不明	晚期前葉
81	SX01 (A-1)	縄文土器 浅鉢	-	3.8	-	密	良	10YR4/1 灰灰	10YR4/1 灰灰	ミガキ 单唇斜縫文 棒状工具による沈締	赤彩 ミガキ 單唇斜縫文 棒状工具による沈締	晚期前葉 赤彩(内外面 とも全体に塗付?)
82	SX01 (A-2)	縄文土器	-	2.6	-	密	良	2.5Y4/1 黄灰	10YR7/3 にぶい黄褐	口縁部 表取り ミガキ	調整不明	晚期前葉
83	SX01 (A-2)	縄文土器	-	5.05	-	密	良	5YR6/4 にぶい褐	5YR7/4 にぶい褐	ミガキ?	調整不明	晚期前葉
84	SX01 (A-2)	縄文土器 浅鉢	14.2	2.95	-	やや 不良	2.5Y6/1 黄灰	10YR8/2 灰白	調整不明	調整不明	晚期前葉	
85	SX01 (A-2)	縄文土器	-	4.15	-	密	良	10YR6/4 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄褐	斜手文	斜手文	晚期前葉
86	SX01 (A-3)	縄文土器 浅鉢	-	3.65	-	密	良	10YR5/2 灰黄褐	7.5YR7/6 植	口縁部 小波状 ミガキ?	縄文(斜削)	晚期前葉
87	SX01 (A-2)	縄文土器 浅鉢	37.3	3.2	-	やや 粗	良	7.5YR7/6 植	10YR7/4 にぶい黄褐	調整不明	調整不明	晚期前葉
88	SX01 (A-2)	縄文土器	-	2.85	-	密	良	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	口縁部 縄文+三叉文 調整不明	斜手文	晚期前葉
89	SX01	縄文土器 浅鉢	30.6	2.5	-	やや 粗	良	10YR8/3 浅黄褐	7.5YR8/4 浅黄褐	口縁部 棒状工具沈 縫隙 赤彩	調整不明	晚期前葉
90	SX01 (A-2)	縄文土器	30.2	3.65	-	密	良	10YR7/3 にぶい黄褐	7.5YR7/4 にぶい褐	口縁部 棒状工具沈 縫隙 ミガキ	ミガキ?	晚期前葉
91	SX01 (A-1)	縄文土器 浅鉢	38.2	2.8	-	密	良	10YR6/3 にぶい黄褐	7.5YR8/2 灰褐	口縁部 三叉文 ミガキ?	ミガキ?	晚期前葉
92	SX01	縄文土器 浅鉢	45.4	6.05	-	やや 粗	良	10YR6/2 灰黄褐	10YR7/3 にぶい黄褐	ミガキ?	調整不明	晚期前葉
93	SX01 (A-1)	縄文土器 浅鉢	41.6	4.0	-	密	良	10YR7/3 にぶい黄褐	7.5YR8/4 浅黄褐	口縁部 表取り ミガキ?	ミガキ?	晚期前葉
94	SX01 (A-2)	縄文土器 浅鉢	29.2	4.45	-	密	良	10YR5/2 灰黄褐	5YR7/6 植	口縁部 沈取+ミガキ ミガキ?	ミガキ?	晚期前葉
95	SX01 (A-2)	縄文土器 浅鉢	20.2	3.45	-	やや 粗	やや 不良	2.5Y5/2 地灰黃	10YR8/3 浅黄褐	調整不明	調整不明	晚期前葉
96	SX01 <sup>1a</sup> IZ-15.404	縄文土器	-	7.85	-	やや 粗	良	10YR3/1 黑褐	7.5YR5/3 にぶい褐 7.5YR7/4 にぶい褐	調整不明	鹿渕溝文+沈締+斜手文	晚期前葉
97	SX01 <sup>1a</sup> IZ-15.375	縄文土器	-	6.95	-	密	良	10YR7/4 にぶい黄褐	10YR4/1 灰灰	調整不明	鹿渕溝文+沈締+斜手文?	晚期中葉

表4 遺物観察表(3)

番号	出土地名	形			色		成形・調整			備考	
		基種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面		外 面			
						質	焼成	内面	外面		
98	SX01 16-36 Z=15.291	縄文土器	-	6.05	-	密 良	5YR7/6 植	5YR7/6 植	ミガキ?	縄文手? 縄文(新位)?	後期中葉
99	SX01 (A-4)	縄文土器	-	4.35	-	やや 相 良	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR7/4 にぶい植	調整不明	縄文+棒状工具による沈錠	後期中葉
100	SX01 (A-1)	縄文土器	-	4.25	-	やや 相 不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	調整不明	縄文+沈錠	後期中葉
101	SX01 (A-3)	縄文土器 茎鉢	18.6	3.7	-	密 良	10YR3/2 黒褐	7.5YR6/4 にぶい植	ミガキ?	ナ? 棒状工具による沈錠+判点文	後期中葉 茎母片証
102	SX01	縄文土器 深鉢	20.3	2.95	-	密 良	10YR3/2 黒褐	5YR6/6 植	口縁部 指標による 小波状 ミガキ?	縄文不明 棒状工具+沈錠+判点文	後期中葉
103	SX01 (A-1)	縄文土器	-	4.9	-	密 良	10YR3/2 黒褐	10YR3/2 黒褐	ミガキ	沈錠間に判点(新位)	後期中葉
104	SX01 (A-2)	縄文土器 深鉢	17.3	2.85	-	密 良	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR7/4 にぶい植	調整不明	縄文 棒状工具沈錠 調整不明	後期中葉
105	SX01 (A-2)	縄文土器	-	3.35	-	否 良	7.5YR6/4 にぶい植	7.5YR5/3 にぶい植	調整不明	ミガキ+定てん縄文+棒状工 具沈錠、判点文	後期中葉
106	SX01 (A-3)	縄文土器	-	2.35	-	密 不良	2.5Y4/1 黄良	10YR7/4 にぶい黄橙	調整不明	縄文+棒状工具沈錠	後期中葉
107	SX01 (A-3)	縄文土器	-	3.25	-	やや 相 不良	10YR6/3 浅黄橙	10YR6/3 浅黄橙	調整不明	押引判点文?	後期中葉
108	SX01 (A-2)	縄文土器 深鉢	18.7	6.2	-	やや 相 不良	10YR6/3 にぶい黄橙	5YR7/8 植	調整不明	縄文? (判点文)判点文 調整不明	後期中葉
109	SX01	縄文土器	-	3.8	-	密 良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	調整不明	縄文+棒状工具沈錠 ヘラ状工具沈錠	後期中葉
110	SX01	縄文土器	-	4.0	-	やや 相	10YR5/2 黑褐	10YR6/1 黑褐	口縁部 小波状 ミガキ	縄文?	後期中葉
111	SX01 (A-3)	縄文土器 茎鉢	35.6	4.0	-	やや 相 不良	10YR3/3 浅黄橙	10YR3/3 浅黄橙	調整不明	口縁部 沈錠+小突起	後期中葉
112	SX01 (A-1)	縄文土器 深鉢	43.8	4.35	-	密 良	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR6/2 黑褐	口縁部 表取り ミガキ	ミガキ	後期中葉
113	SX01	縄文土器 深鉢	19.4	4.9	-	相 良	5YR6/6 植	5YR6/6 植	調整不明	口縁部 沈錠+貼付 三叉文	後期中葉
114	SX01 16-3 Z=15.357	縄文土器 深鉢	29.6	6.25	-	密 良	10YR3/1 黑褐 (10YR7/3 にぶい黄橙) 調	10YR7/6 明赤褐 (10YR5/1 深赤)	調整不明(朱痕ナデ消し?)	口縁部 棒状工具 具沈錠+貼付突起4 位置	後期中葉 雲母混
115	SX01 (A-3)	縄文土器	-	1.9	-	密 良	10YR4/1 深赤	10YR4/2 深赤褐	調整不明	棒状工具沈錠 調整不明	後期中葉
116	SX01 (A-1)	縄文土器 深鉢	29.7	3.85	-	相 良	7.5YR7/6 植	10YR7/4 にぶい黄橙	調整不明	縄文 調整不明	後期中葉
117	SX01 (A-1)	縄文土器 深鉢	25.1	3.8	-	やや 相	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	調整不明	口縁部 棒状工具 ミガキ	後期中葉
118	SX01 (A-3)	縄文土器 深鉢	29.4	2.95	-	密 良	7.5YR7/4 にぶい植	7.5YR7/4 にぶい植	調整不明	口縁部 表取り ミガキ	後期中葉
119	SX01 (A-3)	縄文土器 深鉢	38.9	5.9	-	やや 相	7.5YR7/6 植	5YR7/6 植	調整不明	調整不明	後期中葉
120	SX01 (A-1)	縄文土器 深鉢	33.1	10.6	-	密 良	10YR7/4 にぶい黄橙 (2.5YR5/8 明赤褐調)	10YR7/4 にぶい黄橙 (2.5YR5/8 明赤褐調)	調整不明(二枚貝痕?)	口縁部 工具による ナ? (2枚貝痕?)	後期中葉 雲母混
121	SX01 (A-1)	縄文土器 深鉢	33.0	6.3	-	密 良	5YR6/6 植	5YR6/6 植	口縁部 表取り ミガキ	二枚貝痕	後期
122	SX01 16-37 Z=15.302	縄文土器 深鉢	24.6	5.3	-	密 良	7.5YR8/4 浅黄橙	10YR3/1 黑褐	口縁部 ナデ ミガキ	ナデ 二枚貝痕	後期 雲母混
123	SX01 (A-2)	縄文土器 深鉢	27.0	5.0	-	密 良	7.5YR7/6 植	7.5YR8/3 浅黄橙	ナデ?	二枚貝痕	後期 雲母混
124	SX01 (A-1)	縄文土器 深鉢	24.4	4.8	-	密 良	10YR6/3 浅黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	調整不明	ナデ	後期
125	SX01 (A-1)	縄文土器 深鉢	29.6	5.9	-	密 良	7.5YR7/4 にぶい植 7.5YR6/6 明褐	7.5YR6/6 明褐	ナデ?	ナデ 二枚貝痕	後期 雲母混
126	SX01 (A-2)	縄文土器 深鉢	27.4	10.4	-	密 良	10YR6/2 深赤 10YR4/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙 10YR4/3 にぶい黄橙	ナデ?	無筋糸縄文?	後期 雲母混 外面にスス表記
127	SX01 16-11 Z=15.397	縄文土器 深鉢	18.0	5.3	-	密 良	10YR6/3 逆黄	10YR7/4 にぶい黄橙	口縁部 ナデ ミガキ	ミガキ	後期 雲母混 外面にスス表記
128	SX01 (A-1)	縄文土器 深鉢	17.2	5.85	-	密 良	7.5YR4/2 深赤	10YR6/3 にぶい黄橙	ミガキ	ミガキ	後期

表5 遺物観察表(4)

番号	出土地点	形		胎土	燒成	色		調整		備考	
		器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	質	内面	外面	内面	外面	
129	SX01	縄文土器	-	3.55	-	粗 良	10YR8/3 淡黃褐	7.5YR8/3 淡黃褐	ナデ?	ナデ?	弥生土器?
130	SX01	縄文土器	16.3	3.5	-	粗 不良	10YR8/4 淡黃褐	10YR8/3 淡黃褐	調整不明	調整不明	晚期
131	SX01 (A-2)	縄文土器 鉢	13.8	4.7	-	密 良	10YR4/2 灰黃褐	10YR8/4 にぶい黄褐	ミガキ	ミガキ	晚期 黒褐色混
132	SX01	縄文土器 深鉢	21.7	2.9	-	密 良	10YR4/2 灰黃褐	10YR5/2 灰黃褐	ミガキ	ミガキ	晚期
133	SX01 (A-2)	縄文土器 鉢	-	4.1	-	やや粗 良	10YR8/4 淡黃褐	10YR8/4 淡黃褐	調整不明	調整不明	晚期
134	SX01 (A-1)	縄文土器	-	2.15	-	やや粗 良	10YR7/3 にぶい黄褐	7.5YR7/4 にぶい黄褐	調整不明	調整不明	弥生土器?
135	SK03 (A-4)	縄文土器	-	2.05	-	密 良	10YR7/4 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黃褐 赤影 2.5YR5/6 明赤褐	ナデ?	赤影 ヘラ状工具による沈線(4状文)	
136	SK03 (A-4)	縄文土器	-	3.4	-	密 良	10YR8/2 白灰	10YR7/4 にぶい黄褐	調整不明	調文	
137	SK03 (A-4)	縄文土器 深鉢	31.2	6.15	-	やや粗 良	10YR7/3 にぶい黄褐	10YR7/3 にぶい黄褐	調整不明	調文	
138	SK03 (A-4)	縄文土器 鉢	-	3.65	-	やや粗 良	10YR7/4 にぶい黄褐	5YR7/6 暗	ナデ?	調文 棒状工具による沈線	
139	SK03 (A-4)	縄文土器 深鉢	21.6	1.7	-	密 良	10YR4/1 梅紅	7.5YR7/4 にぶい暗	調整不明	斜調文	
140	SK03 (A-4)	縄文土器 浅鉢か鉢	39.4	9.7	-	密 良	7.5YR5/2 反塊 (7.5YR8/4 淡黃褐混)	7.5YR4/2 反塊 7.5YR7/4 にぶい暗	ミガキ	調整不明 平行沈線(棒状工具2条) 複数斜調文 沈線(棒状工具) ミガキ	雲母混
141	SK03 (A-4)	縄文土器	-	3.0	-	密 良	10YR7/3 にぶい黄褐	10YR7/3 にぶい黄褐	調整不明	調整不明 沈線 調文	
142	SK03 (A-4)	縄文土器	-	2.5	-	密 良	7.5YR7/6 暗	5YR6/6 暗	口縁部 三文 ミガキ	横調文 沈線	
143	SK03 (A-4)	縄文土器 鉢	37.8	2.45	-	密 良	10YR7/4 にぶい黄褐	7.5YR7/4 にぶい暗	調整不明	ヘラ状工具によるキザミ 調文(斜位)	
144	SK03	縄文土器	-	2.9	-	やや粗 良	2.5Y5/1 黄灰	10YR7/3 にぶい黄褐	調整不明	調整不明 調文	
145	SK03 (A-4)	縄文土器	-	2.6	-	密 良	10YR6/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄褐	調整不明	口縁部 ヘラ状工具 による沈線 調整不明	
146	SK03 (A-4)	縄文土器 深鉢	20.7	5.6	-	密 良	10YR6/4 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄褐	調整不明	口縁部 キザミ ナデ?	調文(斜部斜調文)後三文 か入組文
147	SK03 (A-4)	縄文土器	-	4.7	-	密 良	10YR7/3 にぶい黄褐	10YR8/4 淡黃褐	調整不明(ミガキ?)	沈線+斜点文	
148	SK03 (A-4)	縄文土器	-	3.5	-	やや粗 良	10YR7/4 にぶい黄褐	10YR7/4 にぶい黄褐	口縁部 棒状工具に よるキザミ 調整不明	調文 棒状工具による沈線	
149	SK03 (A-4)	縄文土器 浅鉢	32.0	4.35	-	やや粗 良	10YR7/4 にぶい黄褐 赤影 5YR6/6 暗	10YR7/4 にぶい黄褐 赤影 5YR6/6 暗	調整不明	赤影 調文(横位) 沈線(棒状工具)	
150	SK03	縄文土器 鉢	15.8	3.5	-	やや粗 良	7.5YR7/6 暗	5YR6/6 暗	調整不明	調整不明 ヘラ状工具による沈線	
151	SK03 (A-4)	縄文土器 深鉢	19.5	3.6	-	密 不良	10YR7/3 にぶい黄褐	10YR7/3 にぶい黄褐	ミガキ	棒状工具沈線(入組文?)	
152	SK03 (A-4)	縄文土器 鉢	21.7	2.8	-	密 良	10YR6/2 灰黃褐	10YR6/3 にぶい黄褐	ミガキ	調文 棒状工具による斜線+沈線	
153	SK03	縄文土器	-	2.55	-	密 良	10YR4/2 灰黃褐	10YR7/3 にぶい黄褐	調整不明	赤影 沈線 調文 棒状工具斜突	
154	SK03 (A-4)	縄文土器	-	2.6	-	密 良	10YR6/3 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黃褐	ナデ?	赤影 調文+棒状工具沈線	
155	SK03 (A-4)	縄文土器	-	3.0	-	密 良	SYR5/6 明赤褐 SYR4/3 にぶい赤褐	SYR5/6 明赤褐 10YR3/2 黑褐	調整不明	棒状工具による斜突と沈線 新調文	全体に黒げてい る?
156	SK03 (A-4)	縄文土器	-	4.5	-	粗 良	5YR7/6 暗 10YR7/3 にぶい黄褐	10YR8/4 淡黃褐	調整不明	調文 棒状工具による斜突 調整不明	
157	SK03 (A-4)	縄文土器	-	2.3	-	密 良	10YR8/2 白灰	10YR7/2 にぶい黄褐 調整不明	口縁部 ヘラ状工具 による斜突 調整不明	調文 棒状工具による斜突 調整不明	
158	SK03	縄文土器 深鉢	39.4	2.6	-	密 良	7.5YR4/2 灰褐	10YR5/3 にぶい黄褐	ミガキ	斜調文 棒状工具斜突	

表 6 遺物観察表 (5)

番号	出土地点	形			胎土 質	色		成形・調整		備考
		器種	口径 (cm)	底面 (cm)		底面 (cm)	底面 (cm)	内面	外面	
159	SK03 (A-4) 深鉢	縄文土器	34.6	4.4	-	密 良	7.5YR7/4 にぶい黄	10YR7/3 にぶい黄	口縁部 指面による 小波状 ミガキ?	角度?
160	SK03 (A-4) 深鉢	縄文土器	24.9	8.2	-	やや 粗	良 2.5Y6/2 灰黄	10YR7/3 にぶい黄	調整不明	調整不明(ヘラ状工具による ナデ?) 斜尻(棒状工具)
161	SK03 (A-4) 深鉢	縄文土器	11.6	2.95	-	密 良	7.5YR7/6 棕	10YR7/4 にぶい黄	口縁部 指面による 小波状 調整不明	調整不明
162	SK03 (A-4) 深鉢	縄文土器	-	3.6	-	密 良	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄	ミガキ?	調整不明
163	SK03 (A-4) 深鉢	縄文土器	49.4	4.65	-	やや 粗	良 10YR5/1 棕灰	10YR6/3 にぶい黄	口縁部 ヘラ状工具 によるナデ? ミガキ?	調整不明(棒状工具?)
164	SK03 (A-4) 深鉢	縄文土器	28.8	3.95	-	密 良	10YR7/4 にぶい黄	10YR6/3 にぶい黄	口縁部 ヘラ状工具 によるナデ? ミガキ?	ナデ?
165	SK03 (A-4) 深鉢	縄文土器	36.7	3.0	-	やや 粗	良 10YR8/3 淡黄	10YR8/3 淡黄	口縁部 等状工具に よる削除 調整不明	調整不明
166	SK03 (A-4) 深鉢	縄文土器	18.0	5.9	-	やや 粗	良 7.5YR8/3 淡黄	10YR8/3 淡黄	ナデ?	貝殻条痕文
167	SK03 (A-4) 深鉢	縄文土器	40.1	5.8	-	やや 粗	良 7.5YR7/4 にぶい黄	10YR7/3 にぶい黄	調整不明	角度?
168	SK03 (A-4) 深鉢	縄文土器	-	4.7	-	密 良	10YR5/2 灰黄	7.5YR7/4 にぶい黄	ミガキ	二枚貝各底
169	SK03 (A-4) 浅鉢	縄文土器	17.0	2.6	-	密 良	10YR8/2 灰白	10YR8/4 淡黄	ヘラ状工具による波 紋 調整不明	調整不明
170	SK03 (A-4) 深鉢	縄文土器	10.1	4.2	-	粗 良	7.5YR8/6 淡黄	7.5YR8/6 淡黄	調整不明	調整不明
171	SK03 (A-4) 深鉢	縄文土器	24.8	3.6	-	やや 粗	良 7.5YR7/4 にぶい黄	5YR7/4 にぶい黄	調整不明	調整不明
172	SK03 (A-4) 深鉢	縄文土器	-	3.45	-	密 良	2.5Y5/1 黄	10YR4/1 棕灰	調整不明	調整不明
173	SK03 (A-4) 深鉢	縄文土器	-	3.2	-	密 中 中 不均	10YR7/4 にぶい黄	7.5YR8/4 にぶい黄	調整不明	横文? クシ状工具波状文2条 横文
174	SK03 (A-4) 浅鉢	縄文土器	36.6	2.9	-	やや 粗	良 10YR7/1 灰白	10YR8/2 灰白	調整不明	調整不明
175	SK03 (A-4) 浅鉢	縄文土器	16.0	2.4	-	密 良	10YR7/4 にぶい黄	10YR7/2 にぶい黄	ミガキ?	調整不明
176	SK03 (A-4) 深鉢	縄文土器	-	2.35	8.6	やや 粗	良 10YR8/3 淡黄	10YR8/4 淡黄	調整不明	ケズリ 一部網代工具痕?
177	SK03 (A-4) 深鉢	縄文土器	-	2.75	5.6	やや 粗	良 7.5YR7/4 にぶい黄	10YR8/2 灰黄	調整不明	調整不明
178	SK03 (A-4) 深鉢	縄文土器	-	3.35	4.6	粗 良	10YR7/3 にぶい黄	7.5YR7/4 にぶい黄	調整不明	調整不明
179	SK03 (A-4) 深鉢	縄文土器	-	5.8	6.3	粗 良	10YR7/4 にぶい黄	2.5Y7/8 棕	調整不明	調整不明
180	SK05	縄文土器	-	2.55	-	密 良	10YR5/2 灰黄	10YR8/4 淡黄	調整不明	羽状織文
181	SK05	縄文土器	8.5	2.15	-	密 良	10YR8/3 にぶい黄	10YR7/4 にぶい黄	調整不明	沈縫
182	SK05	縄文土器	-	2.7	-	やや 粗	良 10YR7/4 にぶい黄	10YR8/2 灰白	口縁部 実起 調整不明	沈縫+瘤?
183	SK05	縄文土器	28.0	3.75	-	密 良	10YR7/3 にぶい黄	10YR7/2 にぶい黄	ナデ?	斜縫文
184	SK05	縄文土器	24.7	3.3	-	密 良	10YR8/4 淡黄	10YR8/3 にぶい黄	調整不明	指痕沈縫
185	SK05	縄文土器	-	2.55	-	密 良	5YR6/6 棕	5YR6/6 棕	調整不明	調整不明 沈縫 斜縫+指痕沈縫(底)
186	SK05	縄文土器	34.5	4.9	-	密 良	10YR6/3 にぶい黄	10YR5/2 灰黄	ナデ?	斜縫文
187	SK05	縄文土器	25.0	2.6	-	密 良	10YR6/3 にぶい黄	10YR7/2 にぶい黄	調整不明	調整不明 ヘラ状工具沈縫
188	SK05	縄文土器	31.6	2.1	-	密 良	10YR7/3 にぶい黄	10YR6/2 灰黄	調整不明(ミガキ?)	等状工具沈縫
189	SK05	縄文土器	-	2.3	-	密 良	10YR6/2 灰黄	10YR7/4 にぶい黄	ミガキ?	玉抱三叉文+沈縫
190	SK05	縄文土器	34.8	5.3	-	密 良	10YR7/4 にぶい黄	5YR6/6 棕	口縁部 円形波状ミ カキ	斜縫文
191	SK05 No.16 Z-15.614	縄文土器 盤	12.0	3.2	-	密 良	5YR4/6 未赤	2.5Y5/8 明赤	口縁部 等状工具に よるキザミ 調整不明(ミガキ?)	細かい横縫+斜縫状文

表7 遺物観察表(6)

番号	出土地点	形			胎土	焼成	色		成形・調整		
		器種	口径(cm)	底面(cm)			質	内面	外面		
		縦文土器 泥鉢	-	4.8	-	直	良	10YR5/2灰黄褐色	10YR6/3にぶい黄褐色	ミガキ?	
192	SK05	縦文土器 泥鉢	-	3.2	-	直	良	10YR5/2灰黄褐色	7.5YR4/2灰褐色	調整不明	赤彩+斜文 ミガキ
193	SK05	縦文土器 泥鉢	-	3.7	-	直	良	10YR7/4にぶい黄褐色	10YR7/4にぶい黄褐色	ヘラ状工具キザミ 縦文(斜位)	
194	SK05	縦文土器 泥鉢	37.3	5.15	-	直	良	10YR7/4にぶい黄褐色	10YR7/4にぶい黄褐色	ヘラ状工具キザミ 縦文(斜位)	
195	SK05	縦文土器 泥鉢	-	4.2	-	やや粗 不良	中や 不良	7.5YR7/6 植	10YR7/3にぶい黄褐色	ナデ?	棒状工具による押引(点文 縦文+棒状工具泥線)
196	SK05	縦文土器 泥鉢	-	3.7	-	密	不良	10YR8/3浅黄褐色	10YR8/3浅黄褐色	調整不明	赤彩 棒状工具列点文 縦文(斜位)
197	SK05	縦文土器 泥鉢	-	1.85	-	密	中や 不良	10YR5/2灰黄褐色	2.5Y5/2 線灰褐色	調整不明	赤彩 棒状工具列点文
198	SK05	縦文土器 泥鉢	-	3.9	-	直	良	10YR7/4にぶい黄褐色	10YR8/4にぶい黄褐色	調整不明	沈殿+斜突 赤彩?
199	SK05	縦文土器 泥鉢	-	3.3	-	直	中や 不良	10YR5/2灰黄褐色	10YR6/3にぶい黄褐色 赤彩 10R4/6赤	ミガキ?	赤彩 棒状工具列点文 ミガキ?
200	SK05	縦文土器 泥鉢	19.3	1.85	-	直	不良	10YR4/1褐灰	10YR8/3浅黄褐色	ミガキ?	縦文+棒状工具泥線
201	SK05	縦文土器 泥鉢	14.6	3.5	-	やや粗 良	良	10YR8/2灰黄褐色	2.5Y5/1 褐灰	調整不明	赤灰
202	SK05	縦文土器 泥鉢	-	6.1	-	密	良	7.5YR6/6 植	10YR4/1褐灰	口縁部 指壓による 小波状 泥状(点文)泥線	赤灰?
203	SK05 No.22 Z=15.514	縦文土器 泥鉢	19.2	3.1	-	密	良	7.5YR7/4にぶい植	10YR5/1褐灰	調整不明	口縁部 ヘラ状工具 キザミ(斜位) 調整不明
204	SK05	縦文土器 泥鉢	47.1	3.6	-	密	良	7.5YR7/6 植	5YR6/6 植	調整不明	棒状工具キザミ
205	SK05	縦文土器 泥鉢	30.9	2.9	-	密	良	10YR6/2灰黄褐色	10YR4/2灰黄褐色	調整不明(ミガキ?) 調整不明(ミガキ?)	
206	SK05	縦文土器 泥鉢	-	0.9	-	密	良	2.5Y8/1 赤白 2.5YR6/6 植	2.5Y5/1 褐灰	調整不明	耐火(鉛条?)
207	SK16	縦文土器 泥鉢	-	2.95	-	密	良	10YR5/2灰黄褐色	10YR4/1褐灰	口縁部 指壓による 小波状 棒状工具泥線 調整不明	赤文
208	SK16	縦文土器 泥鉢	-	3.65	-	密	良	10YR6/3にぶい黄褐色	7.5YR4/3褐	調整不明	ヘラ状工具泥線(三叉文?) 調整不明
209	SK16	縦文土器 泥鉢	-	2.5	-	やや粗 不良	中や 不良	10YR5/2灰黄褐色	10YR4/3にぶい黄褐色	調整不明	赤文+沈殿?
210	SK16	縦文土器 泥鉢	-	2.65	-	やや粗 良	良	10YR5/2灰黄褐色	10YR4/1褐灰	調整不明	縦文+ヘラ状工具泥線
211	SK15	縦文土器 泥鉢	-	3.0	-	密	良	10YR5/2灰黄褐色	10YR8/4浅黄褐色	口縁部 ヘラ状工具 泥線+キザミ 調整不明	
212	SK15 b.1 Z=15.660	縦文土器 泥鉢	39.6	6.25	-	やや粗 良	良	5YR6/6 植	5YR6/6 植	口縁部 斜取り? 調整不明	指跡(斜位) 縦文(斜位)
213	SK15	縦文土器 泥鉢	29.0	12.1	-	密	良	7.5YR6/6 植	7.5YR6/6 植	ミガキ	單面斜文
214	SK15	縦文土器 泥鉢	19.7	11.4	-	密	良	7.5YR6/4にぶい植	10YR6/3にぶい黄褐色 SYR6/6 植	調整不明 焦げ跡あり	赤文(横~斜位)
215	SK15 b.1 Z=15.660	縦文土器 泥鉢	34.8	10.45	-	密	良	7.5YR7/6 植	10YR8/4浅黄褐色	ナデ?	赤文(斜位)
216	SK15-16	縦文土器 泥鉢	-	4.2	-	やや粗 良	良	10YR5/1褐灰	10YR5/2灰黄褐色 赤彩 10R3/6 薄赤	調整不明	赤彩 斜文 棒状工具泥線 廃消?
217	SK15	縦文土器 泥鉢	-	3.1	-	密	良	10YR6/3にぶい黄褐色	7.5YR6/3にぶい褐 赤彩 10R4/6赤	ミガキ	赤彩 斜文+棒状工具泥線
218	SK16	縦文土器 泥鉢	-	2.95	-	密	良	7.5YR6/4にぶい植	7.5YR7/6 植	ミガキ	赤文+棒状工具泥線
219	SK15-16	縦文土器 泥鉢	11.3	5.4	-	粗	中や 不良	10YR7/4にぶい黄褐色	2.5Y6/1 褐灰	調整不明	調整不明
220	SK15-16	縦文土器 泥鉢	31.3	3.35	-	やや粗 不良	中や 不良	7.5YR7/6 植	10YR7/3にぶい黄褐色	調整不明	指跡(斜位)による小波状 調整不明
221	SK16	縦文土器 泥鉢	31.8	7.3	-	密	良	10YR7/6明黄褐色	7.5YR7/6 褐灰	ミガキ	ナデ
222	SK15b. Z=15.605	縦文土器 泥鉢	-	7.5	-	やや粗 良	良	10YR4/2灰黄褐色	10YR6/3にぶい黄褐色	ミガキ?	二枚貝赤灰
223	SK16	縦文土器 泥鉢	-	2.15	-	密	良	7.5YR6/4にぶい植	7.5YR5/3にぶい褐	調整不明	赤灰?

表8 遺物観察表(7)

番号	出土地点	形 塵			土 質	色 調		成形・調整		備 考	
		器種	口徑 (cm)	高さ (cm)	裏 表 (cm)	内 面	外 面	内 面	外 面		
						焼成					
224	SK16	縄文土器	—	2.7	—	良	10YR5/2 黒黄褐	10YR5/2 黑黄褐	調整不明	調整不明	注口土器の注口 留め合
225	X-8164281 Y=85.540 Z=15.412	SX01 縄文土器 深鉢	—	3.6	9.15	密	良	10YR7/4 にぶい黄褐	10YR7/3 にぶい黄褐	調整不明	縄文(縫合) 時代
226	SX01 (A-2)	縄文土器 深鉢	—	5.75	10.0	密	良	7.5YR6/6 略	7.5YR6/6 略	ヨコナデ ヘラナデ 下→上 黒斑	ヨコナデ後綱文 ヘラケズリ 下→上 ヘラケズリ後ヨコナデ 綱代後 (2本組み、2本潜 り、1本送り) 縄維の幅0.3
227	SX01 (A-2)	縄文土器	—	2.65	10.0	密	良	10YR7/3 にぶい黄褐	5YR7/6 略	調整不明	調整不明 時代
228	土器・抹土 縄文土器	—	1.7	5.7	—	やや粗	良	10YR6/3 にぶい黄褐	10YR5/2 黑黄褐	調整不明	調整不明 時代
229	SX01	縄文土器	—	1.85	13 8	密	良	10YR4/1 滅灰	10YR7/3 にぶい黄褐	調整不明	調整不明 時代
230	SX01 (A-1)	縄文土器	—	3.0	5.5	密	良	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい褐	ミガキ	ミガキ 時代
231	SX01	縄文土器	—	4.4	7.5	—	良	7.5YR7/4 にぶい褐	10YR7/4 にぶい黄褐	調整不明	ナデ? 時代
232	SX01 (A-2)	縄文土器	—	3.95	5.4	—	良	10YR7/3 にぶい黄褐	10YR7/3 にぶい黄褐	調整不明	調整不明 縫状圧痕
233	SX01 (A-2)	縄文土器	—	4.1	8.4	密	良	10YR6/2 黑黄褐	7.5YR7/4 にぶい褐	調整不明	調整不明 綱代後ナデ?
234	包含層 A-3	縄文土器	—	3.15	5.4	密	良	7.5YR6/6 略	10YR6/3 にぶい黄褐	ミガキ	調整不明
235	SK14	縄文土器	—	2.65	—	密	良	10YR3/1 黒褐	7.5YR4/2 滅灰	ミガキ?	棒状工具式縫+糸点文 縄文(縫合)
236	SK15	縄文土器 深鉢	26.0	2.75	—	やや粗 不良	良	10YR8/4 浅黄褐	10YR8/4 浅黄褐	縄文(縫合) 調整不明	縄文後期
237	SK15	縄文土器	—	1.9	—	密	良	10YR5/2 黑黄褐	10YR6/1 滅灰	調整不明	縫状工具式縫 縫文?
238	SK15	縄文土器	—	4.05	—	粗	良	7.5YR7/4 にぶい褐	7.5YR7/4 にぶい褐	縫接による押さえ? 調整不明	ヘラ状工具縫
239	SK15	縄文土器	—	2.65	—	密	良	7.5YR7/4 にぶい褐	7.5YR7/4 にぶい褐	調整不明	縫文後期
240	SK19	燒結土塊	—	2.0	—	密	やや粗 不良	10YR7/4 にぶい黄褐	10YR7/4 にぶい黄褐	重現 指頭圧痕	重現 指頭圧痕
241	SP24	縄文土器	—	2.9	—	やや粗	良	7.5YR7/6 略	10YR8/2 白灰	調整不明	縄文鉛位 沈殿 調整不明
242	SK26	縄文土器	—	2.75	—	密	やや粗 不良	10YR7/4 にぶい黄褐 10YR5/2 黑黄褐	10YR8/3 浅黄褐	口縦部 キザミ 調整不明	柔度?
243	SK26	縄文土器	—	2.75	—	密	良	10YR8/2 白灰	10YR8/2 白灰	調整不明	斜縄文+沈殿
244	SK26	縄文土器	—	1.9	—	密	良	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	口縦部 棒状工具キ ザミ 調整不明	斜縄文 棒状工具式縫
245	SK26	縄文土器 深鉢	17.7	2.8	—	密	良	10YR6/3 にぶい黄褐	10YR5/2 黑黄褐	ミガキ?	斜縄文 棒状工具式縫 ナデ?
246	SK26	縄文土器 深鉢	14.5	2.35	—	やや粗	良	7.5YR6/2 滅灰	10YR7/3 にぶい黄褐	調整不明	羽状縫文 式縫
247	SK26	縄文土器	—	3.95	—	粗	良	7.5YR7/6 略	7.5YR7/4 にぶい褐	調整不明	縄文+沈殿
248	SK26	縄文土器	—	5.8	—	密	良	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR4/3 滅	調整不明	懸垂
249	SK26	縄文土器	—	4.65	—	密	良	10YR4/1 滅灰	7.5YR4/2 滅灰	ミガキ?	羽状縫文+棒状工具沈殿
250	包含層 A-2	縄文土器 深鉢	—	3.6	—	密	良	10YR5/2 黑黄褐	2.5Y/3/1 星堆	密度不明(ナデ?)	密度縫文+棒状工具沈殿 突起
251	包含層 A-1	縄文土器	—	3.15	—	密	良	10YR5/2 黑黄褐	10YR4/1 滅灰	調整不明	密度縫文
252	包含層 A-2	縄文土器	—	3.75	—	密	良	10YR5/2 黑黄褐	N/3/1 滅灰	調整不明(ナデ?)	密度縫文(沈殿)
253	包含層 A-2	縄文土器	—	4.25	—	密	良	10YR5/2 黑黄褐	10YR4/1 滅灰	調整不明(ナデ?)	密度縫文(突堤?)
254	包含層 A-2	縄文土器	—	3.3	—	密	良	10YR6/2 黑黄褐	2.5Y/4/1 黄灰	調整不明	密度縫文+棒状工具沈縫 (縫・横)
255	包含層 A-2	縄文土器 深鉢	11.6	2.55	—	やや粗	良	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい褐	ミガキ	斜状縫文
256	包含層 A-1	縄文土器	—	5.35	—	密	良	7.5YR6/4 にぶい褐	10YR5/2 黑黄褐	調整不明	密度縫文
257	包含層 A-1	縄文土器	—	3.3	—	やや粗	良	7.5YR6/4 にぶい褐	10YR6/3 にぶい黄褐	調整不明	密度縫文+沈縫
258	包含層 A-1	縄文土器 深鉢	13.2	3.1	—	密	良	10YR4/1 滅灰	10YR5/2 黑黄褐	調整不明(ナデ?)	縫文(縫?)
259	包含層 北側	縄文土器 深鉢	26.5	4.95	—	やや粗	良	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR4/2 滅灰	調整不明	羽状縫文

表 9 遺物観察表 (8)

番号	出土地点	形			地土 焼成	色		成形・調整		備考		
		器種	口径 (cm)	高さ (cm)		裏厚 (mm)	質	内面	外面			
250	包含層 漆跡	縄文土器	27.6	4.2	—	密	良	10YR6/2 灰黄褐色	10YR4/1 暗灰	ミガキ	縄文(斜位)	
261	包含層 A-5	縄文土器 漆跡	19.6	5.3	—	密	良	10YR5/2 暗黄褐色 (10YR8/4 淡黄褐色)	10YR4/1 暗灰 (10YR8/2 反白度)	ミガキ?	単擦糸縄文 沈透文	
262	包含層 A-5	縄文土器 漆跡	31.3	5.6	—	やや 粗	やや 不良	7.5YR7/6 棒	7.5YR6/6 棒	調整不明	原文	
263	包含層 各層	縄文土器	—	3.9	—	やや 粗	良	10YR4/2 灰黄褐色	10YR3/2 黄褐色	ミガキ	棒状工具式継・刺突文 ミガキ	
264	包含層 A-2	縄文土器 漆跡	22.9	4.15	—	粗	良	10YR6/3 にい黃褐色	10YR6/3 にい黃褐色 7.5YR5/1 地灰	調整不明(ミガキ?) 縄文	後期	
265	包含層 A-2	縄文土器	—	3.3	—	やや 粗	良	10YR7/3 にい黃褐色	10YR5/2 反黄褐色	調整不明	後期	
266	包含層 A-2	縄文土器 漆跡	—	5.0	—	やや 粗	良	10YR7/3 にい黃褐色	10YR7/3 にい黃褐色	調整不明	磨溝縄文 棒狀工具式継	
267	包含層 A-1	縄文土器 漆跡	29.4	3.7	—	密	良	7.5YR6/4 にい黄褐色	7.5YR6/4 にい黄褐色	口縫部 調整不明 ミガキ	口縫部 調整不明 ミガキ	
268	包含層 A-4	縄文土器	—	3.4	—	密	良	10YR7/3 にい黄褐色	10YR6/2 反黄褐色	口縫部 断裂(?)	縄文(斜位)・指標痕	
269	包含層 A-5	縄文土器	—	3.65	—	やや 粗	良	10YR5/2 反黄褐色	10YR4/1 暗灰	調整不明	後期	
270	包含層 A-2	縄文土器	—	3.1	—	密	良	10YR7/2 にい黄褐色	10YR8/2 反灰	後期(?) 棒状工具立溝1条	ミガキ	
271	縄文区東側	縄文土器	—	2.0	—	密	良	7.5YR7/6 棒	7.5YR7/6 棒	調整不明	調整不明	
272	包含層 A-2	縄文土器 漆跡	18.8	3.3	—	密	良	10YR5/2 反黄褐色 真(7.5YR6/4 にい黄褐色)	10YR4/2 反黄褐色 (7.5YR7/4 にい黄褐色)	口縫部 ミガキ ナデ	単擦糸縄文	
273	包含層 A-2	縄文土器	—	4.75	—	粗	良	10YR6/2 反黄褐色	10YR6/2 反黄褐色	口縫部 調整不明 ミガキ	縄文(斜位)	
274	包含層 A-2	縄文土器	—	27.5	3.45	—	密	良	7.5YR7/4 にい黄褐色	2.5YR2/1 黑	口縫部 調整不明 ミガキ	黑色 化?
275	包含層 A-2	縄文土器 漆跡	22.4	3.2	—	密	良	7.5YR6/4 にい黄褐色 (7.5YR7/4 にい黄褐色)	7.5YR7/4 にい黄褐色	ナデ	縄文(?)	
276	包含層 A-5	縄文土器 漆跡?	—	3.85	—	やや 粗	不良	10YR8/4 洋灰褐色	2.5YR1/1 白灰	調整不明	後期	
277	齊士塚 北側	縄文土器	—	6.2	—	密	良	10YR7/3 にい黄褐色	10YR7/4 にい黄褐色	ミガキ?	磨溝縄文	
278	包含層 A-5	縄文土器	—	8.85	—	粗 やや 不良	良	10YR7/3 にい黄褐色	10YR7/4 にい黄褐色	口縫部 小波状 調整不明	縄文・沈透(?)	
279	包含層 A-5	縄文土器 漆跡	—	3.45	—	密	良	7.5YR8/4 浅黄褐色	7.5YR8/6 浅黄褐色	調整不明	縄文・沈透(玉括三叉文)	
280	包含層 A-2	縄文土器	—	3.7	—	密	良	10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/3 にい黄褐色	調整不明	縄文・沈透(玉括三叉文)	
281	包含層 A-2	縄文土器	—	2.55	—	粗	良	10YR8/3 浅黄褐色	7.5YR7/4 にい黄褐色	口縫部 ヘラ狀工具三叉文	後期前葉	
282	包含層 A-2	縄文土器	—	3.7	—	粗 やや 不良	良	7.5YR7/4 にい黄褐色	10YR7/4 にい黄褐色	調整不明	調整不明	
283	包含層 A-5	縄文土器	—	3.55	—	粗 やや 不良	良	10YR8/3 淡黄褐色	7.5YR8/4 浅黄褐色 10YR8/2 反黄褐色	口縫部 キザミ 調整不明	縄文(斜位) 淡透	
284	包含層 A-2	縄文土器	35.2	4.65	—	密	良	10YR7/2 にい黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	口縫部 斜面リ+突起 +薄肉(斜位)	ミガキ	
285	包含層 A-2	縄文土器	38.5	4.8	—	やや 粗	良	10YR5/2 反黄褐色	7.5YR5/4 にい黄褐色	調整不明	地輪泊葉	
286	包含層 A-5	縄文土器 漆跡	12.4	3.4	—	密	良	5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	口縫部 小突起+キザミ ナデ	単擦糸縄文沈透 縄文(半束状文、入瓶文、点列文)	
287	齊士・塚上	縄文土器	—	2.95	—	密	良	7.5YR6/6 棒	5YR6/5 棒	調整不明	縄文(斜位) 半束状文	
288	包含層 A-5	縄文土器 漆跡	13.0	2.15	—	やや 粗	やや 不良	10YR8/3 淡黄褐色	7.5YR7/4 にい黄褐色	調整不明	半束状文	
289	包含層 A-4	縄文土器	—	2.75	—	密	良	7.5YR6/3 にい黄褐色	10YR5/2 反黄褐色	調整不明	棒状工具式継	
290	縄文区東側 窓跡	縄文土器 漆跡	20.6	3.9	—	密	良	10YR5/3 にい黄褐色	10YR5/2 反黄褐色 10YR4/2 反黄褐色	調整不明	縄文・列点文 半束状文	
291	包含層 A-4	縄文土器	—	2.75	—	やや 粗	やや 不良	10YR8/3 淡黄褐色	10YR8/3 淡黄褐色	口縫部 キザミ+小突起 調整不明	列点文	
292	包含層 A-2	縄文土器	—	4.65	—	やや 粗	やや 不良	10YR8/2 反灰	10YR8/1 暗灰	ミガキ?	縄文手 縄文(斜位)	
293	包含層 A-1	縄文土器	—	2.6	—	密	良	10YR6/2 反黄褐色	7.5YR8/4 浅黄褐色	ナデ?	棒状工具式継 半束状文	
294	包含層 A-2	縄文土器 漆跡	19.8	2.2	—	密	良	10YR3/2 黄褐色 (10YR7/3 にい黄褐色)	7.5YR4/3 奈 (10YR7/3 にい黄褐色)	口縫部 小突起(?)+小突起 ナデ(基盤不透明)	半束 工具底による剥落 縄文(斜位)	
295	包含層 A-2	縄文土器 漆跡	24.7	2.7	—	密	やや 粗	10YR6/2 反黄褐色	10YR8/2 反灰	口縫部 小突起(?)+小突起 ミガキ(基盤不透明)	半束 縄文(斜位)	
296	土質	縄文土器 漆跡	46.0	3.45	—	やや 粗	良	2.5YR6/6 棒	5YR6/6 棒	口縫部 佛狀工具沈透 突起+突起3条+文 調整不明	後期前葉	
297	縄文区東側	縄文土器 漆跡	—	3.2	—	やや 粗	良	10YR5/2 反黄褐色	10YR5/3 にい黄褐色	調整不明	地輪泊葉 地輪泊葉	
298	包含層 A-5	縄文土器 漆跡	30.2	4.65	—	やや 粗	良	7.5YR7/6 棒	7.5YR7/4 にい黄褐色	調整不明	安泰?キザミ 一枚目基盤後ナデ?	凸帶?

表 10 遺物観察表 (9)

番号	出土地点	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	胎土	焼成	色調		備考
								内面	外面	
299	SX01	土板	4.9	6.8	1.7	密	良	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐	微量の金銀母を含む
300	SX01 (A-3)	不明土製品	4.55	3.25	0.8	密	やや不良	2.5Y3/2 灰白	10YR7/4 にぶい黄褐	
301	SX01	有孔球状土製品	4.4	5.65	3.2	密	良	10YR7/3 にぶい黄褐	10YR7/3 にぶい黄褐	
302	SK03 (A-4)	土偶(足)	4.8	2.9	2.3	密	良	7.5YR7/4 にぶい褐	7.5YR7/4 にぶい褐	
303	包含層 C-6	土偶(左手)	4.15	2.35	2.5	密	良	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	
304	包含層 A-5	断面突起	4.3	2.8	1.05	密	良	5YR7/6 棕	5YR7/6 棕	イノシシ形

表 11 遺物観察表 (10) (土製品)

番号	出土地点	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考		
								玉頭か	1.6	尖基脚
305	SK19	石鎚	玉頭か	28.0	10.9	6.6	1.6	尖基脚		
306	SX01 (A-3)	打製石斧	安山岩	106.3	60.0	19.1	115.0	圓形 片面に厚擦面残存		
307	SX01 (A-4)	打製石斧	安山岩	154.0	70.1	26.1	370.0	分側形 片面に厚擦面残存 一部被熱 磨石or砾石を転用か		
308	SK03 (A-4)	打製石斧	安山岩	30.0	73.1	17.1	32.8	片面に厚擦面残存 一部被熱 磨石or砾石を転用か		
309	SX01 (A-3)	擦切石器	砂岩	79.5	52.9	12.4	62.2	打製石斧を転用か 被熱痕あり		
310	SK03 (A-4)	磨製石斧	砂岩	33.5	26.2	21.5	20.3	定角式		
311	SK05	磨製石斧	砂岩	25.9	41.9	17.7	20.6	定角式		
312	SK05	磨製石斧	蛇紋岩	64.0	84.3	33.6	283.0	定角式 ネオジウム磁石に強く反応 勝船率14.0~17.0×10 <sup>3</sup> S/(IB中地質鏡WSL-C) 中村のいう蛇紋岩と同定		
313	SX01 (A-2)	打製石斧	安山岩	92.0	78.2	39.2	379.0	片面に厚擦面残存 磨石or砾石を転用か		
314	SX01 (A-1)	打製石斧	砂岩?	109.5	62.7	37.0	347.0	片面に厚擦面残存 長楕円形の縦を整形		
315	SX01	石棒	珪化木	64.1	24.2	14.2	26.0			
316	SX01 (A-3)	石刀	綠泥片岩	118.6	29.0	17.3	96.2			
317	表土掘削 北側	石皿	砂岩	70.6	59.9	25.5	78.8	両面使用		
318	SK03 (A-4)	不明石器 未製品	安山岩	125.6	57.5	41.5	405.0	敲打により整形。一面研磨		
319	SX01	刮石	泥岩	49.6	60.4	23.3	75.0			
320	SX01	刮石	砂岩	61.8	53.8	37.2	121.0			
321	SK05 No.25	敲石	砂岩?	103.3	76.9	50.6	545.0	ハンマーストーンとして利用か		
322	C-2	西石+敲石	砂岩	63.4	56.1	37.3	197.0			
323	試掘2T 西壁包土層	砾石	安山岩	108.5	66.2	26.0	238.0	分側形打製石斧を転用 元になった打製石斧は片面に厚擦面残存		

表 12 遺物観察表 (11) (石器)

## 第4章 総括

調査では、今まで富山市内では調査例の少ない縄文時代後期中葉から晩期の集落跡を確認した。

### 第1節 吉作遺跡の遺構変遷

調査区は南東から北西に緩く傾斜する地形である。全域から、縄文時代後期中葉～縄文時代晩期を主体とする遺構を確認した。

SX01は調査区北西に広がる深さ1.25mの自然地形の谷部である。今回調査した部分を水源とする谷頭と考えられ、発掘調査時も休憩時数分水中ポンプを止めるだけで水深30～40cmに達するほど激しく湧水した。ここから縄文土器・土製品・石器が遺構埋土全体から大量に出土した。縄文土器はほとんど接合できなかったことから、壊されて廃棄された可能性が高い。遺物には土偶や石刃など祭祀に関連する遺物があることから、SX01の遺構の性格は水に関する何らかの祭祀が行われたと考えられる。

このSX01を中心とした調査区全体の遺構分布および変遷は、縄文時代後期中葉に、調査区の北西部部分にSX01広がりはじめ、SK18やSK28が調査区の山側に作られる。このため縄文時代後期の居住域は調査区南東側の標高の高い部分に広がっていると推定される。縄文時代晩期前葉には、SX01は引き続き上器廃棄遺構として存在し、SK03やSK15・16が調査区のほぼ東半分に広がる。どちらも遺構の底面が平らではないため、堅穴建物のような性格の遺構ではなく、土坑のような性格の遺構であると考えられる。縄文時代晩期中葉になると、SX01から少し離れて、SK05やSK14が作られる。SK05付近からは、イノシシ形獸面突起が出土しており、特殊な用途の遺構の可能性がある。なお、縄文時代晩期を通じて、居住城は不明である。

なお調査区で縄文時代以降の遺物は須恵器・土師器数点以外出土しないため、吉作遺跡では、縄文時代晩期以降、人々の生活は途絶え、奈良・平安時代まで人々は生活していなかったと考えられる。

### 第2節 出土土器について

今回の調査では、縄文時代後期・晩期についてまとまった土器が出土し、当該期の富山県内の様相を知る好資料を得た。

出土した縄文土器は、完形品がなく全体のプロポーションが不明なため、他遺跡の調査で出土した土器を踏まえ、文様や調整方法によりおおまかに縄文時代後期と晩期に分けて掲載した。縄文時代後期の土器は、特に14について滑川市本江遺跡、朝日町境A遺跡、金沢市米泉遺跡から類似の土器が出土しており、北陸の後期後葉では広域に分布する土器の可能性がある。238は境A遺跡と桜町遺跡で類似の土器が出土している。239の格子文様は境A遺跡や本江遺跡に類似がある。182は長岡八町遺跡出土土器に類似があり八日市新保I式期、33は井口I～II式期、46・47は八日市新保II式期に該当する。これらに41・42の瘤付土器、250の加曾利B2の影響のある土器も入る様相であると考えられる。

縄文時代晩期の土器は、64・66・69・77・146が桜町遺跡出土の土器に似る。81・82・86の波状口縁頂部を面取りする御経塚式期の口縁が多く見られた。ただし吉作遺跡の場合、外面が無文か縄文という特徴は他遺跡の波状口縁の特徴と違っており、今後、他遺跡の出土土器との比較検討により、県内や北陸の様相が明らかになると思われる。

### 第3節 イノシシ形獸面突起について

今回の調査では、包含層掘削の際にイノシシ形獸面突起が出土した(図24・304、写真図版13下)。出土位置はほぼSK05の位置にある。イノシシ形獸面突起は、イノシシの顔を左斜め前から見た状態を模す。一日見てイノシシと判別できるほど写実的な表現である。形態は横4.3cm、縦2.8cm、厚さ1.05cmのひし形である。色調は5YR7/6橙色で、胎土は密、焼成は良好である。鼻部分を前方とすると、

左面は円形に粘土を貼り付けた突起と棒状工具による沈線で装飾する。ほぼ中央に棒状工具で穴を開けて目を表現する。向かって左端に円形突起を貼り付け、針状工具で2点刺突して鼻を表現する。口と想定される部分には、イノシシ特有の牙が見られないため、いわゆる「ウリボウ」と呼ばれる幼獣を表現している可能性が考えられる。右面は全面に単節繩文を斜めに施す。左面が表面で、右面が裏面と考えられる。獣面の下辺部分に接合痕があるため、土器の一部に接合していた可能性が高い。あるいは土器部分でイノシシの胸部を表現していた可能性も考えられる。イノシシ形獣面突起の時期は、小突起を多用する施文方法であること、SK05から出土した羊歯状文を施す精製の鉢が、同様の色調・焼成・胎土であることから繩文時代晩期・中屋式期と考えられる。

北陸地域の動物意匠について堀沢氏は、北陸地方の動物意匠の傾向について、(1)前期末葉に出現し、中期中葉にピークを迎える、中期後葉まで見られる、その後は後期後葉の井口遺跡まで見られず、晩期は石川県野々市市の御経塚遺跡でイノシシが確認されているのみである。(2)前期はヘビの意匠が多く、繩文時代中期になるとイノシシの動物意匠が増加する、と述べている〔堀沢 2004b〕。

イノシシ形土製品について町田氏は、小竹貝塚出土のイノシシ形土製品について(1)イノシシの幼獣「ウリボウ」である。(2)小竹貝塚のイノシシ形土製品の時期は繩文時代前期後葉であり国内最古となる。中国では繩文時代早期～前期に併行する時期の河姆渡遺跡で出土例がある。(3)イノシシ形土製品は墓域の中でも磨製石斧を複数脇に副葬する、小竹貝塚の中では特殊な埋葬人骨の傍らから出土し、祭祀的な意味合いが強い。と分析している〔町田 2013〕。

繩文時代の全国的なイノシシの意匠について、新津健氏の論考がある〔新津 2011〕。新津氏は、イノシシ形動物意匠について、(1)繩文時代中期初頭に東日本で出現し、繩文時代後期に広域に分布する。(2)繩文時代後期～晩期のイノシシの表現について、表現の仕方(リアルさの程度)からA～D類に分類を試み、A類を「誰にでもイノシシと判断できる」写実的な表現のイノシシである、と定義した。なお、A類は繩文時代後期～晩期を通じて出土する。(3)イノシシ形土製品が出土する遺跡には偏りがあり、出土遺跡からは複数見つかる傾向が強い。このことからイノシシの動物意匠を必要としたムラ(集落)は、限られたムラの可能性がある、と述べられている。

このことから、吉作遺跡のイノシシ形獣面突起には以下の3点が言える。

- (1) 富山県内では繩文時代後葉の井口遺跡のイノシシ形注口土器以降、これまで未確認だった繩文時代晩期のイノシシの動物意匠であることを確認した。
- (2) 吉作遺跡のイノシシ形獣面突起は、新津氏の分類によれば、誰にでもイノシシと判断できる写実的な「A類」である。
- (3) 全国的な出土事例を考慮するとイノシシ形動物意匠は祭祀的な意味合いが強く、出土に偏りがある。SK05は祭祀に関連する遺構であり、吉作遺跡は特殊な集落の可能性がある。

今後、県内や北陸の繩文時代晩期のイノシシ形動物意匠の類例に注目し、検討を試みたい。(細辻)  
＜引用・参考文献＞

- 石川県教育委員会(財)石川県埋蔵文化財センター 2002『金沢市 藤江C遺跡Ⅳ・V 第1分層繩文時代編』  
石川県教育委員会(財)石川県埋蔵文化財センター 2006『加賀市 小杉遺跡』  
石川県立埋蔵文化財センター 1980『米原遺跡』  
井口村教育委員会 1980『富山県井口村 井口I遺跡発掘調査概要』  
宇奈月町教育委員会 2001『鳳凰遺跡－繩文時代石器製作跡の調査－』  
小矢部市教育委員会 2007『富山県小矢部市 桜町遺跡発掘調査報告書 繩文時代編』小矢部市教育委員会  
金沢市教育委員会・石川県鉄鋼団地協同組合 1992『金沢市中屋サワ遺跡』金沢市文化財紀要100  
金沢市教育委員会・医療法人社団鷹寿会 1993『金沢市馬鹿遺跡』金沢市文化財紀要107  
金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2009『石川県金沢市 中屋サワ遺跡Ⅳ－繩文時代編一』金沢市文化財紀要255  
金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2010『石川県金沢市 中屋サワ遺跡V－繩文時代編一』金沢市文化財紀要262  
木下哲夫 1999『酒見式土器成立の構成要件－土器型式内部に於ける波及と受容の様相について－』『繩文土器論集－

- 縄文セミナー 10周年記念論文集一』縄文セミナーの会編  
 小島俊彰 1979「第3章 遺跡・遺物解説 本江遺跡」『滑川市史 考古資料編』  
 小島俊彰・西野秀和・酒井重洋 1994「北陸の土器編年—後期後半～晩期中葉—」『縄文晩期前葉～中葉の広域編年』  
 酒井重洋 1991「3 後期 4 晩期」『北自動車道遺跡調査報告一朝日町編 6～境A遺跡土器編』富山県教育委員会  
 酒井重洋 1992「2 縄文時代後期中葉から晩期の土器について」『北陸自動車道遺跡調査報告一朝日町編 7～境A遺跡總括編』富山県教育委員会  
 酒井重洋 2000「富山市長岡針原遺跡（八町遺跡）出土の遺物」『大境』第20・21号創立50周年記念合併号 富山考古学会  
 酒井重洋 2007「3 桜町遺跡の縄文後期末から晩期の土器変遷について」『富山県小矢部市 桜町遺跡発掘調査報告書 縄文時代縄文編』183-206頁 小矢部市教育委員会  
 酒井重洋 2008「中屋式土器」「絶対縄文土器」762-767頁 ルアム・プロモーション  
 酒井重洋 2008「下野式土器」768-773頁 ルアム・プロモーション  
 財団法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所 2009「竹ノ内II遺跡 梅田遺跡 下山新東遺跡 下山新遺跡 発掘調査報告書 一北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘報告I-1」富山県文化振興財團埋蔵文化財発掘調査報告第42集  
 財団法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所 2010「若菜中村遺跡 向山遺跡 宮沢遺跡 発掘調査報告書 一北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘報告II-1」富山県文化振興財團埋蔵文化財発掘調査報告第46集  
 縄文セミナーの会 2001「第14回縄文セミナー 後期後半の再検討」  
 縄文セミナーの会 2007「第17回縄文セミナー 晩期中葉の再検討」  
 鈴木正博 1999「「酒見式」への途—山内清男の「鉢行」列車に乗って北陸先史土器の旅を楽しむための行進曲—」『縄文セミナー 10周年記念論文集一』縄文セミナーの会編  
 富山県埋蔵文化財センター 2010「縄文時代後期のムラ 井口遺跡 出土品集」富山県出土の重要な考古資料3  
 富山市教育委員会 1970「富山市金草第一号窯跡調査報告」  
 富山市教育委員会 1974「富山市杉谷地内埋蔵文化財ト俯調査報告書」  
 富山市教育委員会 1975「富山市山谷（A・G・H）遺跡発掘調査報告書」  
 富山市教育委員会 1976「富山市古沢・金屋地内古墳概要調査報告書」  
 富山市教育委員会 1977「富山市古沢遺跡概要調査報告書」  
 富山市教育委員会 1981「白鳥城跡試掘調査概要」昭和55年度富山市埋蔵文化財調査報告2  
 富山市教育委員会 1983a「古沢A遺跡発掘調査概要」  
 富山市教育委員会 1983b「白鳥城跡試掘調査概要（Ⅱ）」  
 富山市教育委員会 1987「13 吉作遺跡」「富山市埋蔵文化財調査概要」4.10-11頁  
 富山市教育委員会 1998「富山市豈田大塚遺跡発掘調査概要」  
 富山市教育委員会・富山市埋蔵文化財調査委員会 2000a「埃及新遺跡・向野池遺跡」（仮称）富山西インター・エンジ開連埋蔵文化財発掘調査報告書（2）  
 富山市教育委員会・富山市埋蔵文化財調査委員会 2000b「富山市西金屋遺跡発掘調査概要」  
 富山市教育委員会 2002a「富山市向野池遺跡発掘調査報告書」富山市埋蔵文化財調査報告114  
 富山市教育委員会 2002b「富山市岩瀬天池遺跡発掘調査報告書」富山市埋蔵文化財調査報告121  
 富山市教育委員会 2002c「富山市柳谷南遺跡発掘調査報告書」富山市埋蔵文化財調査報告125  
 富山市教育委員会 2003「富山市開ヶ丘孤谷III遺跡・開ヶ丘中山I遺跡・開ヶ丘中山IV遺跡・開ヶ丘孤谷IV遺跡発掘調査報告書」富山市埋蔵文化財報告127  
 富山市教育委員会・環境事業団富山建設事務所 2003「富山市長岡八町遺跡発掘調査報告書」富山市埋蔵文化財調査報告133  
 富山市教育委員会 2004「開ヶ丘孤谷II遺跡・開ヶ丘孤谷II遺跡発掘調査報告書」富山市埋蔵文化財調査報告135  
 富山市教育委員会 2006「富山市向野池遺跡発掘調査報告書」富山市埋蔵文化財調査報告18  
 富山市教育委員会 2007「富山市金屋南遺跡発掘調査報告書」富山市埋蔵文化財調査報告17  
 富山市教育委員会 2011「富山市内遺跡発掘調査概要V—妙川カタダ遺跡・今市遺跡—」富山市埋蔵文化財調査報告44  
 富山市教育委員会 2014「III 吉作遺跡」「富山市内遺跡発掘調査概要X」富山市埋蔵文化財調査報告61  
 中村由克 2014「6 石材とその原産地の推定」「小竹貝塚発掘調査報告書—北陸新幹線に伴う埋蔵文化財発掘報告X— 第二分冊 純然科学編」富山県文化振興財團埋蔵文化財発掘調査報告第60集、公益財团法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所  
 滑川市史編さん委員会 1979「滑川市史 考古資料編」  
 新津健 2011「猪の文化史考古編」雄山閣  
 西野秀和 2008「御絆塚式土器」「絶対縄文土器」756-761頁 ルアム・プロモーション  
 能都町教育委員会・真庭遺跡発掘調査会 1986「石川県能都町 真庭遺跡」  
 文化庁文化財部記念物課 2010「発掘調査のてびき」  
 堀沢祐一 2004a「古代の姫負郡の祭祀場か 花の木C遺跡」『富山市の遺跡物語』No.5 富山市教育委員会埋蔵文化センター  
 堀沢祐一 2004b「北陸地域の動物意匠について」『考古学ジャーナル』No.515 ニューサイエンス社  
 町田賀一 2013「イノシシ形土製品」「富山考古学研究」紀要第16号（公財）富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所  
 南久和 2001「編年 一その方法と実際」南書会



北側調査区遺構検出（西から）



南側調査区遺構検出（西から）



調査区遺構検出状況（北西から）



遺構検出状況（南西から）



SXO 1 遺物出土状況（北西から）



SXO 1 遺物出土状況（南西から）



SK03・SK05 遺物出土状況（東から）



調査区西側完掘（北から）



調査区東側完掘（南から）



調査区北側完掘(北東から)



調査区東側完掘(東から)



SX01完掘(北西から)



調査区北側完掘(北東から)



SX01完掘(北東から)



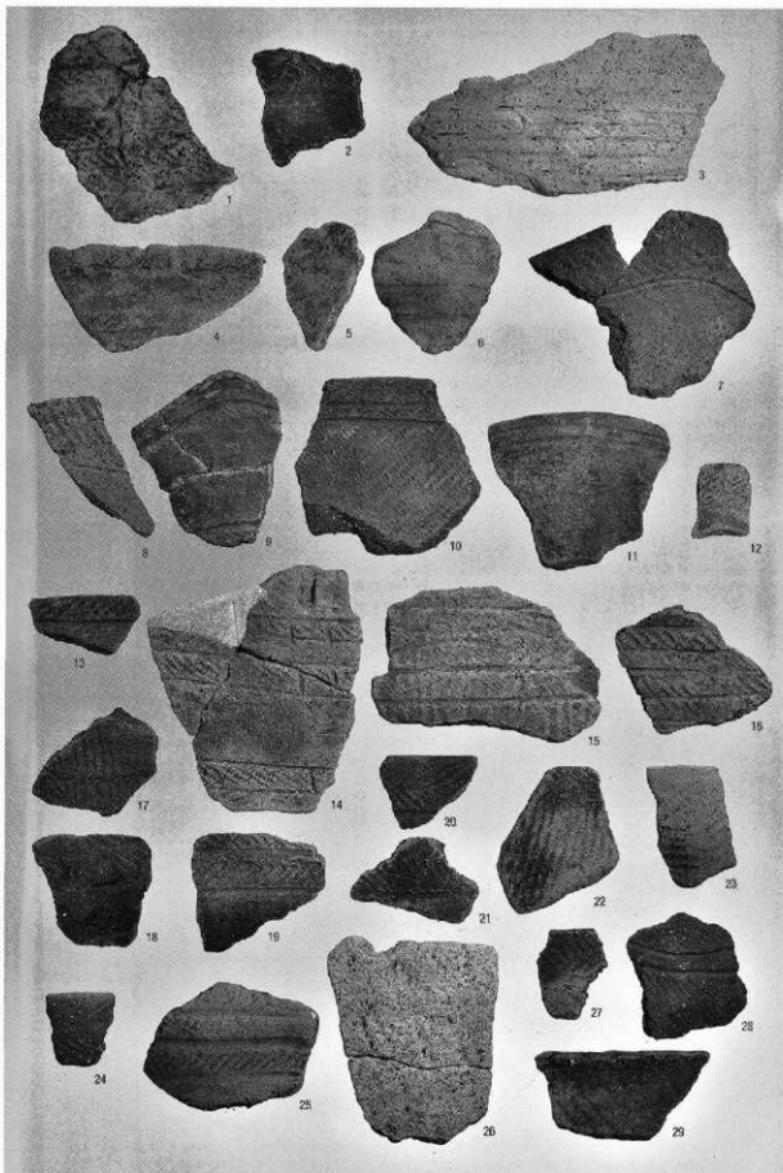
SK03完掘(北西から)

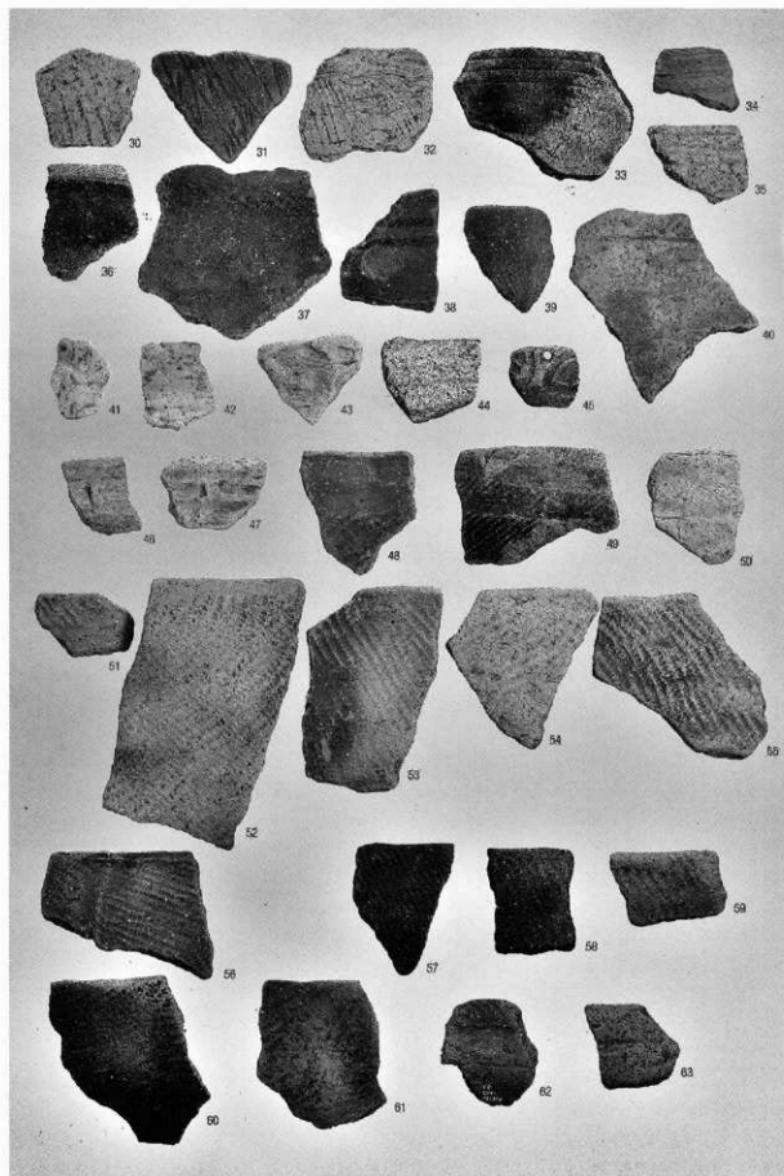


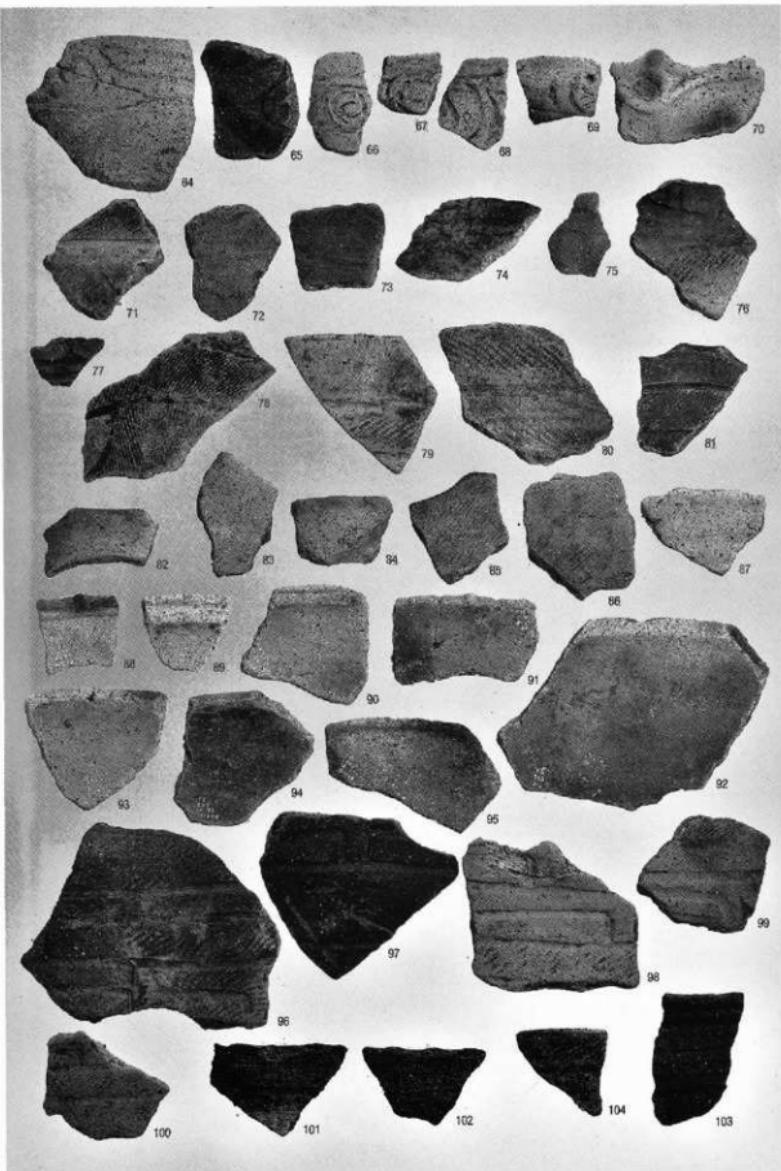
南側調査区完掘(東から)

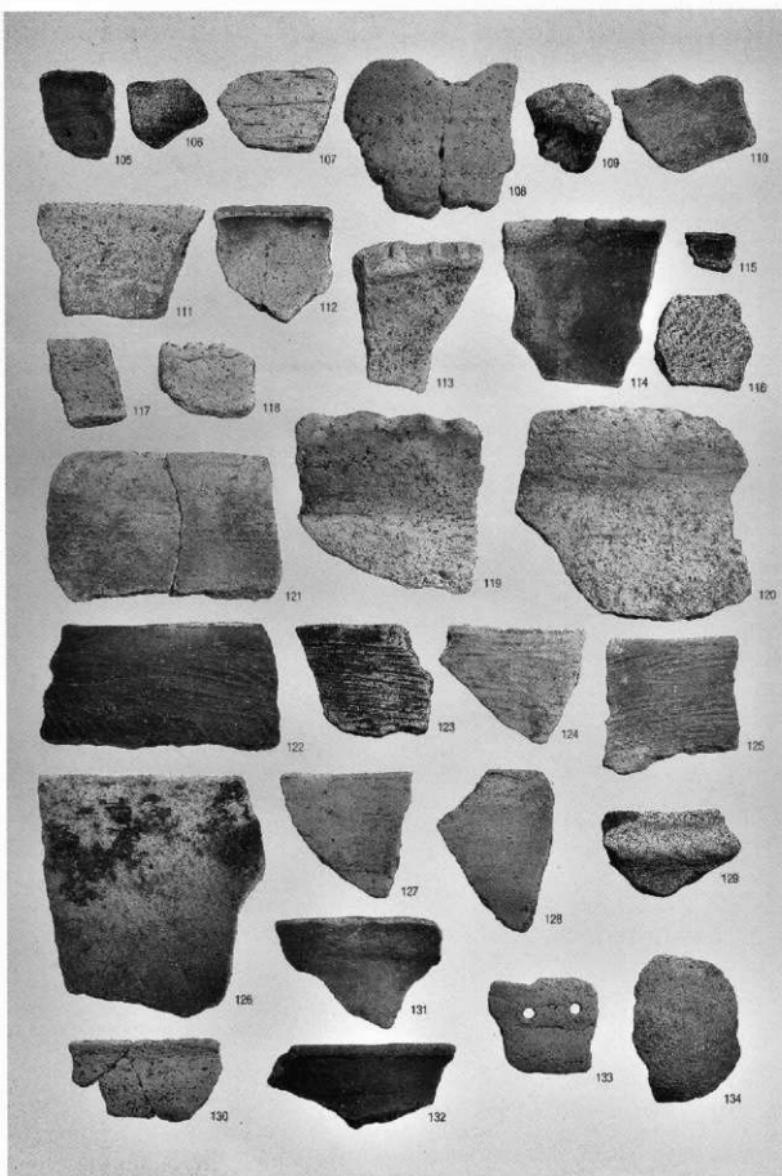


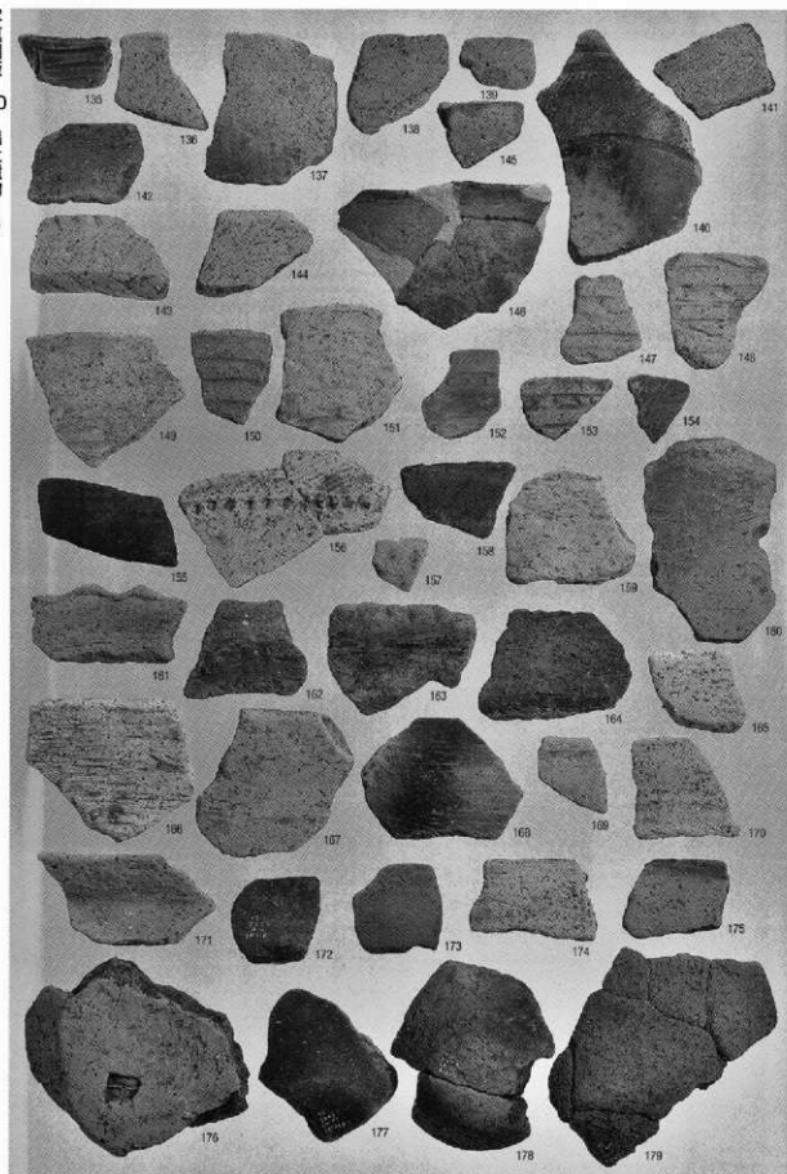
南側調査区完掘(西から)

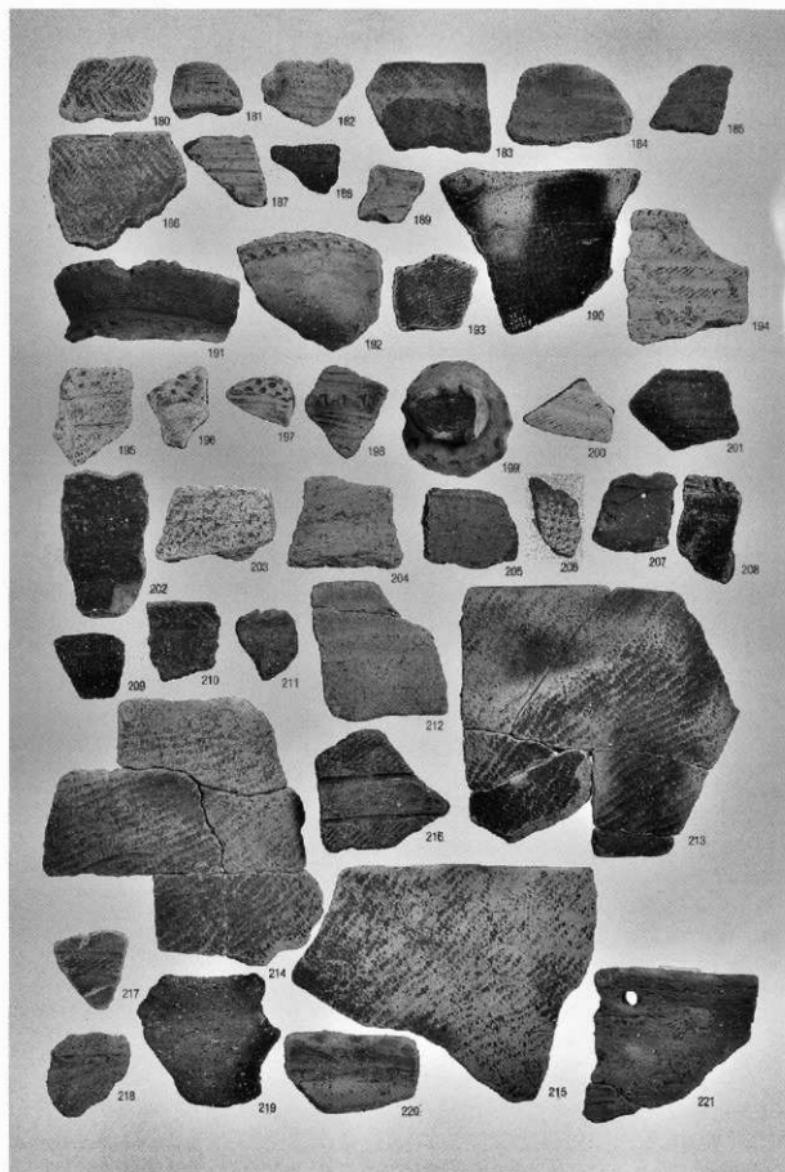


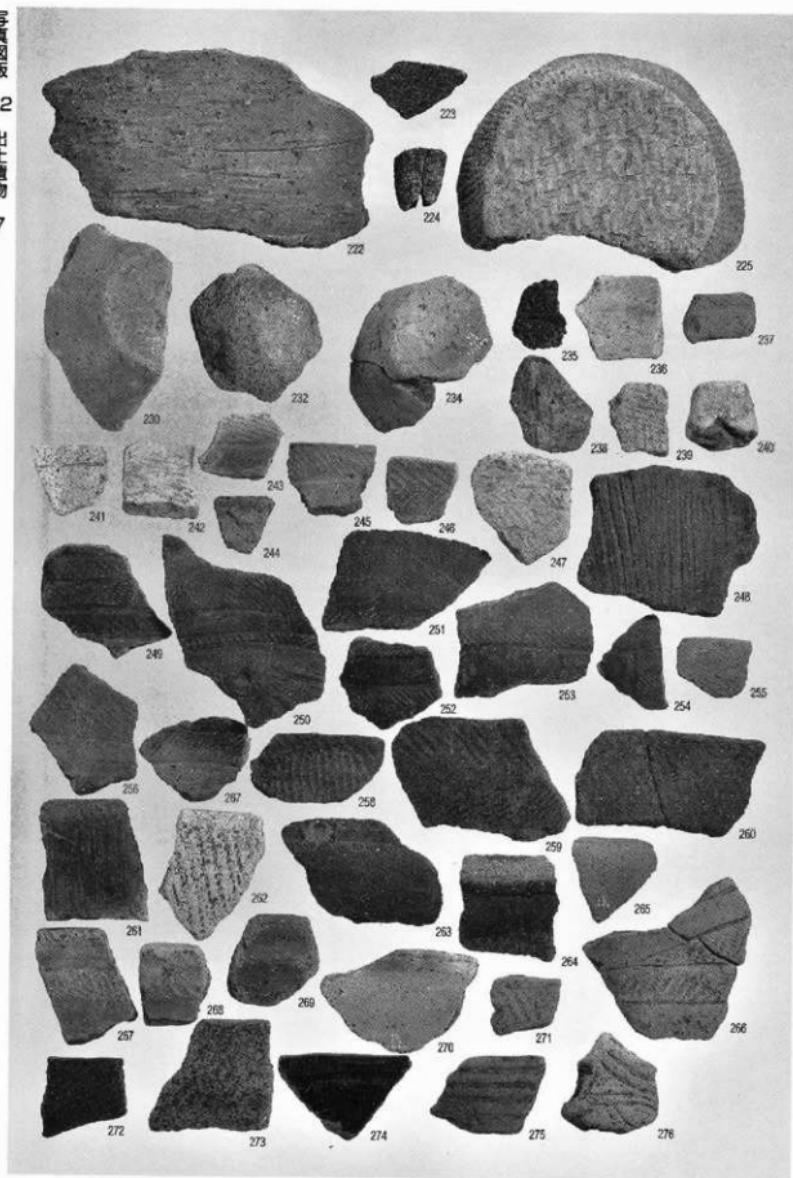


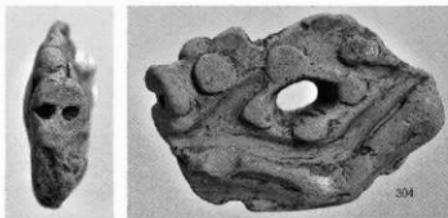
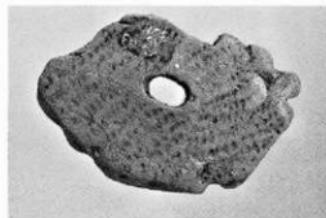
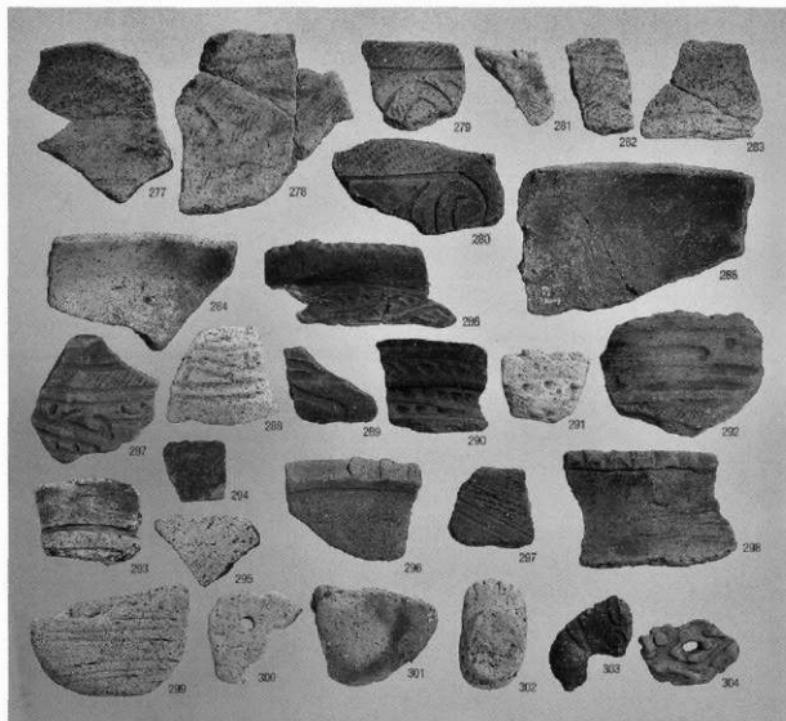


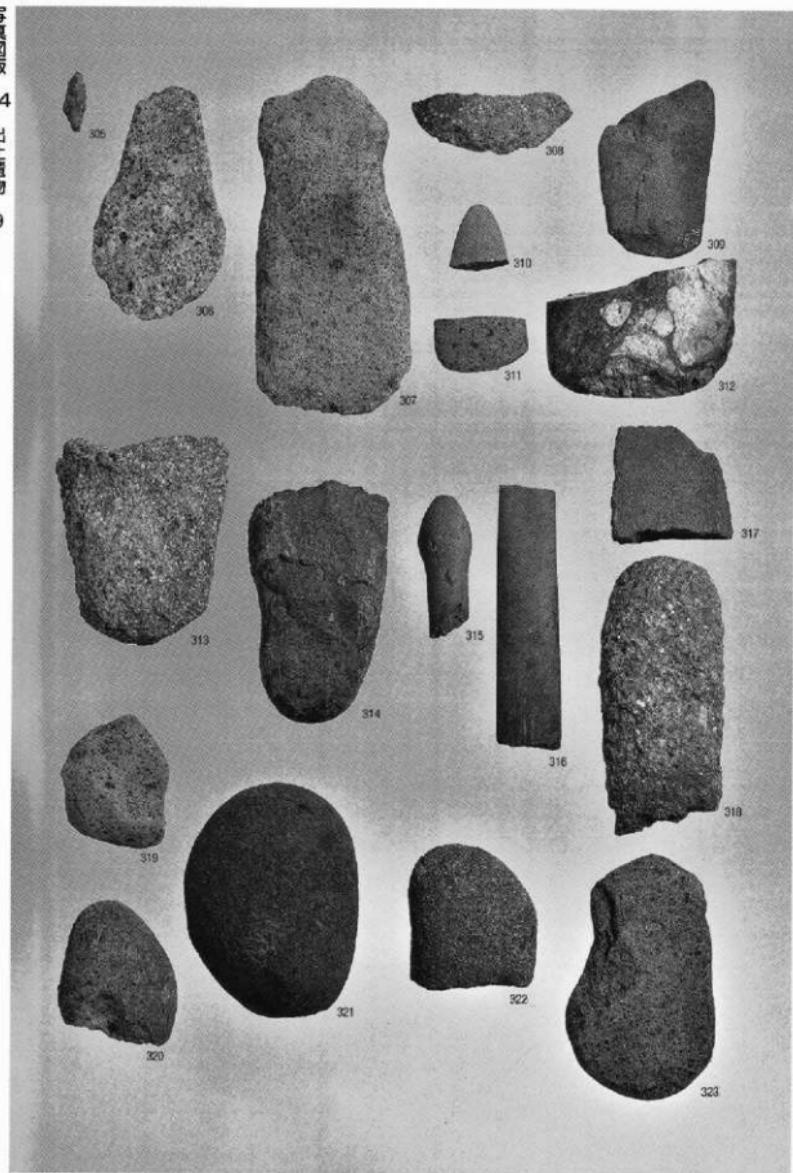












## 報告書録

ふりがな	とやましないいせきはくつちょうさがいよう じゅうろく							
書名	富山市内遺跡発掘調査概要 X VI							
副書名	吉作遺跡							
シリーズ名	富山市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	80							
編著者名	細辻嘉門・三上智丈・納屋内高史							
編集機関	富山市教育委員会 埋蔵文化財センター							
編集機関住所	〒930-0091 富山市愛宕町1丁目2-24 Tel. 076-442-4246							
発行年月日	西暦2016年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査 原因
吉作遺跡	富山市住吉地内	16201	2010111	36° 42° 06°	137° 09° 38°	2013.12.05～ 2013.12.27	65.82	個人住宅 建築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
吉作遺跡	集落・窯	縄文後期 ・晩期	土器廃棄遺構・ 土坑・ピット	縄文土器・土偶・イノシシ形獸面突起・石棒・石刀・磨製石斧・打製石斧			縄文時代後期～晩期の土器廃棄遺構・土坑を検出した。	
		奈良・平安		須恵器・土師器				
要約	<p>調査区全域で縄文時代後期中葉～晩期中葉の遺構を確認した。調査区北西に広がるSX01は、調査区付近が水源とみられる谷地形を利用している。出土した縄文土器はほとんど接合できないため、壊して廃棄したと考えられる。出土遺物の中には土偶や石刀、赤彩された土器など、祭祀関係の遺物があり、水に関する祭祀が行われた後、土器は縄文時代後期中葉～晩期中葉を通じて壊して廃棄された遺物と推定される。</p> <p>SK05付近から出土したイノシシ形獸面突起は、左面から見たイノシシの顔を写実的に表現する。縄文時代晩期のイノシシの動物意匠としては、県内初の出土例になる。イノシシに関する遺物は、祭祀に関係する遺構からの出土が多く、SK05は祭祀関係の遺構である可能性がある。また、出土遺跡が偏ることから、イノシシの動物意匠が出土した遺跡は、特殊な性格の集落の可能性がある。</p> <p>調査区内には、被熱を受けた礫が多量に見られることから、堅穴建物の炉石と考えられ、調査区の山側周辺に集落が広がる可能性が高い。</p>							

富山市埋蔵文化財調査報告80

## 富山市内遺跡発掘調査概要XVI

### —吉作遺跡—

発行日：2016年(平成28)年3月31日

発行：富山市教育委員会

編集：富山市教育委員会 埋蔵文化財センター

〒930-0091

富山市愛宕町1丁目2番24号

T E L : 076-442-4246

F A X : 076-442-5810

E-mail : maizoubunka-01@city.toyama.g.jp

印 刷：中央印刷株式会社

